

石器：墳底から礫・礫片が出土し、覆土からは剥片、磨製石斧（3）、磨製石器片、礫・礫片、未分類土製品（4・5）が出土している。3は磨製石斧。刃部は一部破損が認められる。主面は縦方向に研磨され平坦である。側縁は敲打痕を残し、ほとんど研磨されない。片刃で刃縁は直刃である。

(広田良成)

4・5は土版とみられる。同一個体であるが接合しない。表面に調整、圧痕はみられず、やや摩滅している。色調はにび黄褐色で、黒褐色の部分もある。

(立田 理)

P-93 (図Ⅲ-56)

位置 R-13・14

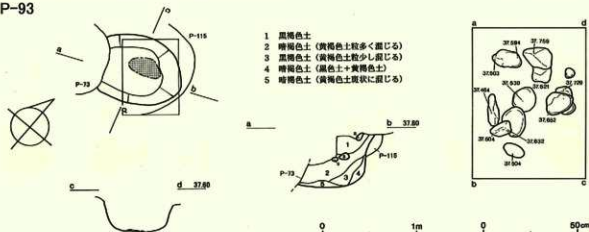
規模 $(1.01) \times 0.73 / (0.70) \times 0.52 / 0.55$

特徴 P-73の調査過程で検出された。半割して調査したところ2基の土壌が入り子状に重複していることがわかり、内側の新しいほうの遺構をP-93、外側のP-93に切られている遺構をP-115とした。平面形は長円形と推定される。底は平坦で壁は急に立ち上がる。底面の東側の壁からベンガラが検出された。覆土の上部からは10cm前後の大きさの礫が10個以上まとまって出土している。これらの礫は埋葬時の儀礼に係るものと考えられる。P-73との前後関係は不明。

遺物 砥石、礫・礫片、軽石が出土している。

(工藤研治)

P-93



図Ⅲ-56 P-93

P-102 (図Ⅲ-57)

位置 Q-15

規模 $1.16 \times 0.90 / 0.93 \times 0.57 / 0.64$

特徴 Ⅲ層中部で15~20cm前後の礫が環状に並んでいるのを確認できた。炉跡かと考えたが、半割して調査したところ、その下位にある土壌墓に伴う礫であることがわかった。礫に囲まれた部分を掘り下げると2~3cmほど下位から両面調整石器、つまみ付ナイフ、スクレイパー、石斧、軽石等が重なり出土した。これらの石器等は墓の上面に供えられたものと考えられる。墓の平面形は長円形に近く、長軸方向は東-西である。底は平坦で壁は急角度で立ち上がる。底面からベンガラが検出された。調査過程でP-107を切っているのを確認した。

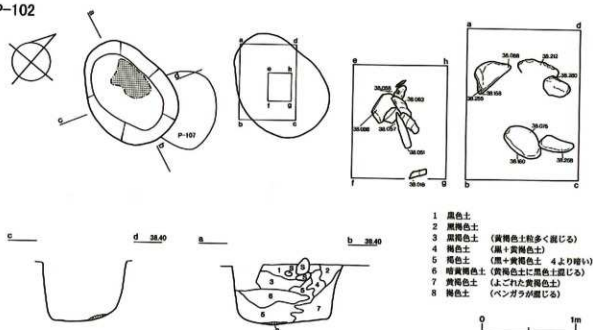
遺物 (図Ⅲ-58)

土器：覆土からⅡ群A類土器の小片が出土している。

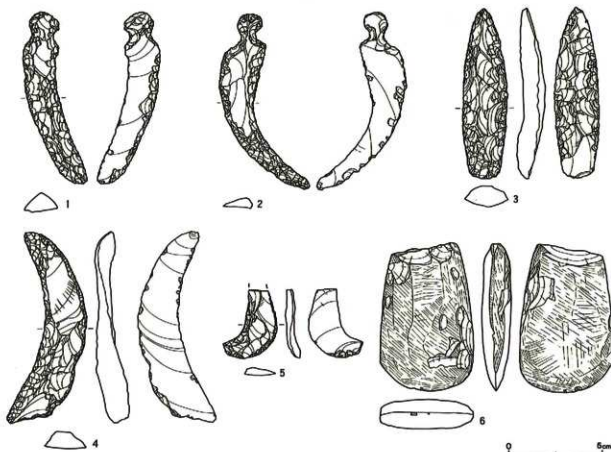
(工藤研治)

石器：覆土から石鏃、つまみ付きナイフ（1・2）、両面調整石器（3）、スクレイパー（4・5）、剥片、磨製石斧（6）、礫・礫片、軽石が出土している。1、2はつまみ付きナイフ。どちらも背面

P-102



図Ⅲ-57 P-102



図Ⅲ-58 P-102出土の遺物

右側縁に急角度の刃部を作り出し、腹面右側縁に加工が認められる。刃部の加工は丁寧で、刃縁には細かい剥離痕をもつ。1は縦長剥片素材で打面を残す。表面の稜線はほぼ中央にある。2は稜線が右側縁に偏る。刃部は大きく湾曲し末端部は尖る。刃部の加工は丁寧で挟り部の加工は深い。3は両面調整石器。袋状石器の可能性もあるが、刃部幅が狭く、厚みもあるため両面調整石器に含めた。横長剥片素材で裏面に素材面を残す。丁寧な加工が施され、色調は黄褐色と紫色が縞状に重なり鮮やかである。4、5はスクレイパー。形状は共につまみ付きナイフに似て、平行し湾曲する刃部をもつが、つまみ部が認められない。4は片面加工で2側縁と末端部に刃部が作り出される。左側縁の刃部は長い急角度の加工で作られ、右側縁の刃部は中央やや下で浅い挟りが入る。腹面には散発的に細かい剥離が認められる。5は上面が折れ面で周辺加工を施すもの。左側縁の加工は丁寧である。6は磨製石斧。基端部を欠損するが、再加工が認められる。偏平で主面は主に斜方向、側面は縦方向に研磨され、主面と側面の間の稜線は明瞭である。鋤は両面共にはっきりしない。刃部は横方向の研磨により研ぎ出されている。刃部は両刃で刃縁はやや左に上がる偏刃ある。

(広田良成)

P-63 (図Ⅲ-59)

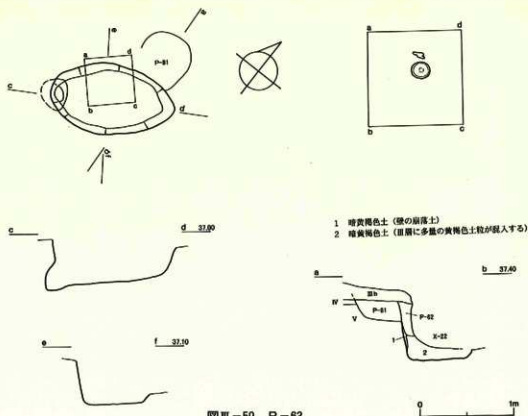
位置 R-12

規模 $1.34 \times 0.76 / 1.17 \times 0.62 / 0.58$

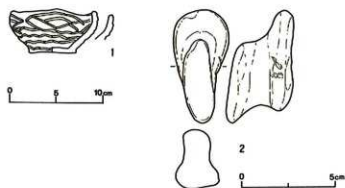
特徴 調査区西側の斜面部に位置する。X-22の調査中に確認した。平面形は楕円形である。X-22・P-62・81と重複している。覆土はⅢ・Ⅴ層が混入した埋め戻しである。南東側の壁はP-62の構築時に失われている。填底は南西側に向かって緩く傾斜している。立上りは急で壁との境は明瞭である。長軸方向の南西壁には径約30cmの袋状の小ピットが検出されている。

遺物の出土状態 填底から小型の鉢形土器と異形自然石が出土している。これらは土壌中央部の北西側で並び置かれた状態で発見された。土器は完形品で口縁部を上に向けた状態で確認されている。

P-63



図Ⅲ-59 P-63



図Ⅲ-60 P-63出土の遺物

時期 出土した土器からみて縄文時代前期後半のⅡ群B類土器の時期と考えられる。

(佐藤和雄)

遺物 (図Ⅲ-60)

土器：墳底から完形のⅡ群B類土器(1)が1個体出土した。1は口縁部がやや内傾する背の低い小型の鉢で、口縁部には低い山形突起が4か所ある。無文地に断面の丸い棒状工具による沈線文が施されており、体上半には交叉する波状の文様、下半には小波状の文様が描かれている。口唇断面は丸く、口唇から内面にかけて丁寧になで調整されている。胎土には繊維が含まれている。大木2b～3式あたりに相当するものであろうか。便宜的にⅡ群B類と記載している。(工藤研治)

石器：墳底から異形自然石(2)、覆土からは剥片、礫・礫片が出土している。2は異形自然石。特に加工は認められず、全体的に滑らかな曲線で構成されている。

(広田良成)

P-99 (図Ⅲ-61)

位置 R-15

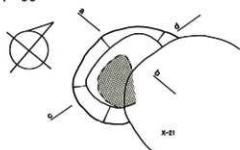
規模 $1.23 \times (0.48) / 0.88 \times (0.35) / 0.57$

特徴 X-21の調査過程でより古い遺構を確認できた。半割して調査したところ底面の広い範囲からベンガラが検出された。X-21に切られているが、平面形は長円形に近いと推定される。底は平坦で壁はやや緩やかに立ち上がる。Ⅲb層から掘り込まれている。

遺物 覆土から剥片が出土した。

(工藤研治)

P-99



図Ⅲ-61 P-99

P-135 (図Ⅲ-62)

位置 S-16

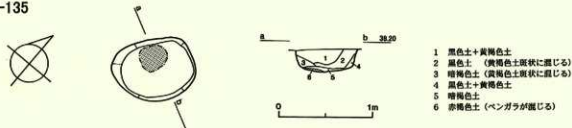
規模 $0.90 \times 0.65 / 0.78 \times 0.56 / 0.24$

特徴 V層上面で褐色土の円形の落ち込みを確認できた。半割して調査した結果、底面からベンガラが検出された。平面形は長円形に近い。底面はほぼ平坦で壁は急に立ち上がる。

遺物 出土していない。

(工藤研治)

P-135



図Ⅲ-62 P-135

P-146 (図Ⅲ-63)

位置 Q-14・R-14

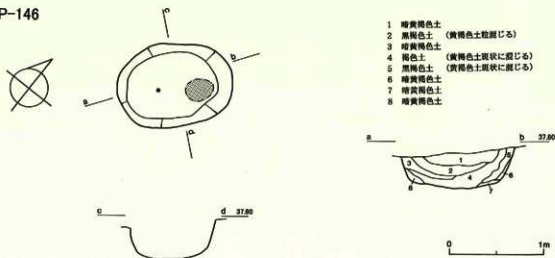
規模 $1.22 \times 0.88 / 0.98 \times 0.71 / 0.43$

特徴 V層上面で暗黄褐色土の円形の落ち込みとそれを取り囲むように褐色土が環状に堆積しているのを確認できた。半割して調査した結果、遺構とわかった。平面形は長円形。長軸方向は南西—北東であり、底面北東側からベンガラが検出された。底面はほぼ平坦で壁はやや緩やかに立ち上がる。

遺物 覆土からI群A類土器の小片、剥片、礫が出土した。

(工藤研治)

P-146



図Ⅲ-63 P-146

P-147 (図Ⅲ-64)

位置 R-16

規模 $(0.87) \times 0.84 / (0.74) \times 0.58 / 0.44$

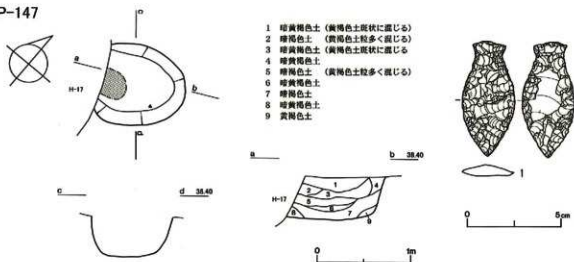
特徴 住居跡H-17の調査過程でH-17に切られている遺構を確認できた。半割して調査した結果、底面からベンガラが検出された。平面形は長円形に近いと推定される。長軸方向は南西-北東であり、ベンガラは南西側の底で検出された。

(工藤研治)

石器 墳底からつまみ付きナイフ(1)が出土している。1は黒曜石製のつまみ付きナイフ。ほぼ左右対称の形で末端部は尖頭状を呈する。平坦剥離を基本とした両面加工が施され、裏面に素材面を残す。側縁は挟り部から刃部にかけて緩やかな曲線状を呈する。

(広田良成)

P-147



図Ⅲ-64 P-147と出土の遺物

P-71

位置 Q・R-13

規模 $1.24 \times 0.88 / 1.06 \times 0.70 / 0.40$

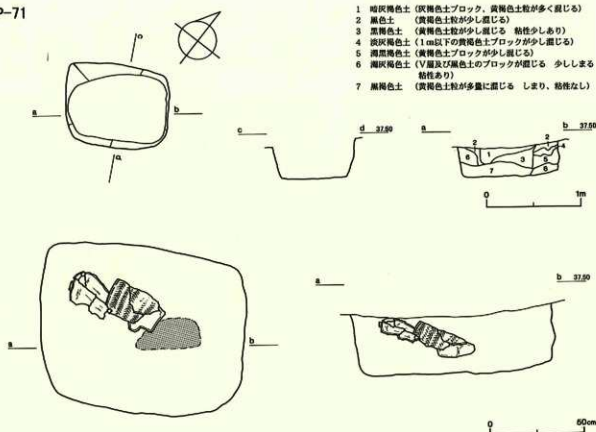
特徴 調査区西側の段丘縁辺部に位置する。IV層上面の調査中に黒褐色土の広がりが検出された。いくつかの遺構の切り合いを想定して長軸上にベルトを残してV層まで掘り下げた。その結果、円形と隅丸長方形の二つの落ち込みを検出した。前者はP-68で、後者の本遺構が新しい。平面形は北東-南西方向に長い隅丸の長方形である。壁面は西側隅を除いてほぼ垂直に立ち上がる。墳底は西側の角を欠く隅丸方形で、ほぼ平坦である。覆土は黄褐色土ブロックが混じる暗褐色～黒褐色土であり、人為的埋め戻しによるものとみられる。

遺物の出土状況 土層断面図の7層に接するように土器がまとまって出土した。土器は破片が東西方向に横倒しになっており、口縁部を西にむけ、底部付近は土壌のほぼ中心に位置する。底部付近には礫を伴う。さらにその礫の下に一部隠れるような状態で、ベンガラが検出された。土壌の中心から東側に広がっている。

時期 土器の所属時期が不明なためはっきりしないが、縄文前期から中期のものと考えられる。

(立田 理)

P-71

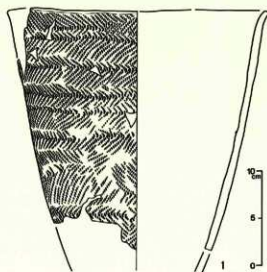


図Ⅲ-65 P-71

遺物 (図Ⅲ-66)

土器：覆土からⅡ群B類、Ⅲ群A類土器(1)が出土している。1は口縁部がやや外反する深鉢土器で、全面に結束羽状縄文が施されている。口唇断面は角形で角がやや丸みを帯びる。所属時期は明らかではないが便宜的にⅢ群A類として記載する。

(工藤研治)



図Ⅲ-66 P-71出土の土器

P-152 (図Ⅲ-67)

位置 R-16

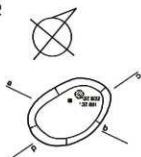
規模 $0.91 \times 0.62 / 0.74 \times 0.46 / 0.33$

特徴 V層上面で黒褐色土の円形の落ち込みを確認できた。半割して調査したところ土壇とわかった。平面形は長円形に近い。長軸方向は南西—北東であり、底面の北東側からベンガラが検出された。底面は平坦で壁は急に立ち上がる。

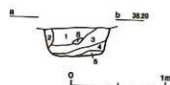
遺物 出土していない。

(工藤研治)

P-152



- 1 黒褐色土 (黄褐色土面状に覆じる)
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗褐色土 (黄褐色土面状に覆じる)
- 4 灰褐色土
- 5 暗黄褐色土



図Ⅲ-67 P-152

(3) 土 壌 (図Ⅲ-68~79)

Ⅲ層中・下部では49基の土壌が検出された(土壌墓・フラスコ状ビットを除く)。時期や用途の明らかかなものは少ない。ここでは主に時期の明らかなものや特に説明を要するものについて記載する。個々の土壌の位置・規模等については遺構一覧(表-13)に記載している。また、出土遺物については別に一括して記載する。

P-16・17はH-6・7・8調査時にV層上面で確認されたものである。P-17からは覆土下部からI群B類土器が1個体分つづれた状態で出土した。縄文時代早期の土壌と考えられる。P-16はH-8、P-17を切ってつくられているもので、覆土からI群B類土器が出土している。

P-4は土器が埋設されていた小型の土壌である。Ⅲ層中部でⅡ群A類土器が倒立して出土したのでその周囲を少し掘り下げて土壌を確認できた。出土遺物から縄文時代前期と考えられる。

P-13、P-14、P-15はH-6を切ってつくられている。P-15では覆土から1個体分のⅡ群A類土器がまとまって出土している。縄文時代前期の遺構と考えられる。P-13、P-14も覆土からⅡ群A類土器が少し出土している。P-13はP-14、P-15を切ってつくられている。

P-29、P-31は重複する小型の土壌である。P-29のほうが新しい。P-29はⅢ層中部で壕の盛土が落ち込んでいたため確認できた。平面形はほぼ円形。底面は平坦で壁はやや緩やかに立ち上がる。覆土からⅢ群B類土器がまとまって出土した。P-31の覆土からも同一個体の破片が少し出土した。

P-60はX-23の調査過程で確認された小型の土壌である。X-23に切られている。半割して調査した結果、覆土からはほぼ完形の小型のⅢ群土器が横倒しの状態で出土した。覆土の堆積状態や遺物の出土状態から墓の可能性もある。

P-55はⅣ層上部で黒褐色土の落ち込みとして確認できた。付近の土層断面からⅢb層から掘り込まれた遺構と分かった。覆土下部から底面にかけては礫がまとまって出土している。

P-125、P-151はいずれもH-18の床面で確認した。P-125はH-18の床面で円形の黒褐色土の落ち込みとなっていた。H-18の覆土の調査からP-125はH-18を切っていないと判断される。H-18に伴うものかとも考えたが、柱穴との位置関係から別個の遺構と考えた。H-18より古い遺構と考えられる。P-151はH-18の床面で半円形に近い形の落ち込みとなっていた。半割して調査したところ、H-18の貼り床の粘土に覆われていたことが分かった。平面形はほぼ円形。底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

P-115は墓P-93と入れ子状に重複している土壌である。P-115のほうがひとまわり大きく、P-93に切られている。P-93と重複しているP-73との前後関係は明らかでない。

P-94はV層上面で確認できた土壌で、覆土上部から径20~30cmの礫がまとまって出土した。P-123も覆土上部から径7~10cmの礫が多く出土している。

(工藤研治)

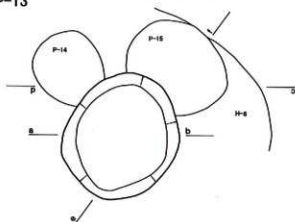
P-4



1 暗褐色土

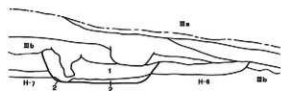


P-13



- 1 暗褐色土 (黄褐色土粒多く混じる 炭化物混じる)
- 2 暗黄褐色土

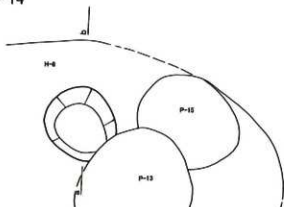
a _____ b 38.50



c _____ d 39.00

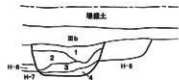


P-14



- 1 暗褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 黄褐色土

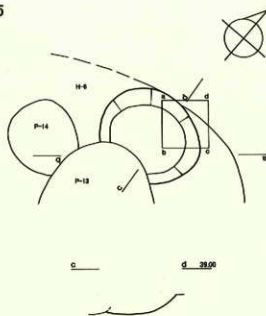
a _____ b 39.50



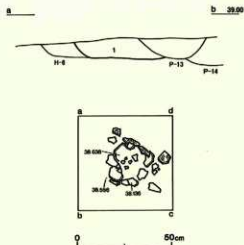
0 _____ 1m

図Ⅲ-68 Ⅲ層中・下部の土壌(1)

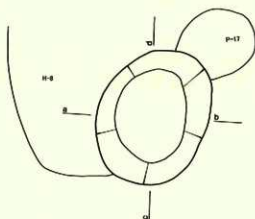
P-15



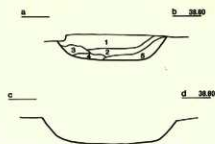
1 暗褐色土 (炭化物混じる)



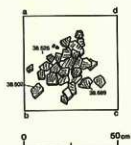
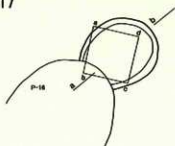
P-16



- 1 暗黄褐色土 (黄褐色土混じる)
- 2 黄褐色土 (炭化物混じる)
- 3 暗褐色土 (黄褐色土混じる)
- 4 暗黄褐色土 (黄褐色土が炭状に混じる 炭化物混じる)
- 5 黄褐色土

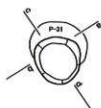


P-17



図Ⅲ-69 Ⅲ層中・下部の土壌(2)

P-29

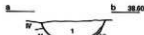


- 1 褐色土 (硬い)
- 2 底褐色土



0 60cm

P-10



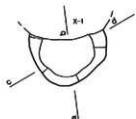
- 1 黒褐色土 (炭化物が混じる 硬い)
- 2 褐色土

P-11

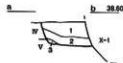


- 1 暗褐色土 (Ⅲ>Ⅴ 炭化物が混じる)
- 2 褐色土 (Ⅲ+Ⅴ 1よりも明るい色)
- 3 黄褐色土 (Ⅴ>Ⅲ V層の黄褐色土にⅢ層の黒色土が混じる)
- 4 黄褐色土 (よこれたV層)

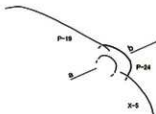
P-12



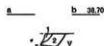
- 1 暗褐色土 (暗黄褐色土粒が混じる)
- 2 暗褐色土 (炭化物が混じる 暗黄褐色土粒が混じる)
- 3 暗黄褐色土 (黒色土混じり)



P-24



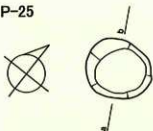
- 1 暗褐色土 (黄褐色土粒が混じる)
- 2 暗褐色土 (炭化物、黄褐色土粒が混じる)



0 1m

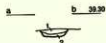
図Ⅲ-70 Ⅲ層中・下部の土坑(3)

P-25



- 1 暗褐色土 (粘質)
- 2 暗黄褐色土 (暗褐色土混じり)
- 3 暗褐色土 (暗黄褐色土混じり)

P-30



- 1 暗黄褐色土
- 2 黒褐色土

P-31



- 1 黒色土
- 2 黒褐色土 (黄褐色土混じり)
- 3 褐色土 (黄褐色土混じり)

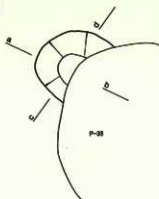


P-32



- 1 黒褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 黒褐色土

P-49

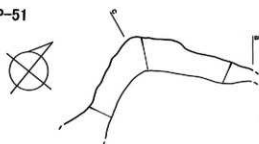


- 1 暗褐色土 (互層に少量のV層が混じる)
- 2 暗黄褐色土 (互層にV層が混じる 硬くしめる)
- 3 黄褐色土 (互、V層が混入 硬くしめる)



図Ⅲ-71 Ⅲ層中・下部の土壌(4)

P-51



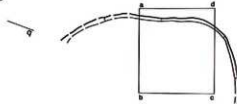
- 1 黒褐色土 (黄褐色土粒が少し混じる)
- 2 暗褐色粘質土 (黄褐色土粒が少し混じる)

a b 38.00

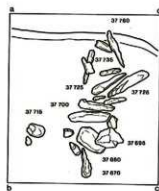
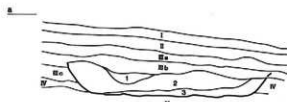


c d 38.00

P-55



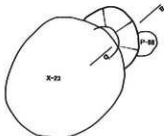
a b 38.50



0 50cm

- 1 黒褐色土
- 2 暗褐色 (黄褐色土粒が少し混じる)
- 3 黒褐色土 (黄褐色土粒が混在に混じる)

P-60

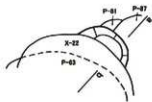


a b



- 1 褐色土
- 2 黒褐色土
- 3 暗黄褐色土
- 4 暗褐色土 (散らかい)
- 5 黄褐色土
- 6 暗褐色土
- 7 暗黄褐色土

P-62



a b 37.40

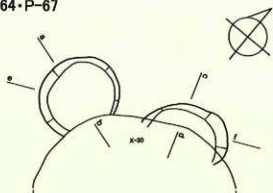


- 1 黒褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 黒褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)

0 1m

図三-72 Ⅲ層中・下部の土壌(5)

P-64・P-67



- 1 黒褐色土 (黄褐色土粒わずかに混じる)
- 2 黒褐色土 (1層より明るい 黄褐色土粒わずかに混じる)
- 3 黒褐色土 (1層とは同じ 黄褐色土粒少し混じる)
- 4 暗褐色土 (黄褐色土粒少し混じる)
- 5 暗褐色土 (4層より明るい 黒褐色土+黄褐色土ブロック 崩落土 軟らかい)
- 6 暗褐色土 (4層より明るく、5層より暗い 黄褐色土粒少し混じる)

a — b 35.30



c — f 35.80

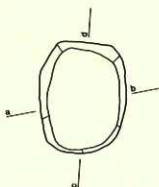


- 1 赤褐色土 (IV層土+黄褐色土粒)
- 2 暗褐色土 (黄褐色土粒少し混じる)
- 3 暗褐色土 (2層より明るい 黄褐色土粒、ブロック少し混じる)

c — d 36.80



P-72



e — f 37.30

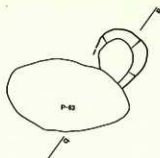


a — b 37.30



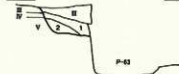
- 1 淡灰褐色土 (2mm程度の黄褐色土粒が少し混じる ややしり、粘性なし)
- 2 灰褐色土 (1cm以下の黄褐色土がやや多く含む、 ややしり、粘性なし)
- 3 灰褐色土 (2よりやや暗く、黄褐色土粒が多く混じる)
- 4 灰褐色土 (2より黄褐色土粒が多い)
- 5 薄灰褐色土 (黄褐色土ブロックが少し混じる しり、粘性ややあり)
- 6 5層にV層が混じる

P-81



- 1 暗褐色土 (Ⅲ層に少量のV層が混じる)
- 2 黄褐色土 (Ⅲ、V層が混入)

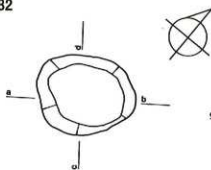
a — b 37.30



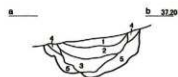
0 1m

図Ⅲ-73 Ⅲ層中・下部の土壌(6)

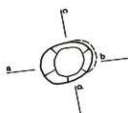
P-82



- 1 灰褐色土 (2mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる)
- 2 灰褐色土 (黄褐色土ブロックが少し混じる)
- 3 褐灰褐色土 (灰褐色土ブロック、黒色土粒がやや多く混じる 粘性あり)
- 4 褐灰褐色土 (しまりあり)
- 5 灰黄褐色土 (灰褐色土ブロックが混じる)



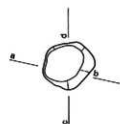
P-83



- 1 黒色土 (直層に極少量のV層が混じる)
- 2 暗褐色土 (直層に多量の塊が混じる)
- 3 暗黄褐色土 (直層にV層が混じる)
- 4 暗黄褐色土 (V層の崩落土)



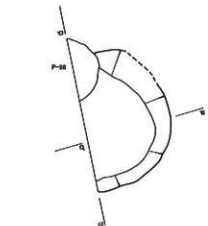
P-84



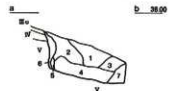
- 1 黒色土 (円礫、灰褐色土ブロックが少し混じる)
- 2 暗灰褐色土 (2mm程度の黄褐色土粒が少し混じる)
- 3 暗灰褐色土 (灰褐色土ブロックが少し混じる)
- 4 褐灰褐色土 (灰褐色土粒が少し混じる)
- 5 黄褐色土 (灰褐色土ブロックが少し混じるしまりあり)



P-86

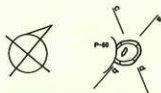


- 1 黒色土 (土礫片、小円礫が混じる)
- 2 暗灰褐色土 (黄褐色土粒が少し混じる)
- 3 黒色土 (灰褐色土が混じる)
- 4 灰褐色土 (礫、土礫片が混じる)
- 5 灰灰褐色土 (黄褐色土粒が少し混じる しまり少しあり)
- 6 褐灰褐色土 (灰褐色土粒が多く混じる)
- 7 灰褐色土



図Ⅲ-74 Ⅲ層中・下部の土坑(7)

P-88



- 1 暗褐色土 (Ⅲ層に少量のⅤ層が混入する しまりがない)
- 2 黄褐色土 (Ⅴ層に少量のⅢ、Ⅳが混入する しまって硬い)

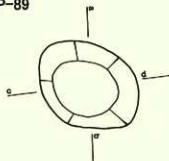
c d 37.90



a b 37.90



P-89

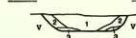


- 1 暗褐色土 (Ⅲ層に少量のⅤ層が混じる 硬くしまる)
- 2 暗黄褐色土 (Ⅲ層にⅤ層が混じる しまりあり)
- 3 黄褐色土 (Ⅴ層に極少量のⅢ層が混じる)

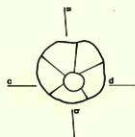
c d 37.40



a b 37.40



P-91



- 1 暗褐色土 (Ⅲ層に少量のⅤ層が混じる)
- 2 黄褐色土 (Ⅴ層腐落土)
- 3 灰褐色土 (Ⅴ層に少量のⅣ層が混じる)
- 4 暗灰褐色土 (Ⅲ、Ⅳ腐落土)

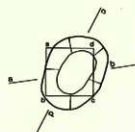
c d 36.90



a b 36.90



P-94



- 1 黒色土 (しまりなくボソボソしている)
- 2 暗灰褐色土 (Ⅲ、Ⅳ層に少量のⅤ層が混じる しまりある)
- 3 黄褐色土 (Ⅴ層に少量のⅣ層と極少量のⅢ層が混じる しまりあり硬い)

a b 36.70



c d 36.70

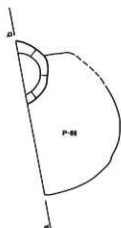


0 50cm

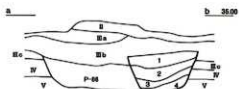
0 1m

図Ⅲ-75 Ⅲ層中・下部の土壌(8)

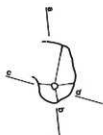
P-98



- 1 暗褐色土 (Ⅲ層に極少量のⅤ層が混じる しまりがない)
- 2 褐色土 (Ⅲ層に少量のⅤ層が混じる)
- 3 暗褐色土 (Ⅲ、Ⅴ層が混入する)
- 4 暗黄褐色土 (Ⅴ層に少量のⅢ層が混じる)



P-100



- 1 暗灰褐色土 (やや硬い 粘質)
- 2 黄茶褐色土 (黄褐色土ブロック、黒褐色土粒が多く混じる)

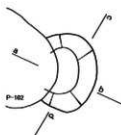
a b 38.00



c d 38.00



P-107



- 1 黒褐色土 (黄褐色土粒少し混じる)
- 2 褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 3 暗黄褐色土 (よごれた黄褐色土)

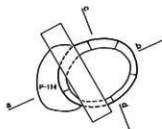
c d 38.30



a b 38.30



P-113



- 1 黒褐色土 (黄褐色土粒多く混じる 炭化物含む)
- 2 暗褐色土

c d 38.40



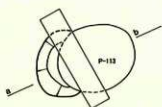
a b 38.40



0 1m

図Ⅲ-76 Ⅲ層中・下部の土坑(9)

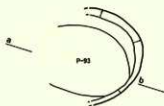
P-114



- 1 黒褐色土
- 2 暗褐色土



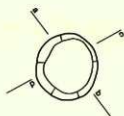
P-115



- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土（黄褐色土斑状に混じる）



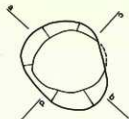
P-119



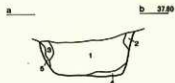
- 1 風褐色土（黄褐色土粒多く混じる）
- 2 暗黄褐色土（褐色土が斑状に混じる）
- 3 暗黄褐色土



P-120



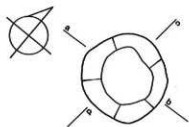
- 1 暗褐色土（黄褐色土粒多く混じる）
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗黄褐色土
- 4 黄褐色土
- 5 黄褐色土



0 1m

図Ⅲ-77 Ⅲ層中・下部の土城⑩

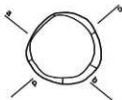
P-123



- 1 増黄褐色土 (厚7~10cmの層多く盛じる)
- 2 増褐色土 (黄褐色土粒多く盛じる)
- 3 黒褐色土 (黄褐色土粒多く盛じる)
- 4 増褐色土 (黄褐色土に黒褐色土底状に盛じる)



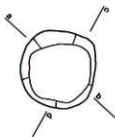
P-124



- 1 黒褐色土 (黄褐色土粒多く盛じる)
- 2 増黄褐色土
- 3 増黄褐色土
- 4 黄褐色土
- 5 増褐色土



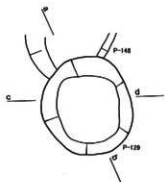
P-125



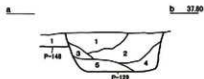
- 1 黒褐色土 (黄褐色土粒多く盛じる)
- 2 黄褐色土
- 3 増黄褐色土



P-129・P-148

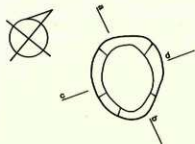


- P-129
- 1 黒褐色土 (黄褐色土粒多く盛じる)
 - 2 増褐色土 (黄褐色土粒多く盛じる 4より明るい)
 - 3 増黄褐色土
 - 4 増褐色土 (黄褐色土粒多く盛じる)
 - 5 黒褐色土 (黄褐色土粒多く盛じる)
- P-148
- 1 増褐色土 (黄褐色土粒多く盛じる)



図Ⅲ-78 Ⅲ層中・下部の土坑(1)

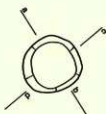
P-151



- 1 暗褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 2 暗褐色土 (1より黄褐色土粒多い)
- 3 暗黄褐色土
- 4 暗黄褐色土



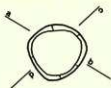
P-153



- 1 黒褐色土
- 2 暗褐色土



P-154



- 1 黒褐色土
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗黄褐色土



図Ⅲ-79 Ⅲ層中・下部の土坑⑫

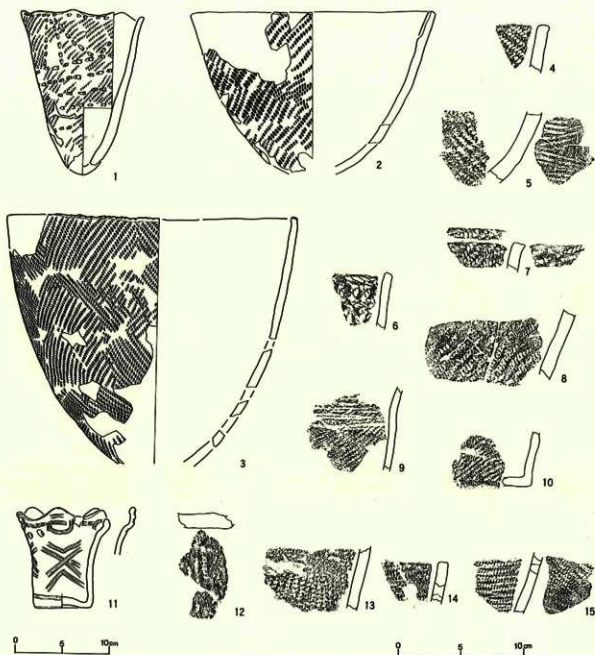
土境出土の遺物 (図Ⅲ-80、81)

土器：P-4 (1)、P-15 (2、4、5)、P-16・17 (3)、P-16 (6～8)、P-51 (9、10)、P-60 (11)、P-86 (12)、P-100 (13)、P-154 (14、15) 出土の資料について記載する。3、5～8はⅠ群B類土器。縄文施文後に器面がなでられて節がややつぶれており、器面の感触は少し「ヌメヌメ」としている。胎土には繊維が多く含まれている。3は口縁部がやや開く尖底土器。L RとR Lの原体で縦位の羽状縄文が施されており、口唇断面は角ばり、口唇にも縄文が施されている。内面は粗く調整されている。5は縄文の施された底部近くの破片で、内面には条痕文が施されている。6は口縁部に2段の原体の縄線文が施されたものである。7は斜行縄文の施されたもの。口唇と内面にも縄文が施されている。8は条の間隔が開いている縄文が施されている。1、2、14、15はⅡ群A類土器。1はP-4から倒立した状態で出土した小型の尖底土器である。縄文地に半截竹管状の工具による不連続な押し引きで文様が描かれている。胎土には繊維が多く含まれている。椀法華式に類するものである。2は口が大きく開く尖底土器で斜行縄文が施されたものである。口唇にも縄文が施されている。口唇断面は角形で内面はなで調整されている。胎土には繊維のほかに砂粒を含み、器面はややザラついている。14、15は横走縄文の施されたもので胎土には繊維が含まれている。15は内面にも縄文が施されている。9、12、13はⅡ群B類土器。9は縄文地に1段の原体の縄線文が数条めぐる。10はⅢ群B類土器の底部。11はP-60の覆土中位から横倒しの状態で出土したもので、口縁部に5か所の山形突起のある小型の土器である。体部には無文地に幅の狭いへう状工具による浅い沈線文が施されている。突起の部分には横位の短い沈線とそれを画する弧状の沈線が引かれ、口縁部には押し引き文がめぐる。胎土には繊維が含まれている。所属時期は明らかでないが、縄文時代中期と考えられる。

(工藤研治)

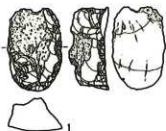
石器：P-13 (1)、P-15 (2・3)、P-16 (4)、P-17 (5・6)、P-33 (7・8)、P-48 (9)、P-109 (10)、P-120 (11)、P-154 (12) 出土の資料について記載する。P-17 (5)とP-109出土の資料は墳底から、他は覆土からの出土である。1はスクレイパー。縦長剥片を素材とし、末端部に湾曲した急角度の刃部を作り出す。刃部の作り出しは丁寧である。腹面と上端面に原石中に含まれる不純物が広く認められる。2はつまみ付きナイフ。周辺加工で稜線は左側に偏る。腹面の左側縁は部分的に、右側縁と末端部には連続する細かい加工が施される。4はスクレイパー。片面加工で柄部が作り出されている。刃部は左右非対称で形状はⅥ群土器に伴う靴形石器に似る。腹面末端部に細かい連続した剥離痕が認められる。5は石鏃。無茎平基で裏面に素材面を残す。薄身で側縁はわずかに外湾する。丁寧な作りで、特に側縁の加工は精緻である。6、7はつまみ付きナイフ。6は斜形で、つまみは棒状を呈し先端が尖る。背面は周辺加工が施され、稜線は右側縁に偏る。刃部は急角度で、腹面の右側縁に細かい加工が認められる。7は縦形で片面周辺加工のもの。つまみ部以外は浅く細かい加工が施される。表面に一部自然面を残す。8は石核。打面を上面に固定し、3面の作業面を移動して剥片を取っている。打面には打面調整が施されている。9は木葉形の石鏃。10はすり石。1側縁を部分的な打ち欠きにより細く整形した後、すっている。裏面の左端部には大きな剥離が1枚認められる。11はたたき石。上部を欠失し、表裏面にくぼみ状のたたき痕をもつ。下端には重複した剥離によるたたき痕が認められる。下部は部分的に被熱し、変色している。12はスクレイパー。上部を欠失する。周縁部に入念な加工により急角度の刃部を作り出す。

(広田良成)

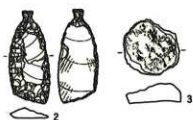


図Ⅲ-80 土坑出土の土器

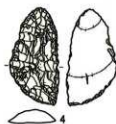
P-13



P-15



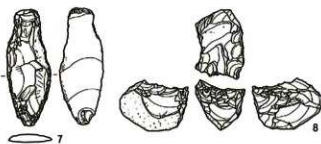
P-16



P-17



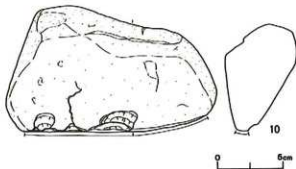
P-33



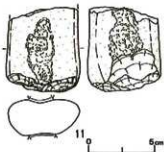
P-48



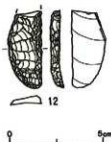
P-109



P-120



P-154



図版-81 土壌出土の石器

(4) フラスコ状ビット (図Ⅲ-82~91)

フラスコ状ピットは調査区東側の平坦部に位置するP-36を除いて、調査区西側の台地縁辺部から斜面部にかけて集中している。この周辺は縄文時代の他の遺構や続縄文時代の墓塚が多く、それらと重複しているものが9基ある。

規模は長径で0.8m前後のことが多い。坑底での規模は $1.54 \times 1.44 \sim 0.68 \times 0.60$ mを測る。P-36が最大、P-85が最小である。深さは1.26~0.42mを測り、P-117が最大、P-85が最小である。

墳底の平面形は円形（P-36・42・50・58・65・73・74・76・79・85・87・90・95・103・104・116・112・132）、楕円形（P-68・75・78・80・117）である。この中には方形に近いもの（P-36・65）、やや不整形を呈するもの（P-74・78・80）もある。墳底は平坦なもの（P-116・117・122・132）や、凹凸が大きいもの（P-74・80・103）がある。斜面に沿って傾斜しているもの（P-36・65・76・78・97・116・122・132）が多い。壁はくびれが強いフラスコ状の断面を持つものが多いが、くびれが弱いものやほぼ垂直になるもの（P-50・73・75・76・80）がある。

覆土は自然に堆積したもの、埋め戻されたもの、下部が自然堆積で上部が埋め戻しのものとがある。自然に堆積したものは墳底や壁際に地山の崩落土の堆積が見られる。(P-36・65・68・73・74・76・78・79・80・117・122・132・150)。埋め戻されたものはⅢ・Ⅴ層の混入が覆土の下部以上にも見られる(P-42・149)。下部が自然堆積で上部が埋め戻しものは自然の流れ込みにより凹みになった時点で土を埋め戻すと考えられる(P-50・58・75・85・87・90・95・97・103・104・116・118)。

埋め戻す際に踏み固めたためか石が多い。

遺物はP-103の覆土上部でI群A類土器がまとまって出土した。他は覆土中に流れ込んだと見られる石器が少量みられるのみである。(図Ⅲ-93)。

(佐藤和雄)

フラスコ状ビット出土の遺物（図Ⅲ-92、93）

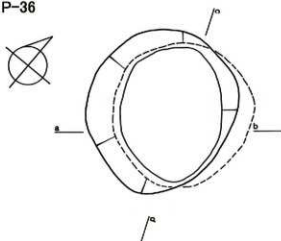
土器：P-103 (1、2)、P-116 (3)、P-117 (4) 出土の資料について記載する。1、2、4はⅠ群A類土器である。1、2には貝殻の背面の押し引き文が施されており、内面には条痕文が施されている。4は表裏ともに条痕文が施されている。3はⅡ群B類土器。

(工藤研治)

石器：P-73（1）、P-90（2）、P-80（3）、P-103（4）出土の資料について記載する。P-103の資料のみ上面からの出土であり、他は覆土からの出土である。1はめのう製の石鏃。無茎凹基で基部は深く内湾する。薄身で裏面に素材面を残し、側縁はやや外湾する。基部及び側縁は細かい加工で丁寧整形されている。2は石槍。薄身で柳葉形を呈する。表面の右側縁中央よりやや上の部分は素材の影響で浅く内湾する。3はすり石。棒状の角礫を素材とし、1側縁にすり面をもつ。すり面周辺は部分的な打ち欠きにより整形している。4は石錘。長軸両端に両面からの打ち欠きによる挟りが作り出される。

(広田良成)

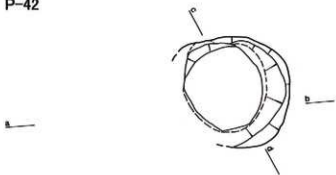
P-36



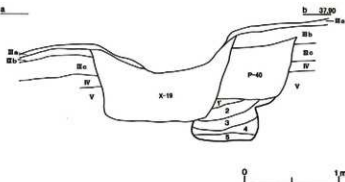
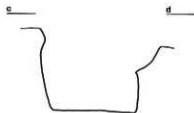
- 1 暗褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 2 黒褐色土
- 3 暗黄褐色土 (黄褐色土+黒 黄褐色土が斑状に混じる)
- 4 暗褐色土 (黄褐色土粒多く混じる 5より暗い)
- 5 暗褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 6 黒褐色土
- 7 暗黄褐色土 (黄褐色土粒多く混じる 9より明るい)
- 8 暗黄褐色土 (黄褐色土斑状に混じる)
- 9 暗黄褐色土 (黄褐色土粒混じる)
- 10 黄褐色土 (よごれた黄褐色土 硬い)
- 11 暗褐色土 (黄褐色土粒多く混じる 7より明るい)
- 12 暗黄褐色土 (暗褐色土に黄褐色土が斑状に混じる)
- 13 暗黄褐色土 (黄褐色土に暗褐色土が斑状に混じる)
- 14 黒褐色土
- 15 黄褐色土
- 16 暗黄褐色土 (暗褐色土に黄褐色土が斑状に混じる)
- 17 黄褐色土
- 18 黄褐色土
- 19 暗黄褐色土 (暗褐色土に黄褐色土が斑状に混じる)



P-42

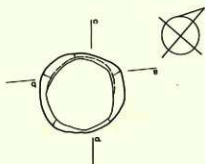


- 1 暗褐色土 (Ⅲ層に少量のⅤ層が混じる 硬くしめる)
- 2 暗黄褐色土 (Ⅲ層、Ⅴ層混入 硬くしめる)
- 3 暗褐色土 (Ⅲ層、Ⅴ層が混じる 硬くしめる)
- 4 黄褐色土 (Ⅴ層に少量のⅢ層が混じる 硬くしめる)
- 5 暗黄褐色土 (Ⅲ層、Ⅴ層混入 硬くしめる)

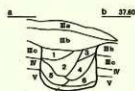


図Ⅲ-82 フラスコ状ピット(1)

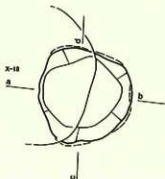
P-50



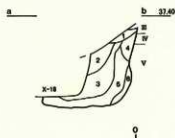
- 1 褐色土 (Ⅲ層にV層が混じる 硬い)
- 2 黄褐色土 (Ⅲ層に極少量のV層が混じる しまりなくボソボソ)
- 3 暗褐色土 (Ⅲ層に少量のV層が混じる 硬い)
- 4 暗褐色土 (Ⅲ層にV層が混じる しまりなくボソボソ)
- 5 暗黄褐色土 (Ⅲ、V層が混入)
- 6 暗褐色土 (Ⅲ層にV層が混じる 硬い)
- 7 黄褐色土 (V層に少量のⅢ層が混じる 硬い)



P-58

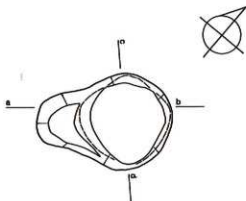


- 1 暗褐色土 (Ⅲ層に少量のV層が混じる しまりがない)
- 2 暗褐色土 (Ⅲ層に少量のV層が混じる 硬い)
- 3 暗黄褐色土 (Ⅲ層にV層が混じる 硬い)
- 4 黄褐色土 (V層に少量のⅢ層が混じる)
- 5 暗黄褐色土 (Ⅲ、V層が混入)
- 6 黄褐色土 (V層に少量のⅢ層が混じる)



図Ⅲ-83 フラスコ状ビット(2)

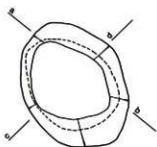
P-65



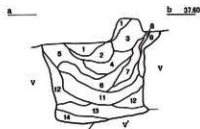
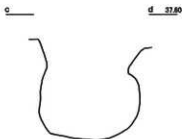
- 1 暗褐色土 (黄褐色土粒少し混じる)
- 2 暗褐色土 (1層より暗い 黄褐色土粒少し混じる)
- 3 暗褐色土 (2層より明るく、1層より暗い 黄褐色土粒混じる)
- 4 暗褐色土 (1層とはほぼ同じ 黄褐色土粒わずかに混じる)
- 5 暗褐色土 (1層より暗い 黄褐色土粒少し混じる)
- 6 黄褐色土 (黄褐色土粒少し混じる)
- 7 黄褐色土 (6層より暗い 黄褐色土粒少し混じる)
- 8 暗褐色土 (3層より暗い 黄褐色土粒少し混じる)
- 9 暗褐色土 (8層とはほぼ同じ 8層より黄褐色土粒多い)
- 10 黄褐色土 (黄褐色土粒少量混じる)



P-68



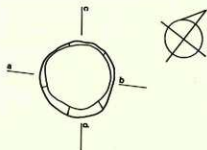
- 1 黒色土
- 2 暗灰褐色土 (2mm程度の黄褐色土粒が少し混じる
しまり少しあり、粘性なし)
- 3 黒色土 (暗灰褐色土が混じる)
- 4 灰褐色土 (1mm程度の黄褐色土粒が多量に混じる)
- 5 暗灰褐色土 (1mm程度の黄褐色土粒が多量に混じる)
- 6 淡灰褐色土 (1mm程度の黄褐色土粒が多量に混じる)
- 7 暗淡灰褐色土 (1mm程度の黄褐色土粒が多量に混じる
やや粘性、しまりあり)
- 8 暗淡灰褐色土 (暗黄褐色土混じる)
- 9 暗黄褐色土 (5mm以下の黄褐色土が多量に混じる
しまりなし、粘性あり)
- 10 暗黄褐色土 (バサバサしている)
- 11 暗黄褐色土 (黄褐色土ブロックが多量に混じる)
- 12 黄褐色土 (暗灰褐色土ブロックが少し混じる)
- 13 淡灰褐色土 (黄褐色土ブロックが少し混じる)
- 14 暗黄褐色土 (バサバサしている)



0 1m

図Ⅲ-84 フラスコ状ビット(3)

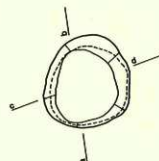
P-73



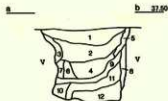
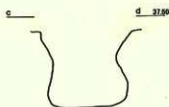
- 1 暗灰褐色土 (2mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる 軟らかい)
- 2 薄灰褐色土 (5mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる やや粘質 軟らかい)
- 3 灰褐色粘質土 (2mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる 軟らかい)
- 4 灰褐色粘質土 (2mm以下の黄褐色土粒が少し混じる 軟らかい)
- 5 薄灰褐色粘質土 (黄褐色土ブロック、黄褐色土粒が多く混じる)
- 6 薄灰褐色土 (灰褐色土ブロックが多量に混じる)
- 7 薄灰褐色土 (黄褐色土ブロックが混じる やや硬い)
- 8 薄灰褐色土 (黄褐色土ブロックが少し混じる やや硬い)
- 9 暗灰褐色土 (5mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる 軟らかい)



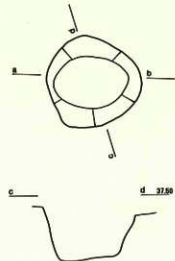
P-74



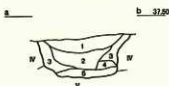
- 1 暗灰褐色土 (2mm程度の黄褐色土粒が多量に含み しまりなし 粘性あり)
- 2 暗灰褐色土 (5mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる ややしりまりあり 粘性なし)
- 3 薄灰褐色土 (黄褐色土ブロック、灰褐色土ブロックが多量に混じる)
- 4 灰褐色土 (2mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる)
- 5 薄灰褐色土 (5mm以下の黄褐色土粒、黒色土粒が多く混じる しまり少しあり 粘性なし)
- 6 暗灰褐色土 (1mm以下の黄褐色土粒が少し混じる)
- 7 暗灰褐色土 (黄褐色土ブロックが少し混じる)
- 8 薄灰褐色土 (1mm以下の黄褐色土粒が少し混じる やや粘質)
- 9 灰褐色土 (黄褐色土、灰褐色土ブロックが少し混じる)
- 10 暗灰褐色土 (黄褐色土粒が多量に混じる)
- 11 暗灰褐色土 (1より少し硬い)
- 12 暗灰褐色土 (黄褐色土ブロックが混じる)



P-75

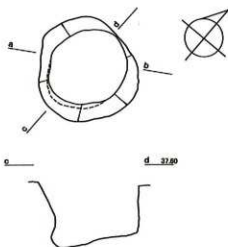


- 1 灰褐色土 (1mm以下の黄褐色土ブロックが多量に混じる)
- 2 薄灰褐色土 (黄褐色土ブロックが多量に混じる)
- 3 薄灰褐色土 (V層がブロック状に多量に混じる ややしりまりあり 粘性なし)
- 4 灰褐色土 (V層がブロック状に少し混じる 多少しまりあり 粘性なし)
- 5 黄褐色土 (V層より軟らかい)



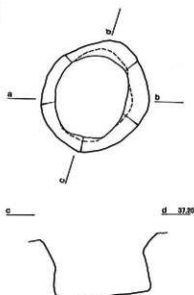
図Ⅲ-85 フラスコ状ピット(4)

P-76



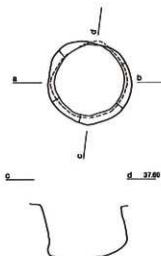
- 1 灰褐色土 (2cm程度の黄褐色土ブロックが少し混じる)
- 2 黄褐色土 (2cm程度の黄褐色土ブロックが少し混じる)
- 3 暗灰褐色土 (黄褐色土粒が少し混じる しまりややあり)
- 4 暗灰褐色土 (灰褐色土粒が少し混み、黄褐色土粒が多量に混じる ややしきりあり)
- 5 暗灰褐色土 (3、4に比べ黄褐色土粒が少ない しまりがなくともい)
- 6 薄灰褐色土 (V層、黒色土粒が少し混じる しまり少しあり)
- 7 薄灰褐色土 (黄褐色土、淡灰褐色土が多く混じる しまり少しあり)
- 8 黄褐色土 (ややしきりあり 粘性あり)
- 9 暗灰褐色土 (少し淡い 粘性多少あり しまりなし)
- 10 黒色土 (黄褐色土がブロック状に混じる しまり多少あり)

P-78



- 1 淡灰褐色土 (2mm以下の黄褐色土粒が少し混じる ややしきりあり)
- 2 淡灰褐色土 (2mm以下の黄褐色土粒が多く混じる ややしきりあり 粘性少しあり)
- 3 淡灰褐色土 (5mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる ややしきり)
- 4 淡灰褐色土 (1より淡い 5mm以下の黄褐色土粒が多く混じる ややしきり)
- 5 淡灰褐色土 (2mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる)
- 6 薄灰褐色土 (黄褐色土ブロックが少し混じる しまりあり)
- 7 薄灰褐色土 (黄褐色土ブロックが多く混じる しまり、粘性あり)
- 8 灰褐色土 (1mm程度の黄褐色土粒が多く混じる 少ししきりあり 粘性あり)
- 9 淡灰褐色土 (しきりなし 粘性あり)
- 10 薄灰褐色土 (しきりあり)
- 11 黄褐色土
- 12 淡黄褐色土 (しきり少しあり)
- 13 暗灰褐色土 (しきりあまりなし 粘性あり)

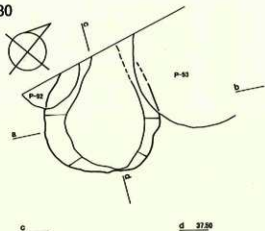
P-79



- 1 灰褐色土 (5mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる)
- 2 淡灰褐色土 (5mm以下の黄褐色土粒が多量に混み、小円礫が混じる)
- 3 暗灰褐色土 (5mm以下の黄褐色土粒が多量に混み、しきり、粘性ややあり)
- 4 薄灰褐色土 (2mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる しきり、粘性ややあり)
- 5 薄灰褐色土 (4+V層がブロック状に混じる)
- 6 黄褐色土 (淡灰褐色土ブロックが混じる)
- 7 薄灰褐色土 (淡灰褐色土ブロックが多く混じる)

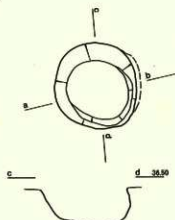
図Ⅲ-86 フラスコ状ビット(5)

P-80



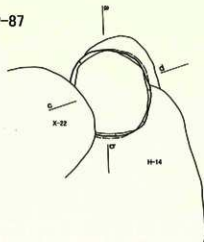
- 1 暗灰褐色土 (1mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる
炭灰褐色土がブロック状に混じる)
- 2 薄黄褐色土 (炭灰褐色土ブロックが多量に混じる)
- 3 黄褐色土 (炭灰褐色土ブロックが多量に混じる ややしめる)
- 4 薄黄褐色土 (炭灰褐色土、暗灰褐色土が斑状に混み、やや硬い)
- 5 炭灰褐色土 (2mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる)
- 6 薄炭灰褐色土 (5mm以下の黄褐色土粒が多量に混じる ややしめる
粘性あり)
- 7 炭灰褐色土 (5mm以下の黄褐色土粒が少し混じる)
- 8 薄炭灰褐色土
- 9 灰褐色土 (2mm以下の黄褐色土粒が少し混じる)
- 10 薄炭灰褐色土 (5mm以下の黄褐色土粒が少し混じる)
- 11 炭黄褐色土 (しまり、粘性のないボソボソの土)
- 12 黄褐色土 (炭灰褐色土ブロックが混じる しまり少しあり)
- 13 黄褐色土 (ややしまり、粘性あり)
- 14 灰褐色土
- 15 炭黄褐色土
- 16 明黄褐色土 (ボソボソした土)
- 17 炭灰褐色土 (粘性ややあり)
- 18 黄褐色土 (粘性ややあり)

P-85



- 1 黒色土 (Ⅲ層に少量の炭化物が混じる)
- 2 灰黄褐色土 (Ⅲ、Ⅳ層が混じる しまって硬い)
- 3 暗黄褐色土 (Ⅳ層に少量のIV層が混じる しまって硬い)
- 4 暗炭黄褐色土 (Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ層が混じる 炭化物が混じる しまって硬い)
- 5 炭黄褐色土 (Ⅲ、Ⅳ層が混じる しまって硬い)
- 6 明黄褐色土 (Ⅴ層の剥落土 しまって硬い)
- 7 黄褐色土 (Ⅴ層剥れ込み しまって硬い)

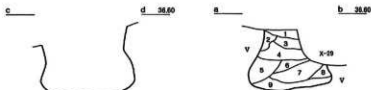
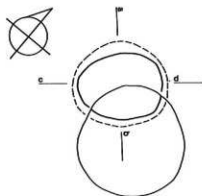
P-87



- 1 暗褐色土 (Ⅲ層に少量のIV層と極少量のV層が混じる しまりがない)
- 2 炭褐色土 (Ⅳ、Ⅴ層に少量のⅢ層が混じる しまって硬い)
- 3 黄褐色土 (Ⅴ層の剥落土)
- 4 黄褐色土 (Ⅴ層の剥落土)
- 5 炭黄褐色土 (Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ層混入)
- 6 黄褐色土 (Ⅴ層にⅣ層のブロックが混じる)

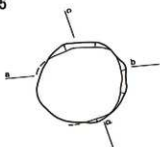
図Ⅲ-87 フラスコ状ビット(6)

P-90



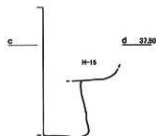
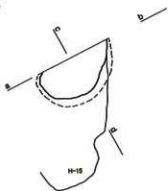
- 1 暗褐色土 (V層に少量のV層が混じる)
- 2 黄褐色土 (V層の崩落土)
- 3 灰褐色土 (V層にV層が混じる 硬くしまっている)
- 4 暗褐色土 (V層に少量のV層が混じる 硬くしまっている)
- 5 暗褐色土 (V層にV層が混じる)
- 6 灰褐色土 (V層にV層が混じる)
- 7 灰黄褐色土 (V層に少量のV層が混じる)
- 8 明黄褐色土 (V層の崩落土)
- 9 黄褐色土 (V層に少量のV層が混じる しまっている)

P-95

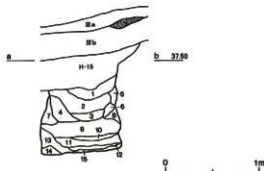


- 1 暗褐色土 (V層に少量のV層が混じる しまりが無い)
- 2 灰黄褐色土 (V層にV層と少量の炭化物が混じる 硬い)
- 3 黄褐色土 (壁の崩落土)
- 4 暗褐色土 (V層に少量のV層が混じる)
- 5 暗褐色土 (V層にV層とV層のブロックが混じる しまっている)
- 6 黄褐色土 (壁の崩落土)
- 7 暗黄褐色土 (V層に少量のV層が混じる 粘性がある)

P-97

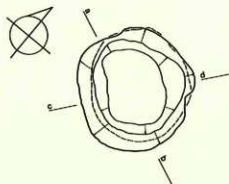


- 1 淡灰褐色土 (円筒した壁が多く含み、黄褐色土粒が少量に混じる しまりなし 粘性あり)
- 2 灰褐色土 (黄褐色土粒が少量に含み、しまり、粘性なし)
- 3 薄灰褐色土 (小円筒が少し混じる)
- 4 薄灰褐色土 (小円筒が多く混じる)
- 5 薄黄褐色土 (黄褐色土粒が少量に含み、淡灰褐色土が少し混じる)
- 6 灰褐色土 (黄褐色土粒が少量に混じる)
- 7 黄褐色土 (淡灰褐色土が混じる ややしまりがある)
- 8 薄黄褐色土 (黄褐色土が少し混じる)
- 9 灰褐色土 (黄褐色土粒が少し混じる ややしまり 粘性あり)
- 10 薄灰褐色土
- 11 淡灰褐色土
- 12 黒色土 (黄褐色土粒が少し混じる しまり、粘性多少あり)
- 13 黄褐色土 (しまりのないV層崩落土)
- 14 黄褐色土 (淡灰褐色土が混じる)
- 15 淡灰褐色土

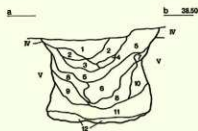
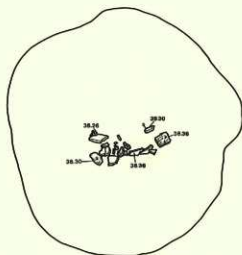


図Ⅲ-88 フラスコ状ビット(7)

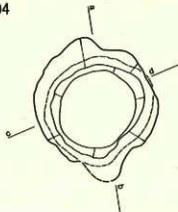
P-103



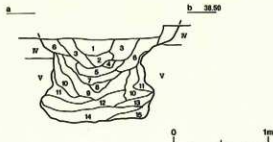
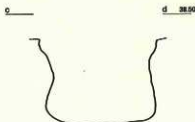
- 1 暗灰褐色土 (黄褐色土粒が多量に混じる 炭化物が少し混じる やや硬い)
- 2 灰褐色土 (やや硬く、黄褐色土粒が多量に混じる 硬い)
- 3 灰褐色土 (2より黄褐色土が多量に混じる 硬い やや粘性あり)
- 4 灰褐色土 (3に黄褐色土ブロック、小円礫が多量に混じる)
- 5 灰褐色土 (黄褐色土粒、小円礫が少し混じる 硬い やや粘性あり)
- 6 暗灰褐色土 (黄褐色土粒が多量に混じる やや粘性なし)
- 7 暗灰褐色土 (黄褐色土がブロック状に混じる ややもろく、粘性あり)
- 8 暗灰褐色土 (黄褐色土が炭状に混じる ややもろく、粘性あり)
- 9 黄褐色土 (ややもろく、粘性あり V層腐植土)
- 10 淡灰褐色土 (ややもろく、粘性あり)
- 11 黄褐色土 (もろく、粘性あり V層腐植土)
- 12 灰褐色土 (ややもろく、粘性あり)



P-104

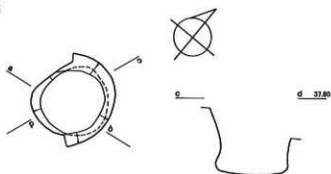


- 1 暗灰褐色土 (小円礫、黄褐色土粒が混じる やや硬い)
- 2 風乾土 (炭化物を含み、黄褐色土粒が多量に混じる)
- 3 灰褐色土 (小円礫が混じる 黄褐色土粒が多量に混じる)
- 4 暗灰褐色土 (やや赤変した土が部分的に混じる 硬い 粘性あり)
- 5 灰褐色土 (黄褐色土粒少し混じる 礫を少し含む)
- 6 暗灰褐色土 (黄褐色土ブロックが多量に混じる 硬い 粘性あり)
- 7 灰褐色土 (黄褐色土粒が多量に混じる 硬い 粘性あり)
- 8 灰褐色土 (7より黄褐色土粒少ない)
- 9 淡灰褐色土 (黄褐色土粒が混じる 硬い 粘性あり)
- 10 暗灰褐色土 (黄褐色土ブロックが少し混じる ややもろい)
- 11 黄褐色土 (もろい 粘性あり V層腐植土)
- 12 淡灰褐色土 (黄褐色土粒が少し混じる 硬い 粘性あり)
- 13 淡灰褐色土 (もろい 粘性あり)
- 14 灰褐色土 (ややもろい 粘性あり)
- 15 黄褐色土 (やや灰色がかかる V層腐植土 ややもろい 粘性あり)

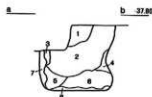


図Ⅲ-89 フラスコ状ビット(B)

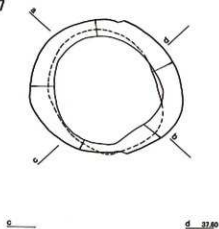
P-116



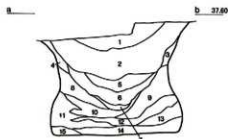
- 1 黒褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 2 暗褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 3 暗褐色土 (よごれた黄褐色土)
- 4 暗褐色土 (よごれた黄褐色土)
- 5 暗褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 6 暗褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 7 黄褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 8 暗褐色土



P-117



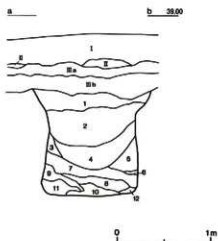
- 1 黒褐色土 (黄褐色土粒少し混じる 硬い)
- 2 暗褐色土 (黄褐色土粒多く混じる 硬い)
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土
- 6 暗褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 7 暗褐色土
- 8 黄褐色土
- 9 黄褐色土 (軟らかい)
- 10 暗褐色土 (軟らかい)
- 11 黄褐色土 (軟らかい)
- 12 暗褐色土 (軟らかい)
- 13 黄褐色土 (軟らかい)
- 14 暗褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 15 暗褐色土



P-118

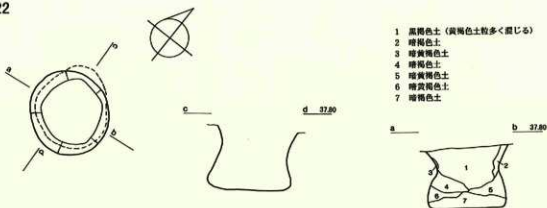


- 1 褐色土 (黄褐色土粒多く混じる 硬い)
- 2 褐色土 (黄褐色土粒多く混じる 1より明るい)
- 3 暗褐色土 (黄褐色土粒混じる 3より明るい)
- 4 褐色土
- 5 暗褐色土
- 6 暗褐色土 (軟らかい)
- 7 黒褐色土 (黄褐色土粒混じる 軟らかい)
- 8 褐色土 (黄褐色土粒混じる 10より明るい 軟らかい)
- 9 黒褐色土 (黄褐色土粒混じる 軟らかい)
- 10 褐色土 (黄褐色土粒混じる 9より暗い 軟らかい)
- 11 黄褐色土 (軟らかい)
- 12 黄褐色土

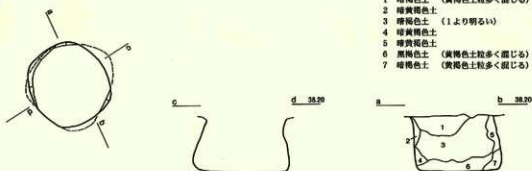


図Ⅲ-90 フラスコ状ビット(9)

P-122



P-132



P-149



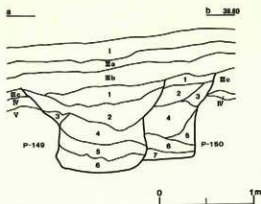
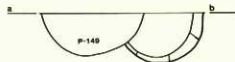
P-149

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 黄褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 5 褐色土
- 6 暗褐色土

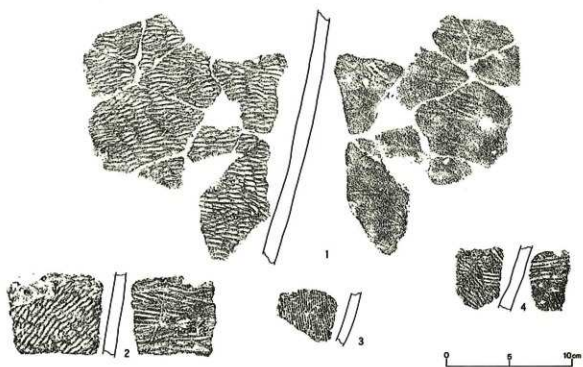
P-150

- 1 風褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗黄褐色土
- 4 風褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 5 暗黄褐色土
- 6 風褐色土
- 7 褐色土

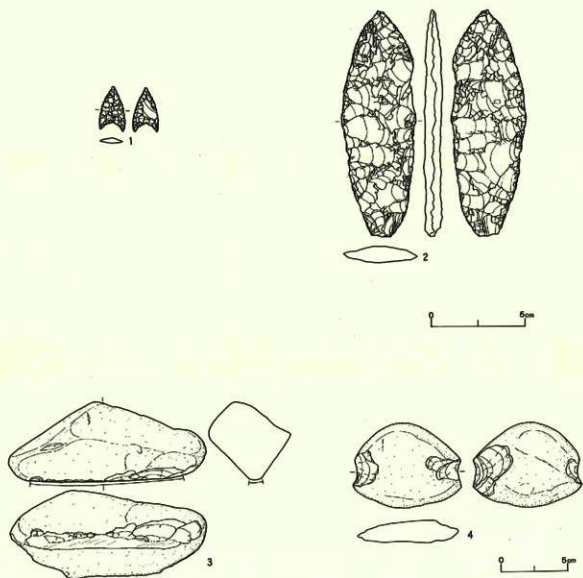
P-150



図Ⅲ-91 フラスコ状ビット00



図Ⅲ-92 フラスコ状ピット出土の土器



図Ⅲ-93 フラスコ状ビット出土の石器

(5) 粘土採掘穴状土壌群 (図Ⅲ-94~97)

位置 Q-13・14、P-13・14・15

特徴 調査区南西側、段丘縁辺部の緩斜面に位置する。

全部で51基の土壌の集合である。H-19、X-16、P-121、P-69と重複するがいずれの遺構よりも本土壌群が古い。土壌群として一括した理由は以下による。

X-16の調査終了後壁面全面にわたって遺構らしき層位の変化が認められた。またP-13地区の包含層調査の際、遺構の有無を確認するためQラインに沿って設定したトレンチ、住居跡H-19の床面の南半分、P-15地区の包含層調査の際にPラインに沿って設定したトレンチ、以上の3地点においても共通した特徴を持つ遺構の重複が確認された。

確認できた土壌の形状と、覆土の様子は次のようであった。

土壌の墳底は極めて凹凸が激しく、袋状に掘りくぼめている部分も認められた。それらの覆土は、やや堅く締まった灰褐色土を基調とし、墳底付近に崩落したV層や、腐食層と見られる黒褐色土が認められる箇所もある。また何度も掘り返された結果と考えられるが、灰褐色土に黄褐色土が混じるいわゆる『汚れた土』が灰褐色土に挟まれるように層状に認められた。また層界はどの部分も不明瞭であった。これらは本来は一つ一つの土壌ごとに述べるべきではあるが、覆土に上記のような共通した傾向がみられること、また覆土から出土した土器がほぼすべて縄文時代早期後半の時期に属するものであったため、一括して扱うことにした。

個々のビットのプランを見定める作業は困難を極めたが、墳底の形状、土層断面に現れた形から幾つかの種類があるとみられる。次に土壌の形状の4種類を示し代表的な土壌に対し説明を加える。

- 1) 平面形は小判形に近い楕円形、断面形はフラスコ状を呈するもの (P-41・46・109・128・139・180) P-41はX-16に切られ、P-130・140・127を切っている。掘り込み面はIV層上面である。断面形はIV層中は緩やかであるが、掘り込みがV層に達すると急に角度を変え、斜めに掘り込まれる。V層を深さにして40cmほどの点で幅は最大となり、丸く袋状を呈する。P-109はP-106・108に切られ、P-128を切っている。確認面での平面形は楕円形で、P-41に同じく標高37.1mほどのV層を袋状に掘りくぼめている。ただし袋状に掘られるのは土壌の北側のみである。
- 2) 平面形は円形もしくは楕円形、断面は碗状を呈するもの。(P-43・141・158・163・165・170・172) P-141は、P-155を切っている。確認面での形状はやや歪な円形を呈し、断面は碗状を呈する。土層断面図の9層から中茶路式土器が一括出土している。
- 3) 平面形は円形もしくは楕円形、壁は急で、墳底は比較的平坦なもの (P-134・146) P-134は、平面形は楕円形で、墳底は平坦であるが、掘り込み面から20cmほどの深さでやや狭い平坦面がある。壁は平坦面までは緩やかであるが、平坦面から墳底までは垂直に近い角度を呈する。また覆土は、全土壌群中この土壌のみにみられた特徴であるが、土層断面でいう3層が灰褐色土が少し混じる黄褐色土で堅くしまっており、あたかも黄褐色土が貼りこまれた様子を示していた。
- 4) その他不整形のもの (P-44・45・108・131・133・136・137・138・142・157・161・162・164・169・171・173・174・177など) P-137はP-138・167・168と重複しており、本土壌が最も新しい。平面形は北西と北東方向にやや突出した部分を持つ不整形である。壁はほぼ垂直で、墳底は北東方向に傾斜している。

遺物の出土状況 この土壌群に伴う遺物は少ないがP-141・173の覆土中からI群B類土器がややまとまって出土している。(図Ⅲ-98-1・2)

時期 覆土から出土した土器から、縄文時代早期末葉の比較的短い時間に連続して掘られたものと

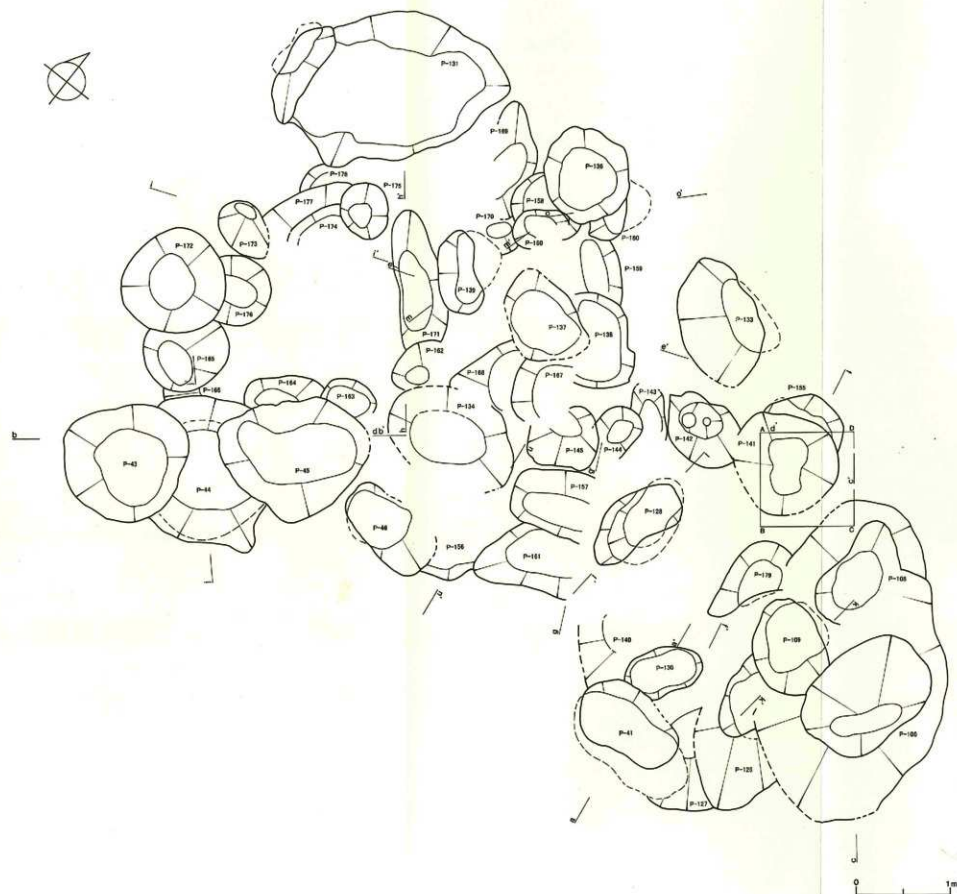
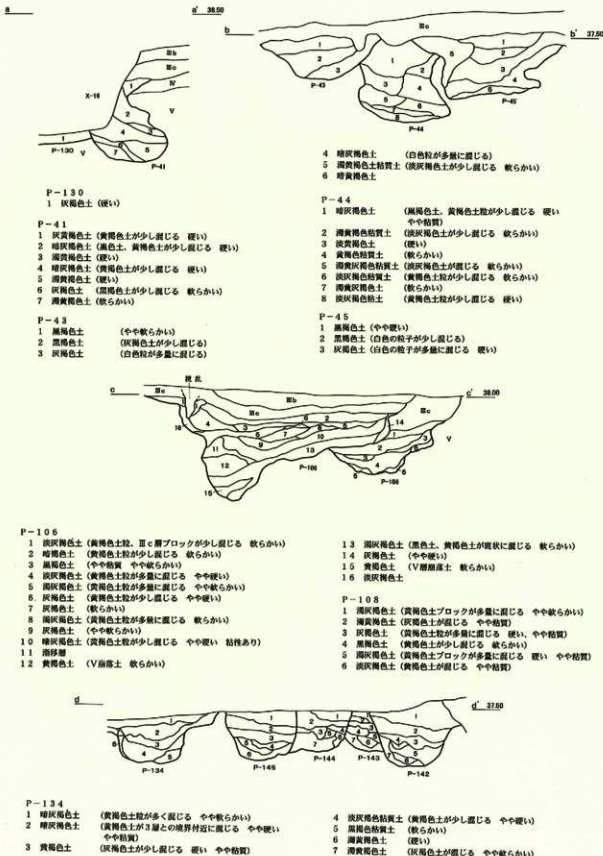


图 III-94 粘土器穴状土坑群(1)



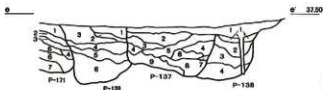
図Ⅲ-95 粘土探掘穴状土壌群(2)

P-142

- 1 黒褐色シルト質土 (黄褐色土が少し混じる やや軟らかい)
- 2 黄褐色シルト質土 (灰褐色土が多量に混じる やや軟らかい)
- 3 黒褐色シルト質土 (黄褐色土が少し混じる)
- 4 黄褐色土 (やや粘質 やや硬い)
- 5 黄褐色土 (黄褐色土が混じる 粘性あり やや軟らかい)
- 6 黄褐色土 (粘質 軟らかい)
- 7 黄褐色土 (黒色土、灰褐色土が底状に混じる 粘性あり 軟らかい)

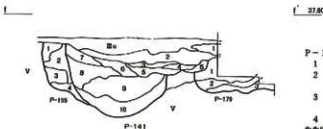
P-143

- 1 灰褐色土 (黄褐色土、黒色土が少し混じる 砂粒が少し混じる やや硬い)
- 2 黄褐色土 (黄褐色土、黒色土が多量に混じる 砂粒が少し混じる やや粘質)
- 3 黄土 (黄褐色土、灰褐色土で構成される やや軟らかい)
- 4 黄褐色土 (黄褐色土が混じる やや硬い)
- 5 灰褐色シルト質土 (黄褐色土が多量に混じる やや軟らかい)
- 6 黄褐色土 (やや軟らかい)
- 7 黄褐色土 (やや硬い)



P-137

- 1 暗灰褐色土 (黄褐色土、白色砂粒が多量に混じる やや硬い)
- 2 淡灰褐色土 (黄褐色土が多量に混じる 硬い やや粘性あり)
- 3 灰褐色シルト質土 (黄褐色土、白色砂粒が多量に混じる やや軟らかい)
- 4 淡灰褐色土 (3に灰褐色土ブロックが混じる層)
- 5 暗灰褐色土 (白色砂粒が多量に混じる やや硬い やや粘質)
- 6 暗灰褐色土 (黒色土、黄褐色土が少し混じる やや軟らかい)
- 7 淡灰褐色土 (軟らかい)
- 8 黄褐色土 (灰褐色土が少し混じる やや硬い やや粘質)
- 9 灰褐色土 (黄褐色土が多量に混じる やや硬い V層と面状に接する)



P-155

- 1 黄褐色土 (やや硬い)
- 2 黄褐色土 (やや軟らかい)
- 3 黄褐色土 (やや硬い)
- 4 黒色土 (黄褐色土が少し混じる やや軟らかい)

P-144

- 1 淡灰褐色土 (黄褐色土ブロックが少し混じる 硬い)
- 2 黄褐色土 (硬い)
- 3 黄褐色土 (軟らかい)
- 4 黄褐色土 (砂粒が少し混じる 軟らかい)
- 5 黄土 (灰褐色土、黄褐色土で構成される やや軟らかい)
- 6 灰褐色土 (やや硬い)
- 7 暗灰褐色土 (やや軟らかい やや粘質)

P-145

- 1 淡灰褐色土 (硬い)
- 2 黄褐色土 (軟らかい)
- 3 暗灰褐色シルト質土 (黄褐色土が多量に混じる やや軟らかい)
- 4 黄褐色土 (灰褐色土が混じる やや軟らかい)
- 5 灰褐色土 (やや粘質 やや軟らかい)
- 6 淡灰褐色土 (黄褐色土が少し混じる やや硬い やや粘質)

P-138

- 1 黄褐色土 (灰褐色土が混じる 硬い)
- 2 暗灰褐色シルト質土 (黄褐色土が少し混じる やや軟らかい)
- 3 黄褐色土 (淡灰褐色土が混じる やや軟らかい)
- 4 灰褐色シルト質土 (黄褐色土が多量に混じる やや硬い)

P-139

- 1 淡灰褐色土 (黄褐色土が多量に混じる 砂粒が少し混じる やや硬い)
- 2 淡灰褐色土 (灰褐色土、砂粒が少し混じる やや軟らかい)
- 3 灰褐色シルト質土 (やや軟らかい)
- 4 灰褐色シルト質土 (黄褐色土が多量に混じる)
- 5 黄褐色土 (黄褐色土ブロックが混じる 軟らかい やや粘質)
- 6 黄褐色土 (砂粒が少し混じる 軟らかい 粘性あり)

P-171

- 1 灰褐色シルト質土 (やや硬い)
- 2 暗灰褐色土 (軟らかい)
- 3 灰褐色シルト質土 (黄褐色土が多量に混じる)
- 4 黄褐色土 (軟らかい)
- 5 灰褐色土 (やや硬い)
- 6 黄褐色土 (灰褐色土が多量に混じる やや軟らかい)
- 7 淡灰褐色土 (黄褐色土が少し混じる やや硬い)

P-141

- 1 暗灰褐色土 (暗褐色土の塊状が多量に混じる)
- 2 暗灰褐色土 (灰褐色土が母材に 黒色土、黄褐色土ブロックが混じる やや硬い)
- 3 灰褐色土 (白色の砂粒が多量に、黄褐色土の粒子が少し混じる やや軟らかい)
- 4 暗灰褐色土 (白色の砂粒が多量に、黄褐色土の粒子が少し混じる やや硬い)
- 5 黄褐色土 (黄褐色土、灰褐色土が混じる やや軟らかい)
- 6 暗灰褐色土 (やや軟らかい)
- 7 暗灰褐色シルト質土 (白色砂粒が多量に混じる やや軟らかい)
- 8 黄褐色土 (黄褐色土が多量に混じる やや粘質 やや硬い)
- 9 黄褐色土 (やや軟らかい やや粘質) -中層部式-抽出土層 (下層は漸移的にV層と接する)
- 10 黄褐色土

P-179

- 1 灰褐色土 (黄褐色土が多量に混じる やや硬い やや粘質)
- 2 黄褐色土 (黄褐色土が混じる やや軟らかい)
- 3 暗灰褐色土 (やや軟らかい)

図Ⅲ-96 粘土探掘穴状土壌群(3)



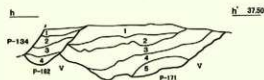
P-161

- 1 黄土 (黄褐色土、灰褐色土で構成される やや硬い)
- 2 灰褐色シルト質土 (淡灰褐色土が少し混じる やや軟かい)
- 3 灰褐色シルト質土 (黄褐色土粒が多量に混じる やや硬い)
- 4 黄土 (1よりも硬い)
- 5 灰褐色シルト質土 (やや軟かい)
- 6 淡灰褐色シルト質土

- 7 褐黄褐色土 (やや軟かい)
- 8 淡灰褐色土 (やや軟かい)
- 9 断移層

P-157

- 1 灰褐色シルト質土 (黄褐色、白色の粒子が多量に混じる やや硬い)
- 2 灰褐色土 (黄褐色、白色の粒子が多量に混じる やや硬い)
- 3 黒色シルト質土 (やや硬い)
- 4 陶灰灰褐色土 (黄褐色、白色の粒子が多量に混じる やや硬い)
- 5 海浜褐色土
- 6 暗灰褐色土 (やや粘質)
- 7 海浜褐色土
- 8 黒色土 (灰褐色土が少し混じる やや軟かい やや粘質)
- 9 褐黄褐色土 (黒色土が少し混じる やや軟かい)



P-162

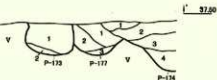
- 1 黒褐色土
- 2 褐黄褐色土 (黄褐色土粒多く混じる)
- 3 黒褐色土
- 4 褐黄褐色土

P-171

- 1 黒褐色土
- 2 褐黄褐色土
- 3 海浜褐色土
- 4 褐黄褐色土
- 5 黒褐色土 (黄褐色土質状に混じる)

P-173

- 1 黒褐色土
- 2 褐黄褐色土

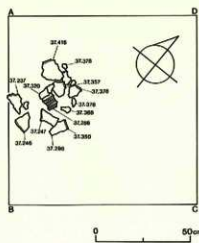
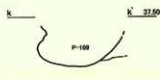


P-174

- 1 暗褐色土
- 2 褐黄褐色土
- 3 黒褐色土
- 4 暗褐色土 (黄褐色土粒混状に混じる)
- 5 褐黄褐色土

P-177

- 1 暗褐色土
- 2 褐色土
- 3 褐黄褐色土



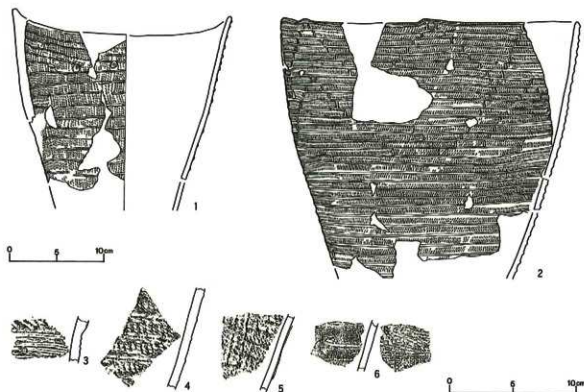
図Ⅲ-97 粘土探掘穴状土塊群(4)

みられる。

粘土採掘穴状土壌群出土の土器 (図Ⅲ-98)

P-126 (4)、P-134 (5)、P-141 (1)、P-146 (3)、P-171 (6)、P-173 (2) 出土の資料について記載する。3、6はI群A類土器。3は口縁に近い隆起帯に刻み目が施され、体部には条痕文が施されている。6は表裏に条痕文が施されている。1、2、4、5はI群B類の中茶路式土器。1は口縁部に2か所の大きな山形突起があると推定されるもので、器面には微隆起線文が幾段めぐる。微隆起線文の間隔はやや広い。微隆起線文の施文後、短縄文が密に施される。口唇断面は切り出し形に尖るが、先端はやや丸味を帯びている。2は口縁部に小突起がいくつか付くとみられるもので間隔の狭い微隆起線文がめぐる。微隆起線文の間には細かい短縄文が密に施されている。口縁部の各突起からは横位の微隆起線を結ぶ縦位の微隆起線が「ハ」の字に施され、それが体部で交差して菱形の文様となっている。口唇断面は切り出し形を呈する。胎土には細砂粒が多く含まれているが焼成は良い。4、5は微隆起線文の施された小片である。

(工藤研治)



図Ⅲ-98 粘土採掘穴状土壌群出土の土器

(6) 壕とその関連遺構 (図Ⅲ-99~103)

壕

調査の経過 調査区の北東部にある。崖際から台地の奥(南東-北西)に向かって調査区域の外に長く延びる沢状の凹地が確認された。この凹地は上幅が20~30mあり、長さ約120mにわたって確認できたが、その先は畑の耕作によって地形が改変されているため全体の規模は把握できなかった。当初は規模や形状から断層に由来する地形ではないかと考えられていたが、平成4年に初めて一部を調査し、大規模な遺構の一部と分かった。平成5年と平成7年にも壕の調査を行い、調査区域内における調査を終了した。平成4年の調査では自然地形ではないかという先入観から、調査が終盤を迎える頃まで遺構と認識できずにいたため、この年の記録はきわめて不十分なものである。出土遺物の多くは遺物包含層出土として取り上げている。

特徴 掘り込み面はⅢ層中部であり、V層を50cm以上掘り下げている。掘り上げた土は両側に土盛りされ、尾根状の高まりとなって続いている。調査区域内では盛土の頂部から壕の底までの深さは1~1.5m、上幅は20~25mある。盛土の上部は一部削平されているが、最大で50cmほどの厚さがある。盛土は最上部にV層の黄褐色土、最下部にⅢ層主体の黒褐色土が堆積しており、構築当時、掘り上げた順に土盛りしたことが分かる。盛土の中心には黒褐色土の間層が認められることから、途中で掘り込みの幅を広げたと推定されるが、完成後の掘り直しなのか、作業上の一工程なのかは明らかでない。盛土の中心からは焼土(F-42・43・44・62・50)が検出された。他に壕に関連するものとみなされる土壌(P-28)も確認されている。壕を埋めている覆土は底の部分では薄く、10cmほどの厚さしかない。壕全体をⅢa層が覆っている。なお、平成5年と平成7年の調査区域における土量を試算した結果、盛土は約153立方メートル、壕の凹地に本来あったと推定される土量は約190立方メートルであった。遺物の出土状況 盛土及び覆土からは縄文時代各時期の遺物が出土した。特に盛土からはⅢ群A類土器が多量に出土している。破片が立った状態で出土したものが多く、本来の位置から土と一緒に移動したものである。壕の場所にこの時期の遺構があった可能性もあるが、検出されていない。壕から離れた調査区からはⅢ群A類の出土量はきわめて少ない。

時期 壕の盛土によって埋められていたH-10の覆土下部からⅣ群A類の余市式系の土器がまとまって出土していること及び壕の盛土と覆土からⅣ群A類の涌元I式に相当する土器が出土していることから、壕の構築時期はこの間に求められる可能性が高い。ただし、涌元I式については当遺跡の調査区域内では出土量は少なく、主体的なあり方を示しているのは余市式系の土器である。盛土から出土した遺物にはⅥ群土器も含まれており、攪乱等の影響も考慮する必要がある。

空中写真の判読 壕の調査後、昭和23年撮影の空中写真(建設省国土地理院発行密着焼)から壕の規模や形状を把握しようと試みた。この空中写真を実体視した結果、沢状の凹地とその両側に沿って続く尾根状の高まりが判読でき、位置・規模から今回調査した壕と同一のものと判断された。台地の奥は写真撮影の時点ですでに畑地となっているため判然としなが、台地を弧状に区画しているように見える。凹地の幅は20~50m、長さは300m以上ある。空中写真を基に地形図(付図1)と鳥瞰図(口絵)を作成している。

P-28

位置 S-21

規模 $1.36 \times 0.62 / 1.45 \times 0.20 / 1.22$

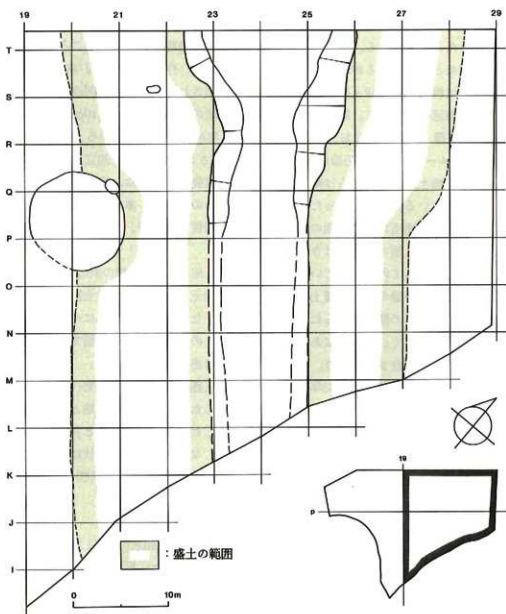
特徴 Ⅲb層上面で盛土と同種の暗褐色土の落ち込みを確認した。平面形は長円形の中央がくびれる瓢箪形に近い。底面には凹凸がある。壁は短軸側では急に立ち上がるが、長軸側では底が袋状になっていてフラスコ状ビットのような断面形を呈する。覆土の状態はTビットに似る。壕の盛土中部でF-

42・43を検出した際、P-28のあたりで褐色土が落ち込んでいるような状態を確認しているので、掘り込み面は盛土中にある可能性が高い。F-42・43及び隣接するF-62と関連するものかもしれない。

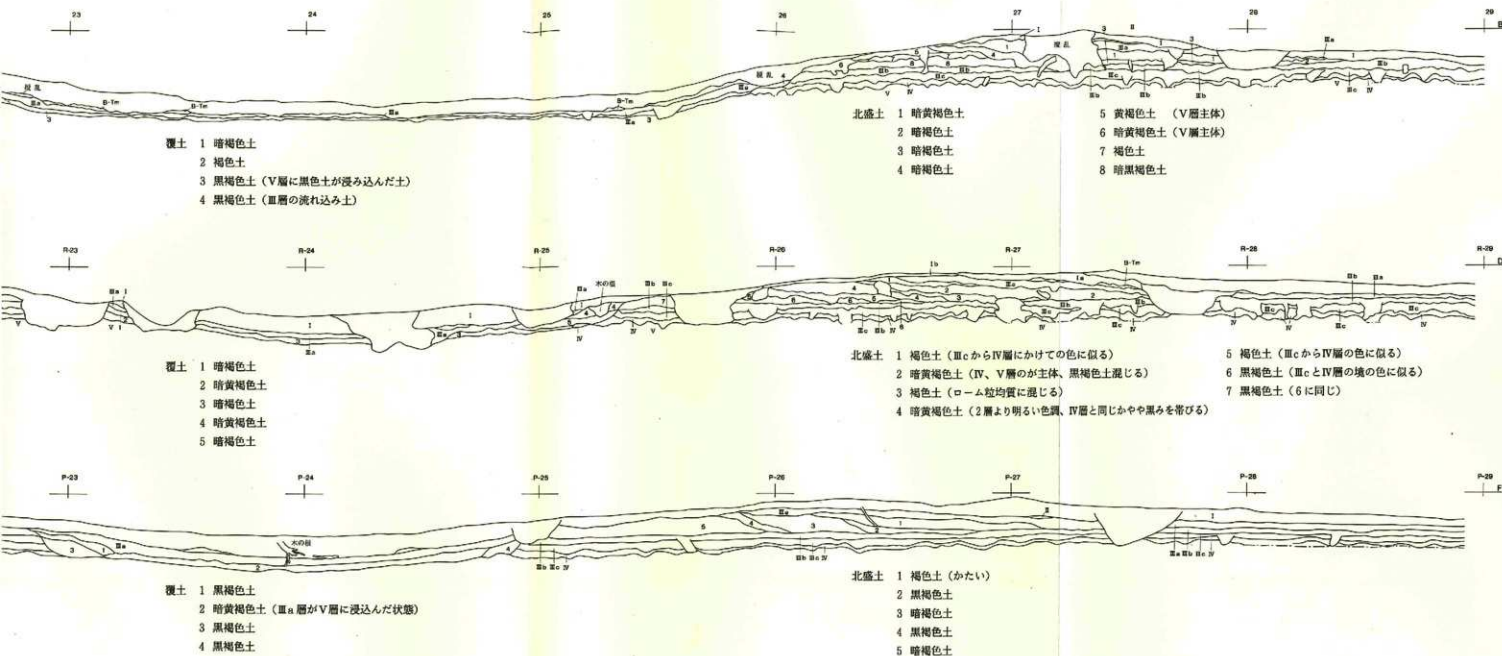
遺物 覆土からⅡ群B類、Ⅲ群A類、Ⅲ群B類土器、剥片石器片、剥片等が出土している。

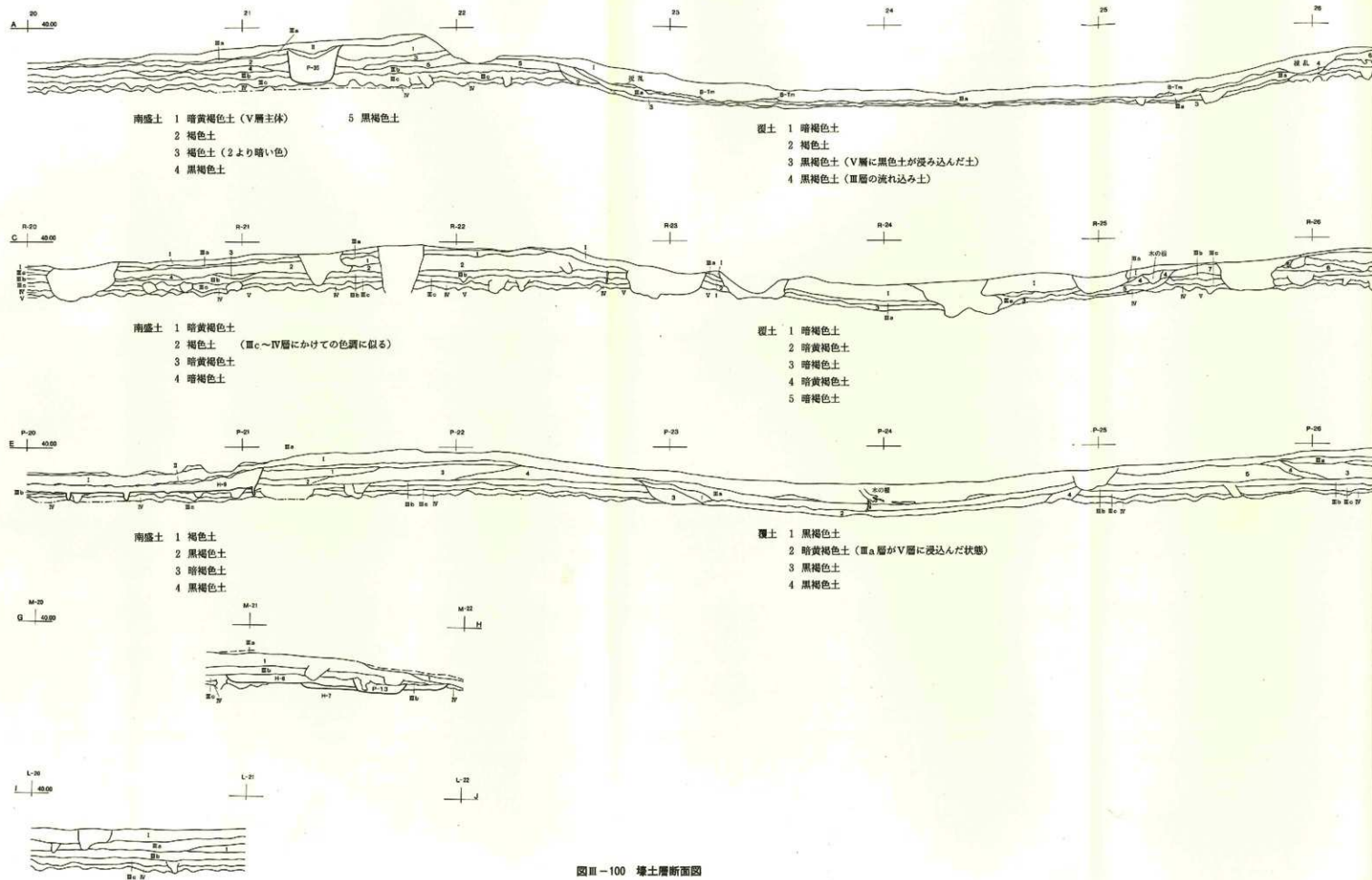
(工藤研治)

壕

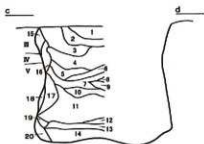
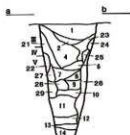
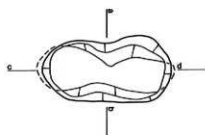


図Ⅲ-99 壕





図III-100 埴土層断面図



- 1 褐色土 (炭化物少し混じる)
- 2 暗褐色土 (黄褐色土混状に混じる)
- 3 褐色土
- 4 褐色土
- 5 暗褐色土 (黄褐色土混状に混じる やや軟らかい)
- 6 暗褐色土 (黒色土+黄褐色土 炭化物少し混じる)
- 7 暗褐色土 (黄褐色土混多に混じる 軟らかい)
- 8 褐色土
- 9 黒褐色土
- 10 黒褐色土 (軟らかい)
- 11 褐色土 (黄褐色土混状に混じる 軟らかい)
- 12 黒褐色土 (黄褐色土混混する)
- 13 暗褐色土 (軟らかい)
- 14 暗黄褐色土 (褐色土+黄褐色土 軟らかい)
- 15 黒褐色土 (黄褐色土混状に混じる 硬い)
- 16 暗褐色土 (黄褐色土混状に混じる)
- 17 黒褐色土 (褐色土と黄褐色土混する 軟らかい)
- 18 黄褐色土 (壁の崩落土)
- 19 黄褐色土 (軟らかい)
- 20 暗黄褐色土 (軟らかい)
- 21 黒褐色土
- 22 黄褐色土
- 23 暗褐色土 (黄褐色土混状に混じる)
- 24 黒褐色土
- 25 黄褐色土
- 26 黄褐色土
- 27 黒褐色土
- 28 暗褐色土
- 29 暗黄褐色土

F-42



- 1 鈍い黄褐色土 (シルト質 軟)
- 2 黄褐色土 (粘土質シルト やや硬い)
- 3 灰黄褐色土 (粘土質シルト やや硬い)

F-43



- 1 灰褐色土 (粘土質シルト 軟)
- 2 褐色土 (粘土質シルト やや硬い)
- 3 ごく鈍い褐色土 (粘土質シルト やや硬い)

F-44



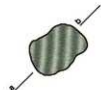
- 1 赤褐色土 (炭化物混じる)
- 2 赤褐色土 (炭化物混じる)
- 3 赤褐色土 (炭化物混じる)

F-62



- 1 赤褐色土 (粘土)

F-50



- 1 鈍い褐色土 (粘土質シルト、粘土が多量に混じる腐った土 粘に中粒砂、炭が混じる 軟)
- 2 暗褐色土 (粘土質シルト 軟)



図面-103 壕関連遺構

遺物(図III-104~139)

土器

覆土出土の土器(4~23)

II群B類土器(6)

6は口縁部に山形突起のある厚手の土器で、体部には粗い縄文が施されている。口唇断面は丸みを帯びている。胎土には繊維のほかに砂粒が多く含まれている。

III群B類土器(4)

4は口縁部がやや内傾する小型の深鉢で、口縁部には低い小突起が4か所ある。器面にはLRの原体による細かい斜行縄文が施されていて口唇には縄を押捺した刻み目が付けられている。

IV群A類(5、7~23)

7は口縁部に貼付帯が施されるもので、貼付帯には横位施文、体部には縦位施文と横位施文の縄文が交差して施されている。8~10は縄線文が施されたもの。8は口縁部の貼付帯に横位施文の縄文が施された後、貼付帯上に2段の原体の縄線文が1条めぐりものである。体部にも横位施文の縄文が施されている。10は斜めに貼付帯が施されたもので貼付帯には縄線文が施され、さらにその上から横位の縄線文がめぐり。9は口縁部に縄線文が施されたもので、縄文地に2段の原体の縄線文が3条めぐり。11は縄文の施された底部。12~16は幅の狭い貼付帯とボタン状の貼瘤が施されるものである。薄手で焼成は良く硬い。12、14、15は口縁部に断面が丸みを帯びる幅の狭い貼付帯が施されたもので、貼付帯には細い棒状工具による刺突文が施されている。12は口縁部に山形突起のあるもので、縄文地に突起からゆるやかにのびる「ハ」の字の貼付帯が施されている。口唇断面は角形で口唇及び内面は丁寧に調整されている。14は無文地に貼付帯とボタン状の貼瘤が施されたものである。15は縄文地に貼付帯が施されたもの。13は口縁部の無文部と縄文の施された部分の境に「ノ」の字にのびる刺突列が施されたもので、縄文の施された部分にはボタン状の貼瘤が付けられ、細い沈線文が施されている。16は貼瘤と縄線文が施されたものである。17は縄文地に鋭い工具による細い沈線文が施されたものである。18、19は細い沈線で区画された無文部のあるもの。20は無文地に細い沈線文が施されたもので、内面には赤色顔料が付着している。21は口縁部が外反するもので断面の丸い太い工具による沈線文が施されている。22、23は縄文の施されたもの。22には粗い縄文が施されている。23は口縁部に山形突起の付くもので整った斜行縄文が施されている。5は無文の壺形土器。表面は丁寧に調整されている。便宜的にここに記載する。8~20は涌元I式頃のものと考えられる。21は大津式、22、23はトリサキ式から大津式あたりに伴うものと考えられる。

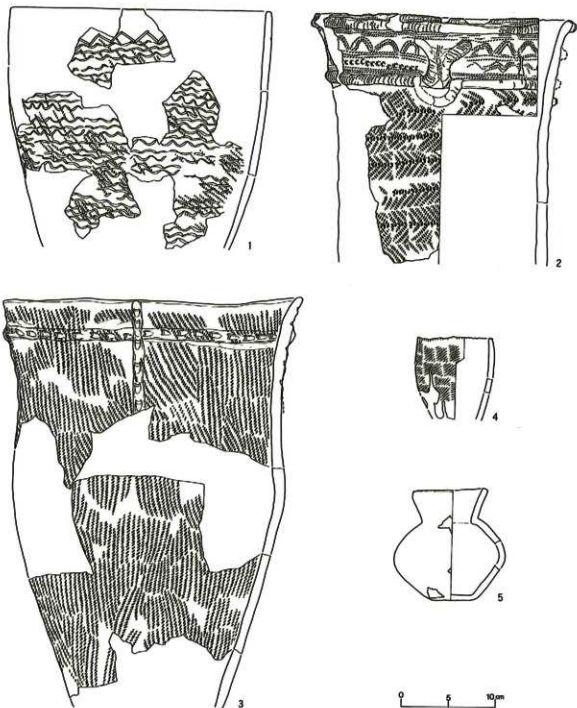
盛土出土の土器(1~3、24~102)

II群A類(1、61)

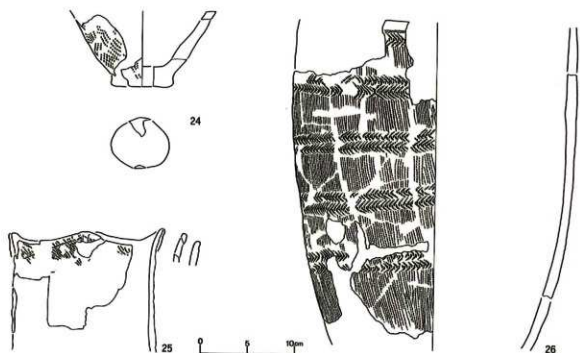
61は横走ぎみの縄文が施されたもので、口唇断面は角形で口唇と内面は丁寧に調整されている。胎土には繊維を多く含む。1は口縁部に鋸歯状の沈線文が施されたもので、体部には縄文地に硬い円い繊維による結節圧痕が施されている。口唇及び内面は丁寧に調整されている。胎土は細砂粒を含むが緻密で硬い。大木2b式に相当するものと考えられる。

II群B類(25、26、62~68)

62は口縁部がやや外反するもので、無文地に1段の原体の縄線文が幾段かめぐり、縄線文の間に中空の工具による円形の刺突文が施されたものである。口唇断面は丸みを帯び、口唇と内面は磨かれている。胎土には繊維が含まれている。25は口縁部に4か所の山形突起が付くもので、縄文地に縄線文が施され、斜格子状の文様が描かれている。63、64は口縁部に横位の条痕文が施されたもので、体部



図III-104 壕出土の土器(1)



図Ⅲ-106 壕出土の土器(3)

Ⅲ群A類 (2、27~60、70~81)

円筒上層a式に相当するもの(2)、円筒上層b式に相当するもの(27~54、71~78)、サイベ沢Ⅶ式に相当するもの(55~59、79~81)がある。2は平縁のもので、太い貼付帯で口縁部と体部を描いている。口頸部の文様帯には3本組の縄線で鋸歯文が描かれ、その上下を横位の縄線文で区画されている。部分的に馬蹄形圧痕文が施されている。体部には結束羽状縄文が施されている。27~48、70~75は口縁部から体上部にかけて無文地に貼付帯で文様を施すものである。27~43、70~75は口縁部に弁状突起をもつもの。27は細身の弁上突起の付くもので、貼付帯間には縄線とヘラ状工具による刺突で文様が描かれている。28~41、73は貼付帯間に縄線と馬蹄形圧痕が施されたものである。28は太めの貼付帯が施されている。42、43、70~72、74は貼付帯間に縄線と刺突が施されたものである。44~48は平縁のもので貼付帯間に縄線と馬蹄形圧痕が施されている。49~54、76~78は縄文地に貼付帯が施されるものである。76は平縁のもので口縁部にのみ貼付帯で波状の文様が付けられている。他は口縁部に弁状突起の付くものである。55~58、79、80は縄文地に細い貼付帯を施して口頸部の文様帯を構成するものである。55~57には口縁部に弁状突起が付いていて、56の突起部分には孔がある。58、79には口縁部に小突起が付き、突起の上に刺突が施されている。80は貼付帯間にヘラ状工具による刺突文が施されている。59は口縁部に弁上突起が付くもので、突起の部分に細い貼付帯が施されている。

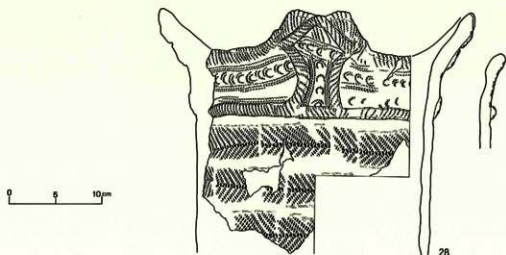
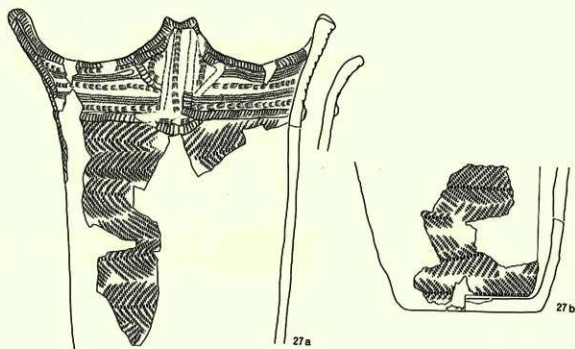
Ⅲ群B類 (3、82~90)

大安在B式に相当するもの(85~90)、ノダブⅡ式に相当するもの(3、82、91)がある。84~87、88・89はそれぞれ同一個体とみなされるもので、器面に「ヌメリ」がある軽くて脆い土器である。84~85は口縁部に山形の突起が付くもので、突起の部分から無文地に「ハ」の字に貼付帯が施され、頸部と体部の境は2条の貼付帯で画されている。口縁部には横走る沈線文、体部には摺糸文の地に円形文とそれを繋ぐ横走沈線が施されている。胎土には繊維を多く含んでいる。88・89は貼付帯と細

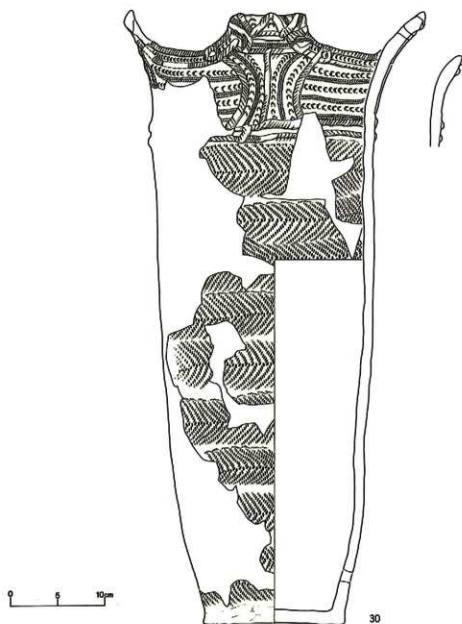
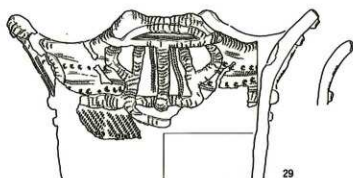
い沈線文が施されている。90は摺糸文が施されたものである。3は盛土出土の資料とP-29・31出土の資料が接合したものである。口縁部が外反して体中部が少しふくらむ平縁のもので、頸上部に貼付帯が1条めぐり、口縁部からも貼付帯が垂下する。貼付帯上には半截竹管状工具による刺突文が施されている。貼付帯施文後、体部には縦走ぎみの縄文が施される。82は頸部がやや長い平縁のもので、体部はふくらむ。器面には横走ぎみの縄文が施され、頸部と体部の境には半截竹管状工具による刺突文がめぐり、刺突文の基点と中間点にはボタン状の貼瘤が付けられている。91は横走縄文が施されたもので、体部と頸部の境に貼付帯が施されている。貼付帯上には縄線文が施されている。

IV群A類 (92~100)

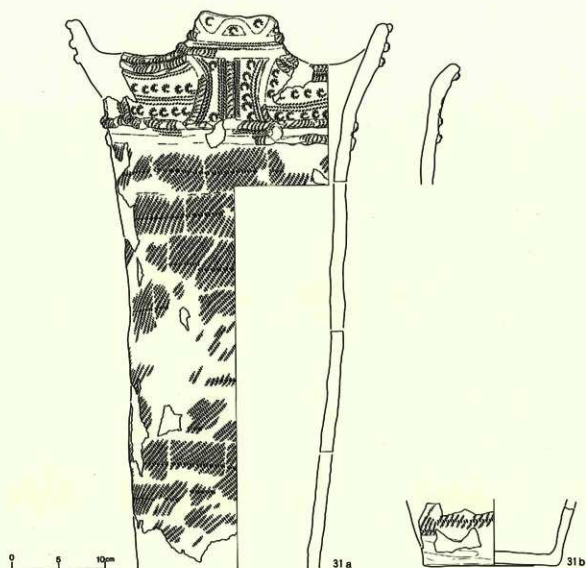
92、97は口縁部に貼付帯が施されたものである。97は貼付帯上に横位施文の縄文が施され、体部には撚りの異なる原体で羽状縄文が施されている。93~96は口縁部に縄線文が施されたものである。95は無文地に貼付帯が施され、貼付帯上と貼付帯の下縁に縄線文が施されたものである。98~100は縄



図Ⅲ-107 壕出土の土器(4)



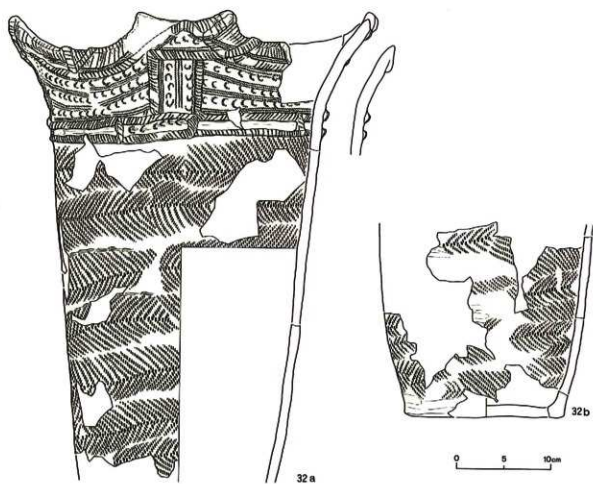
図Ⅲ-108 壕出土の土器(5)



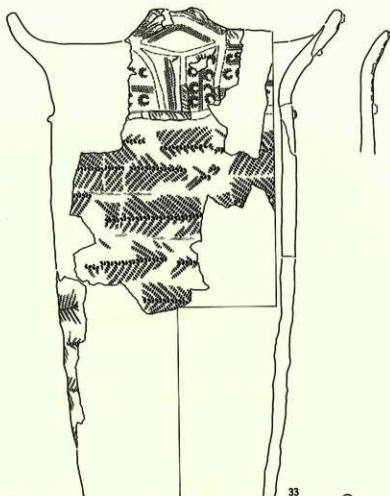
図Ⅲ-109 壕出土の土器(6)

文が施されたものである。98は厚手のもので、口縁部の少し下を指頭のようなものでなぞっている。99、100は薄手のもので羽状縄文が施されている。101は無文地に細い貼付帯が施されたもので貼付帯上には縄文が施されている。無文部には刺突文が施されている。

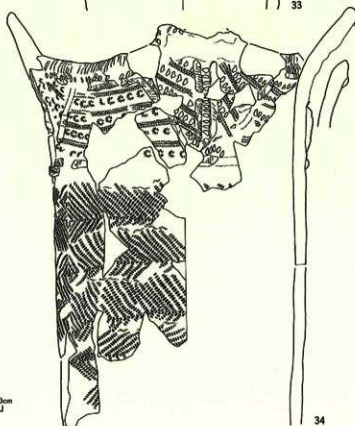
(工藤研治)



図Ⅲ-110 壕出土の土器(7)



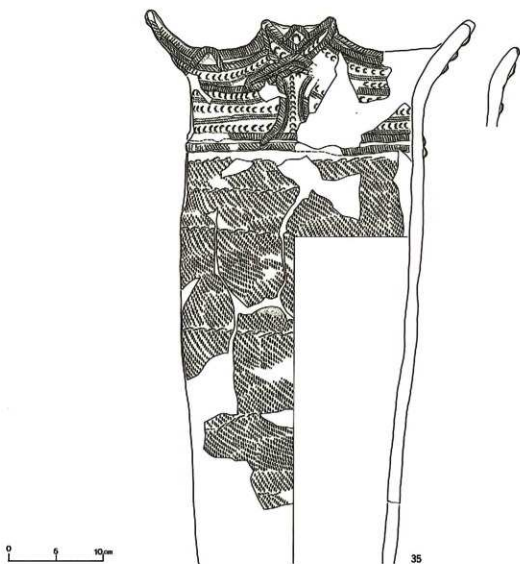
33



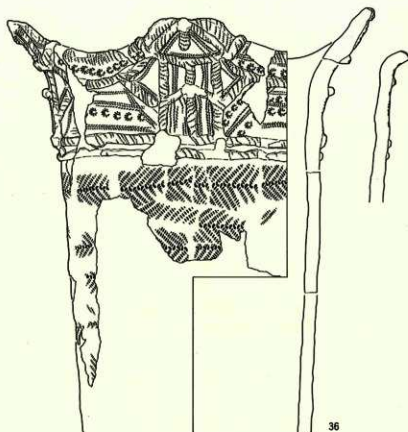
34

0 5 10cm

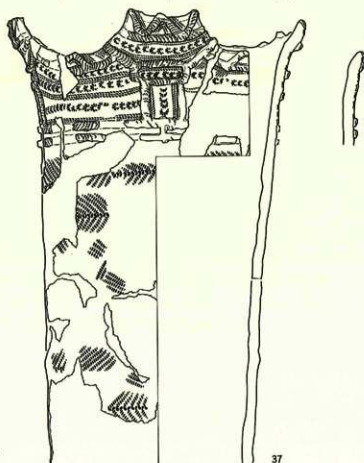
図Ⅲ-111 壕出土の土器(8)



図Ⅲ-112 塚出土の土器(9)



36



37

0 5 10 cm

図Ⅲ-113 塚出土の土器⑩

壕出土の石器

ほとんどのものが盛土から出土している。1～44は石鏃。ほとんどが有茎のもので、全体的に加工が雑で厚身のものが多い。側縁は外湾するものが多い。1～8は有茎凹基及び凹基気味のもの。1～4は比較的縦長のもの。1、2は左右非対称で、共に裏面に素材面を残す。4は側縁に微細な剥離痕が認められる。5～8はやや幅広いもの。5は基部から茎部にかけて部分的に黒色付着物が認められる。7はめのう製。8、9は基部に薄く黒色付着物が認められる。9～16は平基及びほぼ平基のもの。11は一方の返しがりみを帯びる。14は厚手で茎部が太く、返しが不明瞭である。16は両面の基部に黒色付着物が認められる。17～40は有茎凸基のもの。17～23は返しが明瞭である。19は太い茎部をもつ。21、36は両面周縁加工が施される。21は丁寧な作りである。22は側縁が内湾する。23は茎部に薄く黒色付着物が認められる。24～40は返しの不明瞭なもの。24、35は長い茎部を有する。25、26は薄手で両面に素材面を残す。27～29は基部から茎部にかけて黒色の付着物が認められる。27は特に明瞭である。30は丁寧な加工が施され、整った形状を呈する。34は全体的に磨滅している。37～39は先端が尖る長い茎部をもつもの。40は先端部が丸みを帯びる。41は側縁がゆるく湾曲する菱形鏃。薄手で丁寧な作りである。42は木葉鏃。43、44は柳葉形で厚手のもの。

45～50は石槍。45は有茎平基で、不純物を多く含む黒曜石製。丁寧な加工が施され、整った形状を呈する。側縁はやや外湾し、太い茎部を有する。46～48は有茎凸基のもの。いずれも偏平な鏃を素材とし、両面に周縁加工が施される。側縁は外湾し、先端部は丸みを帯びる。46は大きな茎部が作り出される。47は比較的整った形状を呈する。48は左右非対称で先端部が厚く、未成品の可能性ある。49は木葉形のもの。素材の礫自体が薄いため両面周縁加工であるが薄身である。50は下部を欠失する。全体に厚手で先端部は素材とした剥片の形状を生かしている。

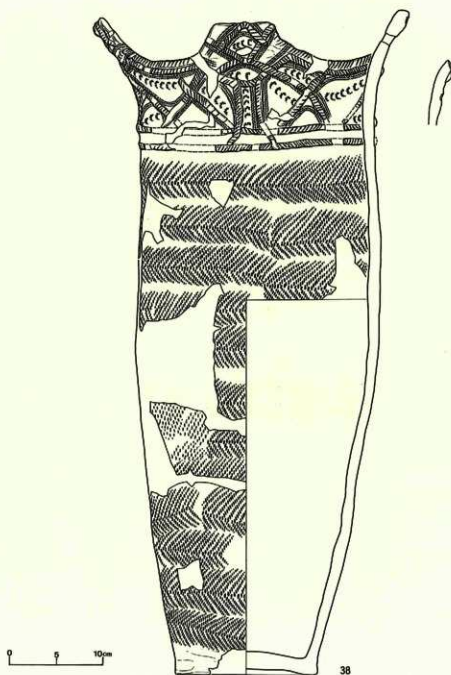
51、52は石錐。51は石核素材で2側縁に加工を施し、つまみ部と太い尖頭部を作り出している。52は棒状のもの。

53はつまみ付きナイフ。つまみ部のみ作り出している。背面左側縁には微細な剥離痕が認められる。腹面には大きく焼けはじけが認められる。

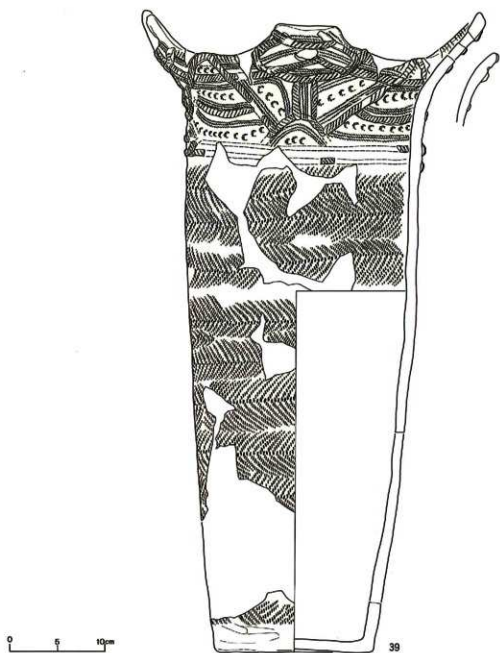
54～71はスクレイパー。54、55は縦長剥片の末端部に急角度の刃部を作り出す、いわゆるエンドスクレイパーである。どちらも刃部の加工は丁寧である。56～71は縦長剥片の側縁に刃部を作り出すもの。2側縁に刃部を作り出すものと1側縁にのみ作り出すものがある。刃部は背面側に作り出されるものが多い。56～61は刃部が外湾するもの。57は腹面側の両側縁に刃部が作り出される。58は背面右側縁に自然面を残す。59は深めの加工により刃部が作り出されており、刃縁がやや鋸歯状を呈する。60は両面からの加工により刃部が作り出される。61は内湾する刃部が背面左側縁に作り出される。62～67は刃部がほぼ直線状を呈するもの。62は打面側以外の3辺に刃部が作り出される。63は4辺全てに刃部を作り出す。2側縁は丁寧な加工により刃部が作り出され、上下端部の加工はやや雑である。65は上辺に、微細な剥離痕が認められる。67は末端部にやや内湾する刃部を作り出す。68～70はやや内湾する刃部をもつもの。68の腹面左側縁に施される加工は厚みを取るためのものと考えられる。70は腹面側に刃部を作り出す。

71は鋸歯縁石器。2側縁に急角度の刃部が作り出される。刃縁の挟りは浅く、ゆるい鋸歯状を呈する。

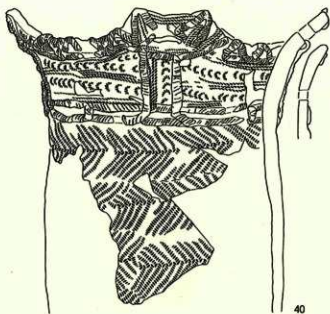
72、73は磨製石斧。72は全面丁寧な研磨が施されるが、部分的に整形時の打ち欠き及び敲打痕を残す。刃部の敲打痕は整形時のものではなく、再加工によるものである。刃部は両刃で、刃縁は左上がりになる。両面共に鑄は不明瞭である。73は薄手で基部を欠失する。両面に縦及び斜方向の丁寧な研



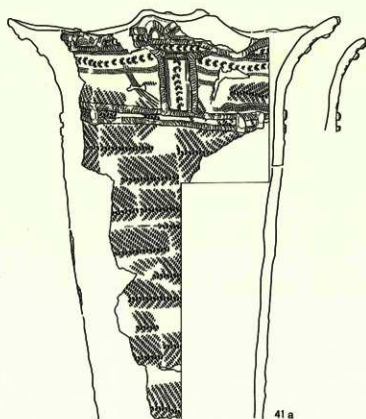
図Ⅲ-114 壕出土の土器⑪



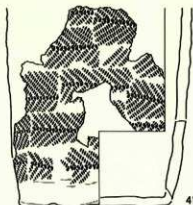
図Ⅲ-115 塚出土の土器⑦



40



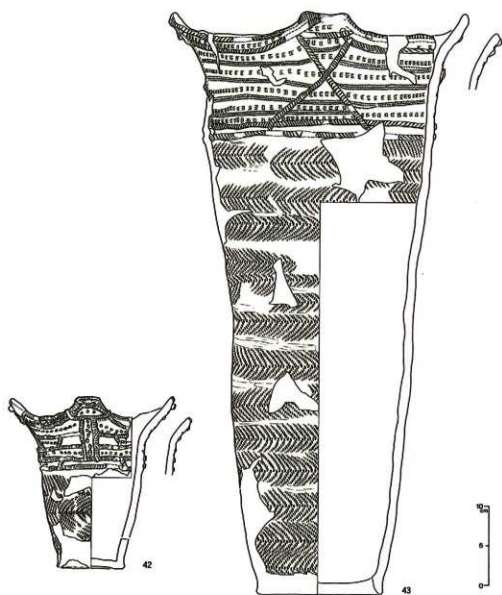
41 a



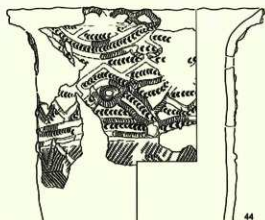
41 b

0 5 10 cm

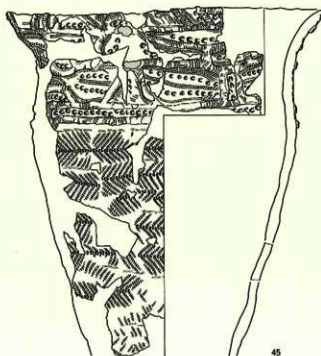
図Ⅲ-116 壕出土の土器03



図Ⅲ-117 塚出土の土器⑩



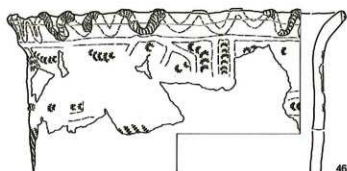
44



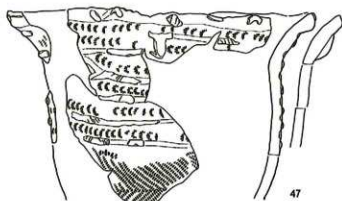
45



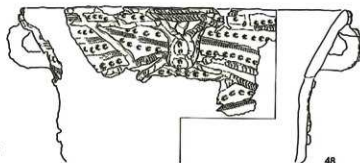
図Ⅲ-118 壕出土の土器⑨



46



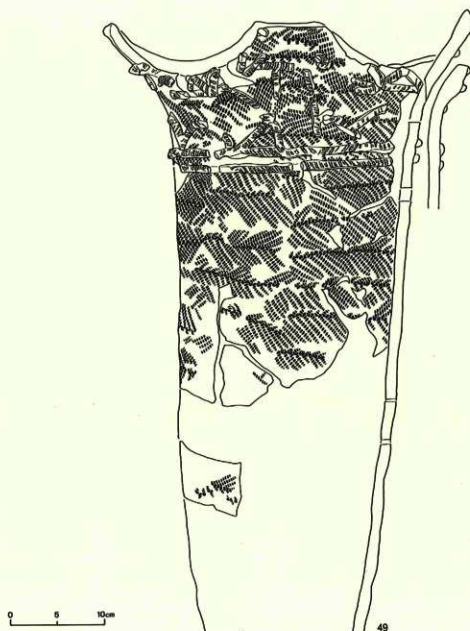
47



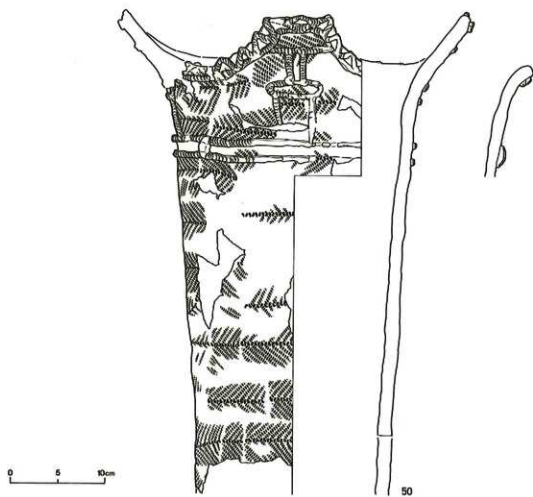
48

0 5 10cm

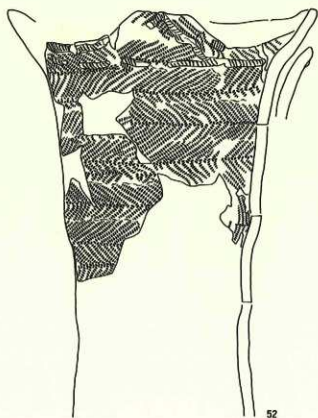
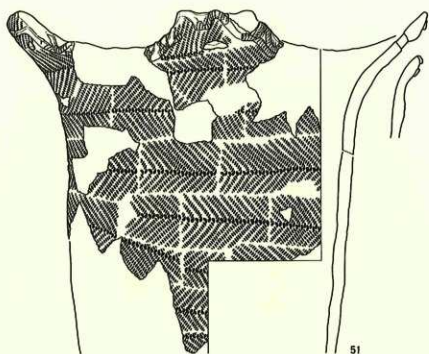
図Ⅲ-119 壕出土の土器⑥



図Ⅲ-120 塚出土の土器⑦

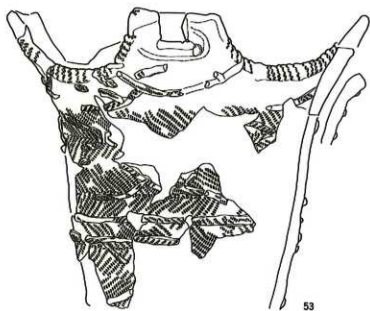


図Ⅲ-121 壕出土の土器⑧

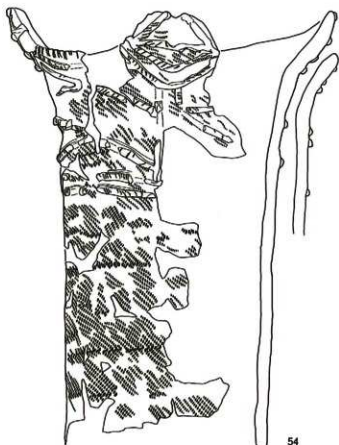


0 5 10cm

図Ⅲ-122 壕出土の土器(9)



53



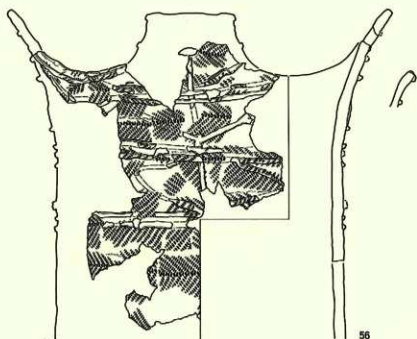
54

0 5 10cm

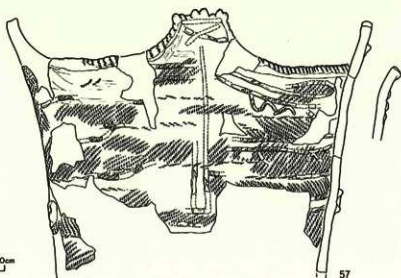
図Ⅲ-123 塚出土の土器②



55



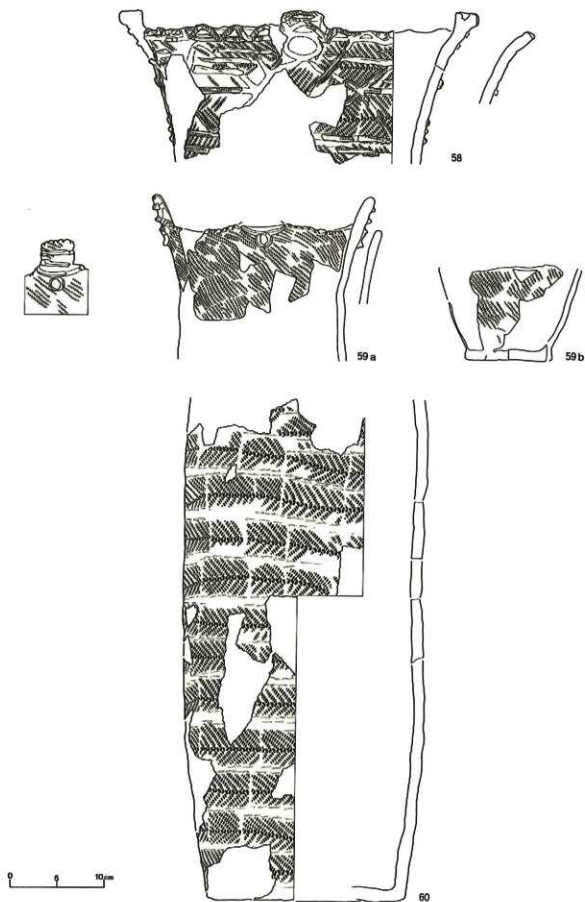
56



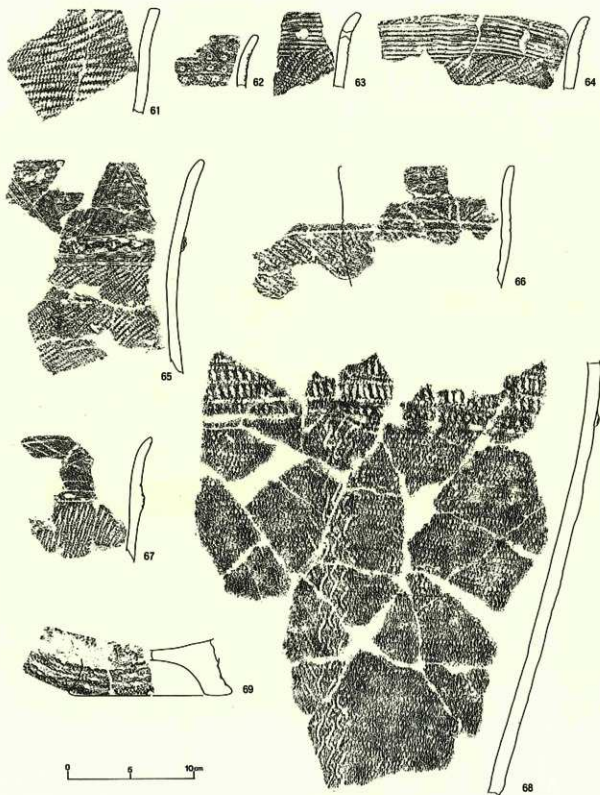
57

0 6 10cm

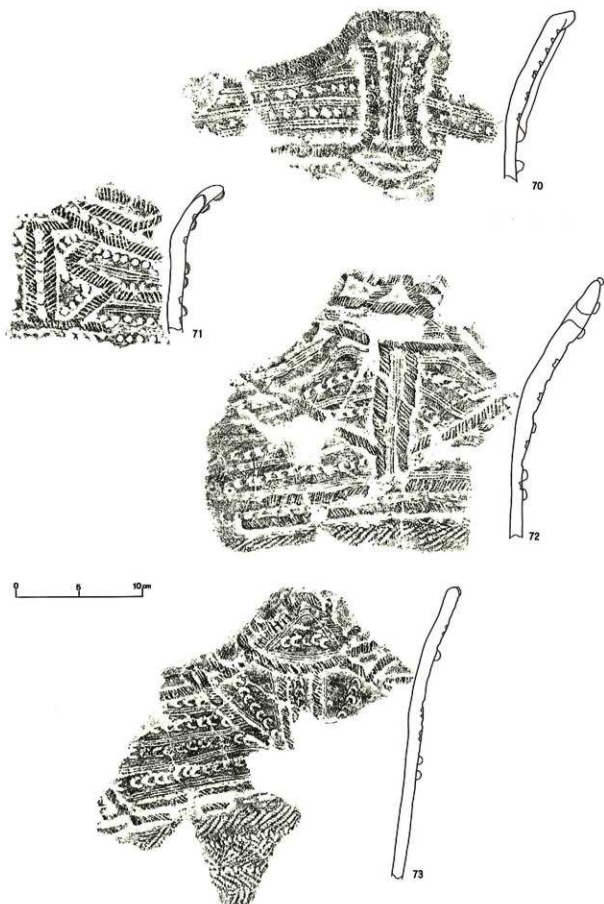
図Ⅲ-124 壕出土の土器(1)



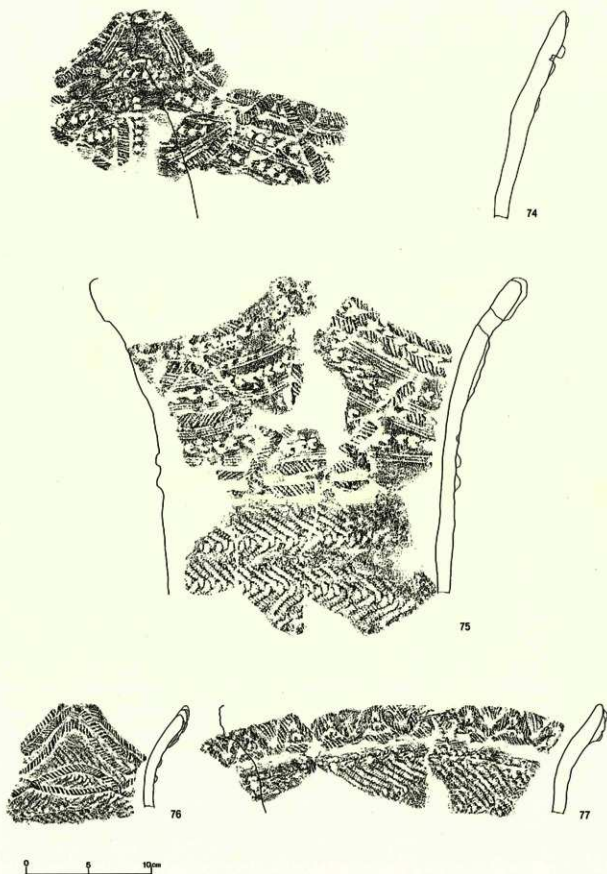
図Ⅲ-125 壕出土の土器⑦



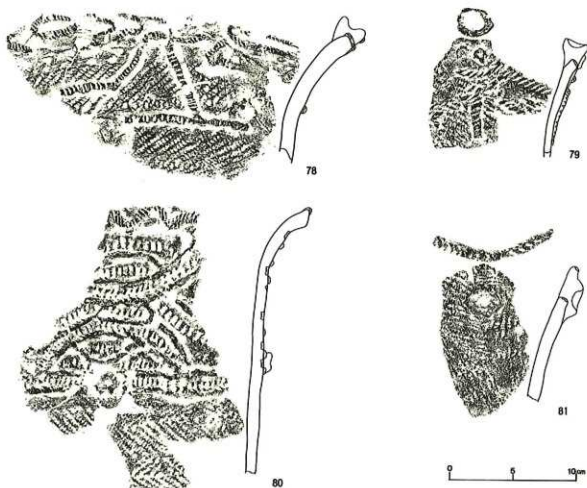
図Ⅲ-126 壕出土の土器④



図Ⅲ-127 壕出土の土器④



図Ⅲ-128 壕出土の土器(25)

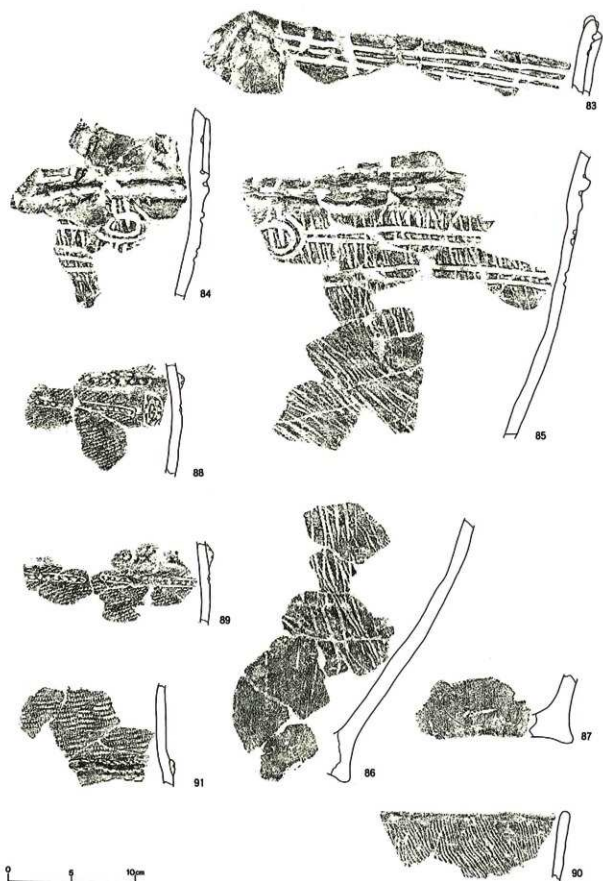


図Ⅲ-129 壕出土の土器④

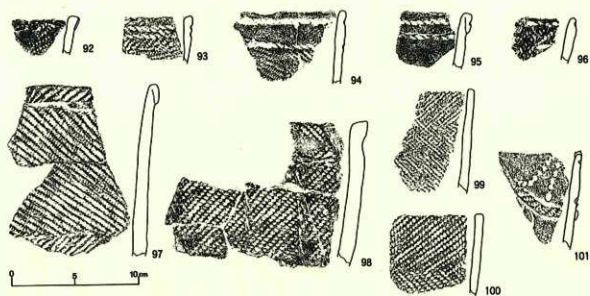
磨が認められる。刃部は両刃で、刃縁は湾曲する。刃縁に部分的に刃こぼれ状の細かい剥離痕が認められる。

74～90はたたき石。74～77は棒状の礫を素材とし、端部にたたき痕が認められるもの。74は大きな剥離によるたたき痕をもち、強い打撃を加えたものと推定される。75のたたき痕は浅く細かい。76は側縁のやや平坦な部分にもあばた状のたたき痕が認められる。77は礫の平坦面及び右側面にもやや深く、くぼんだたたき痕をもつ。78、79は小形の円礫を素材とするもの。78は端部に広いたたき痕をもつ。79はチャート製でよく使い込まれている。80～84は周縁部にたたき痕をもつもの。厚手の礫を素材とするものが多い。80は浅いたたき痕が周縁部から裏面下部にかけて認められる。81のたたき痕は細かいが全体的にやや深めである。82は表面右側縁以外の3辺にたたき痕を残す。83は偏平な礫を素材とする。左側縁は敲打により細いすり面を作り出している。84は表面と、上端部を除いた3辺にたたき痕が認められる。85～90は礫の平坦面にたたき痕が認められるもの。85は側縁と下端部にもたたき痕をもつ。86～88は棒状の礫を素材とする。86の表面のたたき痕は深くくぼむ。87のたたき痕は非常に細かく、ほとんど凹凸が認められない。88は角礫の1面に浅く細かいたたき痕をもつ。

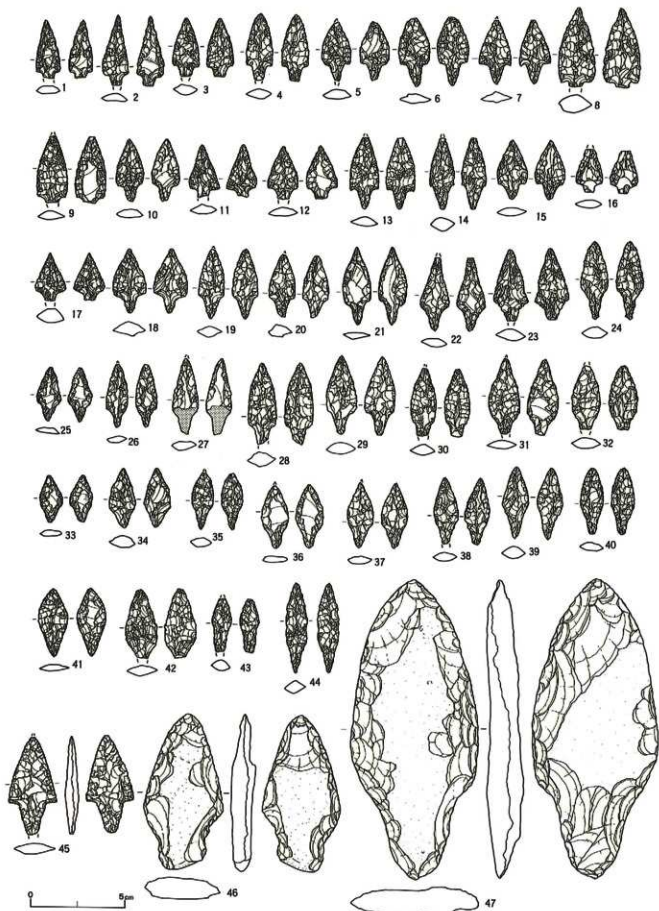
91～104はすり石。91～95は断面形が三角形状ないし三角形に近い形状のもの。礫の1側縁に打ち欠きにより細いすり面を作り出している。91、93のすり痕は軽微である。96は棒状の礫の側縁にすり面を作り出している。反対の側縁にも敲打によりすり面が作り出されている。97～99は偏平な礫の一



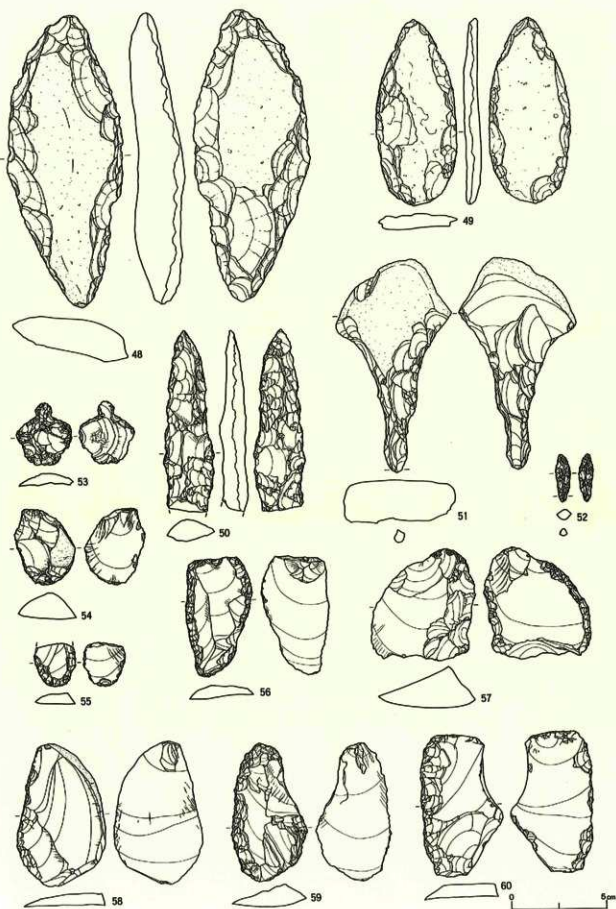
図Ⅲ-131 塚出土の土器例



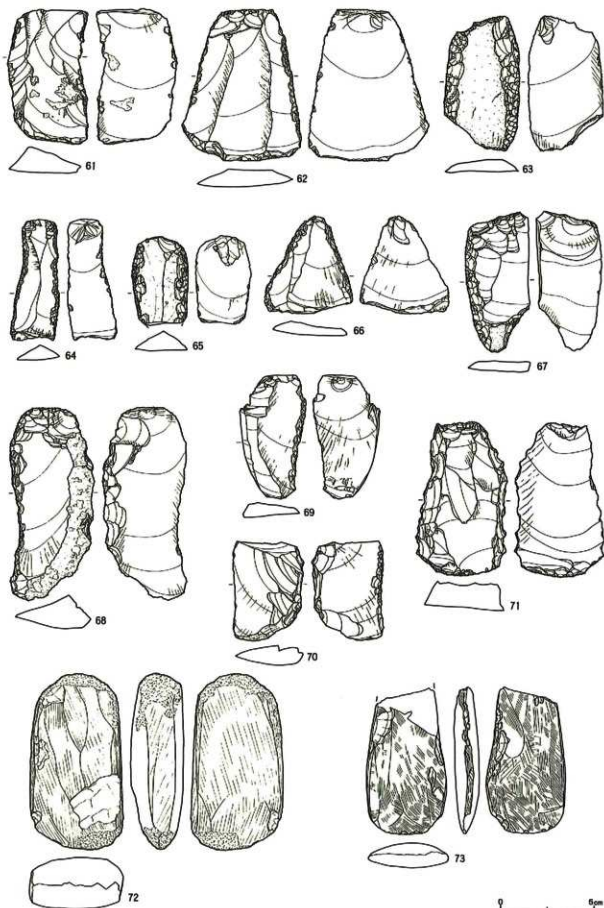
図Ⅲ-132 壕出土の土器群



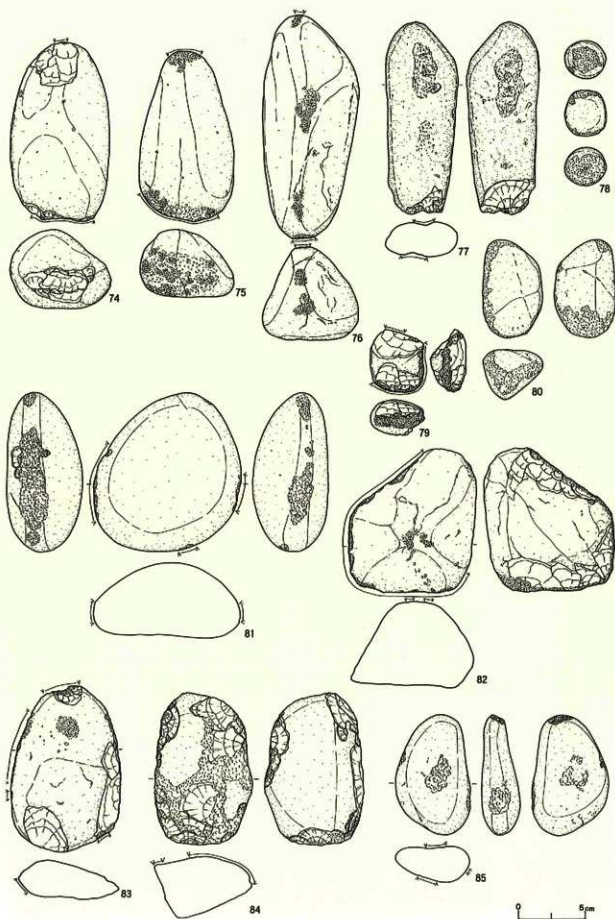
図Ⅲ-133 壕出土の石器(1)



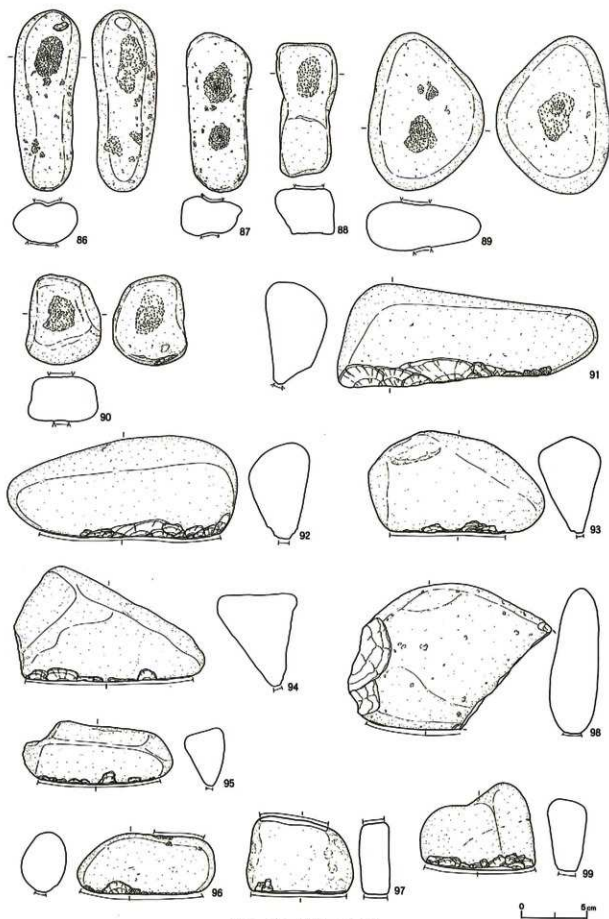
図Ⅲ-134 壕出土の石器(2)



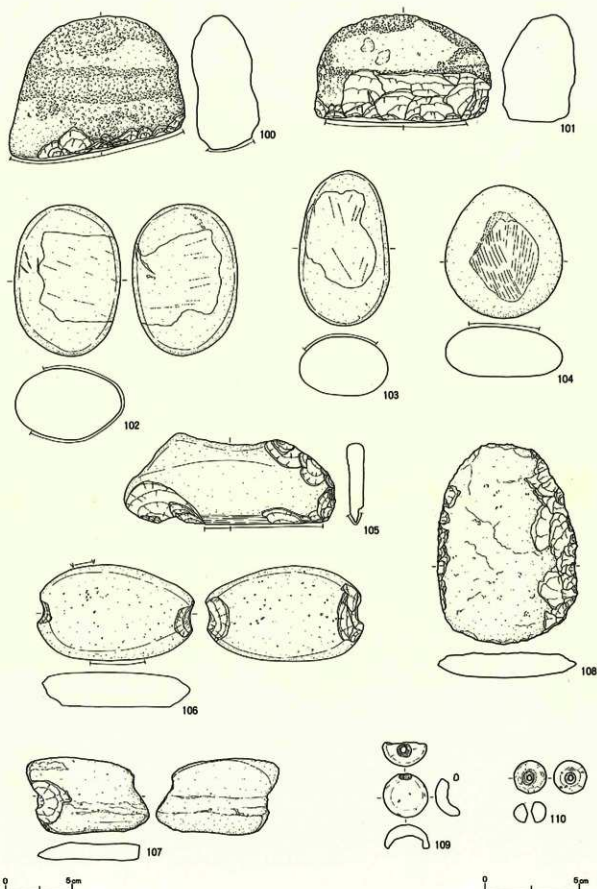
図Ⅲ-135 壕出土の石器(3)



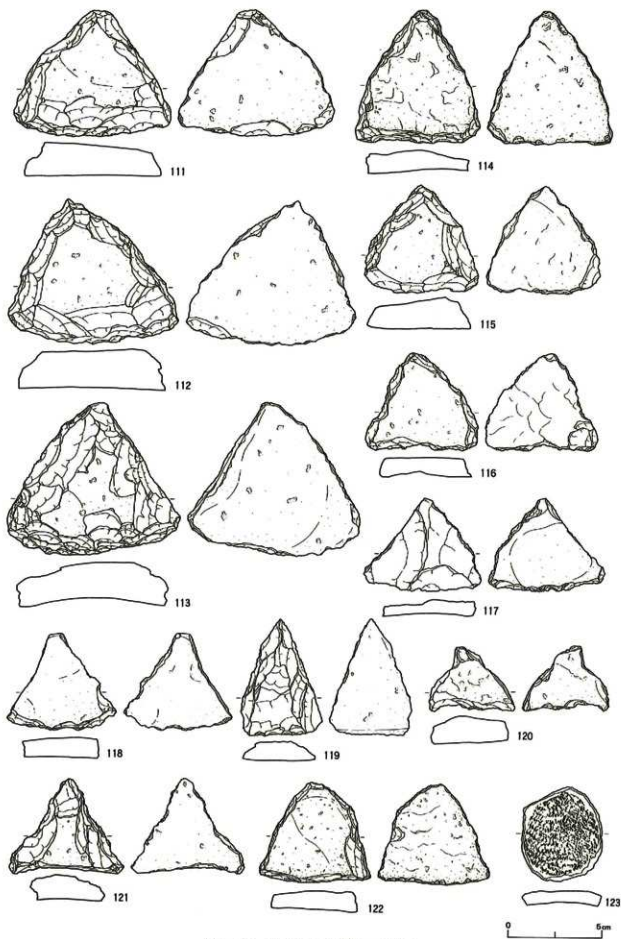
図Ⅲ-136 壕出土の石器(4)



図Ⅲ-137 塚出土の石器(5)



図Ⅲ-138 壕出土の石器(6)・石製品(1)



図Ⅲ-139 塚出土の石製品(2)・土製品

(7) 集石 (図Ⅲ-140)

集石は3ヶ所検出した。集石1はⅢc層で検出した。円形に広がる礫の集積である。礫の多くは炭化物が付着し、割れており、熱を受けているとみられる。遺構に伴う掘り込みはみられない。集石2は盛土上面で検出した。礫のほかにすり石2点、砥石2点、石皿・台石1点などが出土している。集石3はⅢc層の調査中に炭化物を含む灰褐色土の落ち込みとして検出した。被熱して赤変した礫の集中である。いずれの集石も時期は特定できない。

遺物 (図Ⅲ-140)

1は集石2出土のすり石。右部分を欠失する。偏平礫の側縁に周縁からの打ち欠きによる細長いすり面を作り出す。すり面はよくすられ、平滑である。端部に両面からの打ち欠きが認められ、石錘に転用された可能性がある。

(広田良成)

(8) 焼土 (図Ⅲ-141・142)

焼土は22ヶ所検出した。ほかの遺構と同じく分布し、偏りはみられない。また上面、焼土中に遺物をあまり伴わず、比較的輪郭のはっきりした形で検出されることが多い。焼土の時期は、F-61が縄文時代後期初頭に属する可能性があるほかは、特定できる出土遺物が無く不明である。遺物の出土した焼土は、F-29・30・31・32・47・48・49・61・64・85・87・88である。ほとんどが土器の細片、もしくは礫・礫片が少量出土するものであるが、例外として、F-48・49・61・85・88があげられる。

F-48 南側は攪乱を受けているが、平面形は直径約15cmの小さな円形とみられる。赤褐色の明瞭な焼土である。焼土中から礫・礫片が14点出土している。

F-49 平面形はやや西側に張り出す楕円形を呈する。赤褐色の明瞭な焼土である。焼土中からⅢ群A類土器が33点、礫・礫片が48点出土している。

F-61 平面形は東西方向に長いびつな円形を呈する。検出面で焼土の北西端に一部の状態でⅣ群A類土器がややまとまって出土している。

F-85 平面形は不整形である。焼土は茶褐色土に焼土ブロックが多量に混じる状態を呈する。検出面でつまみ付きナイフが出土した。焼土の南部に一部かかる状態で、つまみ部分は焼土側にある。

F-88 H-17の覆土2層で検出したもので、Ⅱ群B類土器、Ⅳ群A類土器などの土器20点、剥片6点が出土している。

(立田 理)

遺物 (図Ⅲ-142)

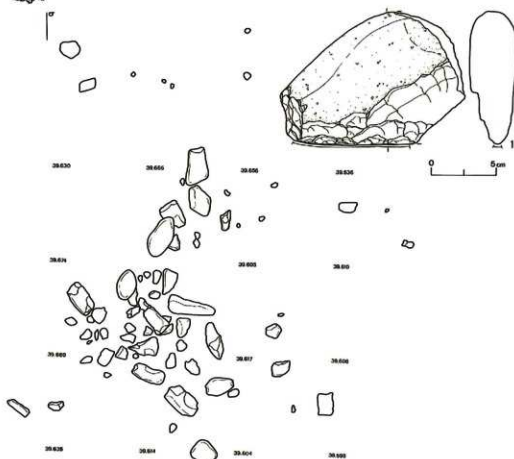
1はF-85出土のつまみ付きナイフ。末端部の一部を欠失する。背面全体及び腹面の右側縁と末端部に加工が施される。稜線は左に偏り、左側縁に急角度の刃部を作り出す。上端部以外の3辺には細かい剥離痕が認められる。

(広田良成)

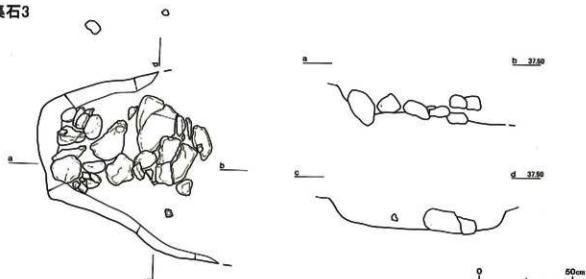
集石1



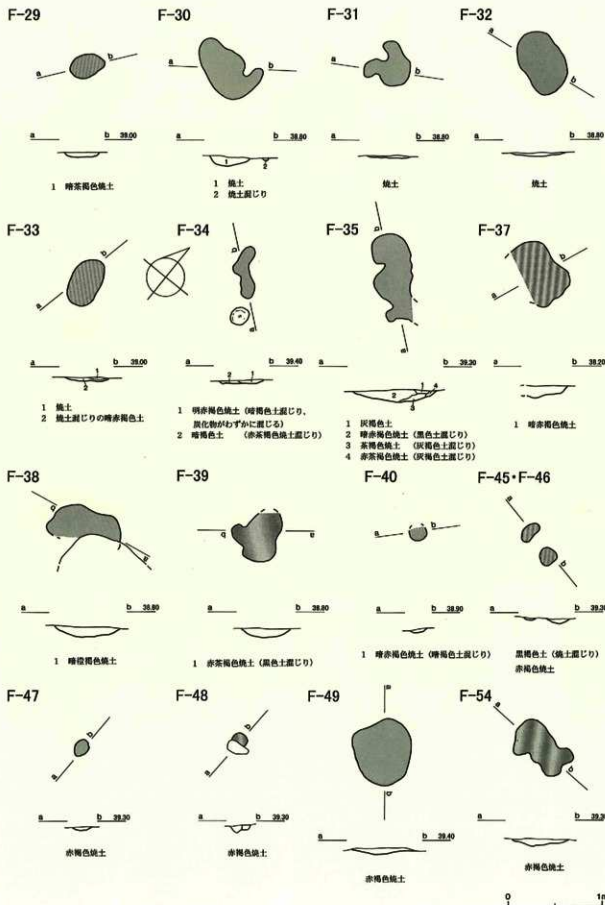
集石2



集石3



図Ⅲ-140 集石1・2・3と集石2出土の石器



図Ⅲ-141 Ⅲ層中・下部の焼土(1)

F-57



a b 39.00



暗赤褐色焼土

F-61

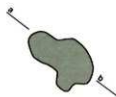


a b 39.20



赤褐色土

F-64



a b 39.10

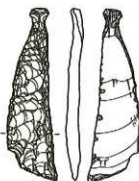


暗赤褐色土 (焼土)

F-85



a b 38.80



赤褐色土 (2mm次の黄褐色土粒が少量に散じる
ややしまる 粘性あり)

F-87



a b 37.80



赤褐色焼土

F-88



a b 38.30



褐色土 (焼土)

0 1m

図Ⅲ-142 Ⅲ層中・下部の焼土(2)とF-85出土の遺物

3 包含層出土の遺物

(1) 土器(図Ⅲ-143~164)

Ⅲ層中・下部から出土したⅠ群からⅤ群までの資料について記載する。包含層から出土した縄文時代の資料は8万点近くあり、早期から晩期にわたる各時期のものがある。このうちⅡ群B類の円筒土器下層式、Ⅲ群A類の円筒土器上層式、ⅣA類の余市式系統の土器が多く出土している。ただし、Ⅲ群A類土器については、平成4年度の調査で壕の盛土から出土したのもも包含層出土資料として扱っている。

Ⅰ群A類土器(図Ⅲ-143~145)

A-1類(1、2、4~8)

根崎式に相当するものである。1、2は口縁部に4か所の山形突起のあるもの。1は口唇の断面が切り出し状を呈するもので、唇上から口縁部にかけて幅のせまい貝殻腹縁の刺突文が施されている。その下位には横走沈線は沈線文が施された文様帯がある。山形突起とその中間の位置に縦位の沈線文が施され、その間を斜めの沈線文で埋めている。内面には横位の貝殻条痕文が施されている。2は細みの尖底土器で、口縁部に細い棒状工具を斜め方向から突き刺した刺突文がめぐり、体上半部には山形の口縁部とその中間部に口縁部の刺突文と同じ原体による縦位の刺突文が施されている。縦位の刺突文の間には斜めの貝殻条痕文が施されている。体中部には貝殻の腹縁部を押し引きながら波状に移動させた文様が施されている。口唇断面は切り出し状を呈する。4は口縁部に細い棒状工具による刺突文が施されたもので、口唇断面は切り出し状を呈する。5は爪かともみられるもので刺突文が施されたものである。6は貝殻の押し引き文の地に浅い沈線で鋸歯状の文様が施されたもので、内面にも条痕文が施されている。7は内外面ともに貝殻条痕文が施されたもので、口唇断面は切り出し状を呈する。焼成後に穿たれた孔が1個ある。8は貝殻条痕文が施されたもの。口唇上には波状、口縁直下には横位に、その下位には縦位に施文されている。口唇断面は切り出し状を呈する。

A-2類(9~55)

ムシリⅠ式に相当するものである。沈線文が施されるもの、沈線文と刺突文が施されたもの、絡条体圧痕文が施されるもの、無文のものがあり、口唇の断面形ではやや丸みを帯びたもの、尖るもの、切り出し状を呈するもの、切り出し状に近い形で肥厚するもの等がある。

a(9~12) 口唇断面が丸みを帯びた薄手のものである。9には交差する沈線文が施されている。10は口縁部に斜め方向と横位の沈線文が施されたもの。11は斜めの沈線文が施されたもの。12は横位の浅い沈線文が施されたものである。

b(3、13~18) 口唇断面が切り出し状に近いものや尖りぎみのもので、細い沈線文や条痕文が施されたものである。3は口縁部がやや外反し、山形の突起が4か所付くとみられるものである。口縁部には幅のせまい無文帯があり、その下位には横位の細い沈線文が密にめぐり、体部には横位の条痕が付いている。13には口唇刻み目が施されている。14は浅い条痕文が施されたもので、口縁には刻み目が施されている。15~17は条痕文が施されたもので、15、16の口唇には刻み目若しくは刺突文、17の口縁には斜めの短い沈線文が施されている。16の内面には横位の細かい条痕文が施されている。18は口縁部がかかるく外反するもので、低い山形突起が付く。口縁部には細い沈線文が施され、口唇には刺突文が施されている。

c(19~21) 口唇断面が丸みを帯びたもので、やや太めの沈線文が施されたものである。19~21は口縁部に斜めの沈線文が施された幅のせまい文様帯があり、19にはその下位に縦位と横位、20、21

には横位と斜位の沈線文が施されている。

d (22~28) 沈線文と刺突文が施されたものである。22は低い山形突起があるもので、口縁部には横走沈線がめぐり、沈線の間に刺突文が施されている。口唇断面は切り出し状を呈し、口唇の角には刻み目が付けられている。23~25は口唇断面が切り出し状に近いもので、口縁部がやや肥厚するものである。25には焼成後に穿たれた孔がある。内面には横位の細かい条痕文が施されている。26は口唇断面がやや丸い味を帯び、口縁部が少し肥厚するもの。27、28は沈線文と刺突文が施された胴部。

e (30~35) 口縁部が肥厚するもので、沈線文が施されたものである。30、31は口唇が尖りぎみのもの、32、34、35は口唇がやや丸みを帯びたものである。33は32と同一個体に属する可能性がある。

f (36、37) 口縁部に隆起帯のあるもの。36は低い山形突起のあるもので、口縁部に細めの隆起帯がめぐり、隆起帯上には斜めの刻み目が付けられている。体部には浅い横位の沈線文が施されている。37は口縁部が肥厚し、かつ隆起帯のある無文の土器である。

g (38~39) 絡条体圧痕文が施されたものである。38は口縁部がやや肥厚するもので、口縁部には絡条体圧痕文が施され、体部には縦位の整った沈線文が施されている。内面には細かい横位の条痕が付いている。39、41は口縁と体部に絡条体圧痕文が施されたもの。40は口縁に「ハ」の字の刻み目が施され、その下位に絡条体圧痕文が施されている。42は沈線と絡条体圧痕が施されたもの。

h (43~46) 口唇がやや丸みを帯びた角形に近いもの。43、45、46は無文のもの。44は浅い横位の条痕文が施されたもの。

i (47~55) 平底の底部。47~49は底部の角に刻み目が付けられたもの。50、51は浅い沈線文が施されたもの。52~55は条痕文が施されたものである。

I 群B類土器 (図III-146~148)

B-1類 (1~27)

東銅路Ⅱ式ないし東銅路Ⅲ式に関連するかとみなされる資料である。底部の形態には平底と丸底ぎみの尖底がある。縄の側面圧痕文が施されるものと縄文の施されたものがあり、施文後にかかる磨かされている。縄文の施されたものでは節がつぶれ、条間が開くものが多い。磨かれてやや光沢のあるものもある。器面には「ヌメリ」がある。薄手のものとやや厚手のものがあり、これらには時間的新旧があるかと思われるが、ここでは便宜的に一括して記載する。胎土には繊維が多量に含まれることから現地整理の時点で便宜的にⅡ群として分類しているため、遺物の集計表ではそのままⅡ群の項に入れている。K-20・21、L-20・21区、M-20・21区あたりで多く出土した。

a (1~10) 口縁部の無文地に縄の側面圧痕文が施されたものである。1は口縁がやや外に反るもので、口唇直下に横位に施文されている。口唇断面は丸い。胎土の繊維の量は少ない。2、3は口唇断面が丸みを帯びた角形のもので、3の口唇には縄文が施されている。4~10は薄手のもので、3、6、10の内面には条痕文、8の内面には縄文が施されている。

b (11~17) 縄文の施されたものである。11は口唇と内面にも施文されている。12、13はR Lの原体で横走縄文と斜行縄文が施されたもので、口唇にも施文されている。内面には条痕文が施されている。14~16は斜行縄文が施されたもので、14は口唇にも施文されている。17はL RとR Lの原体で羽状縄文が施されたもので、口唇にも縄文が施されている。内面には条痕文が施されている。口縁部には焼成後に2個の孔が穿てられている。18、19は同一個体に属するもので横走ぎみの粗い縄文が施されている。内面には浅い条痕文が施されている。

c (20~27) 底部及び底部近くの資料である。20~22は丸底ぎみ底部近くの資料とみられるもの。20、21は同一個体に属する縄文の施されたもので、底部近くには薄い隆起帯があり、隆起帯上に縄の

側面圧痕が付けられている。22は粗い縄文の施されたもので、原体の回転方向を変えて施文されている。内面にも縄文が施されている。23、24は尖底の底部。24は縄文の施されたもの。25は平底のもの。26、27は揚げ底のものである。

B-2類 (28~38)

中茶路式に相当するものである。微隆起線文の間に縄文の施されるもの(28、37、38)、短縄文の施されたもの(29、31~36)、縄文と短縄文が施されたものがある。胎土には細砂粒が含まれているものが多い。

B-3類 (39~46)

東銅路Ⅳ式に相当するものとそれに関連するかとみなされるものである。別の時期かと考えられるものもあるが便宜的にここで記載する。胎土には繊維を含むものが多い。42~46は撚糸文若しくは自縄自巻の縄文が施されたもので、44には縄端の圧痕文が施されている。45にはあやくり文も施されている。46は太目の撚糸文と短縄文が施されたものである。

Ⅱ群A類土器(図3-149~151)

A-1類 (6~27)

口縁部に幅のせまい無文種のあるものと無いものがある。内面は丁寧になで調整されているものが多い。胎土には細かい砂と繊維を含む。

a (6、7) 口縁部に幅のせまい無文帯のあるもの。6は口縁部の無文帯の下縁に細い隆起帯がめぐるので、隆起帯には刻み目が付けられている。体部にはLRの原体を重ねて施文し、条が交差する縄文が施されている。無文部は丁寧になで調整されている。口唇の断面は角が丸みを帯びた角形を呈する。24の胴部片は同一個体に属する可能性がある。7は口縁部に細い隆起帯のあるもので、貼付帯上にはLRの原体、体部にはRLの原体をそれぞれ横位に施文した縄文が施されている。無文部は丁寧になで調整されている。口唇断面はやや丸みを帯びる。

b (8~19) 口縁部に無文帯の無いもの。8~10は口縁部に幅3cm前後の斜行縄文が施されるもので、口唇断面は丸みを帯びた角形を呈する。8、10は口縁部の縄文の下位に撚りの異なる縄文が施されていて羽状縄文となっている。8の内面には条痕が付いている。9は口縁部に横走ぎみの斜行縄文が施されたもので、その下位には原体を横位に施文した斜行縄文が施されている。11~14はやや薄手のもので、口縁部に1cm前後のせまい幅で斜行縄文が施され、以下、撚りの異なる原体で羽状縄文が施されている。15~19は口唇にも施文されるもので、15~17には口唇に斜めの刻み目が施されている。18、19は口唇に縄文が施されるもので、19には羽状縄文が施されている。

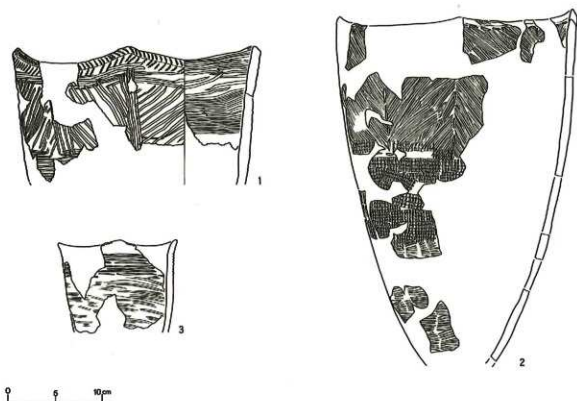
c (20~27) 本類に属するとみなされる胴部。20、21は羽状縄文の施されたもの。22、23は縦位施文の羽状縄文が施されたもの。24~27は条が交差する縄文が施されたものである。

A-2類 (28~35)

春日町式、石川野出土資料、般法華式に相当するもの。28、29は平底の底部。30は口縁部に山形突起の付くもので、縄文地に横走沈線が施されている。31、32は縄文地に連続する押し引きによって沈線文が施されたものである。33~35は押し引きによる刺突文が施された尖底土器の底部である。

A-3類 (1~5、44~56)

縄文が施されたものを便宜的に一括した。胎土には細砂粒と繊維が含まれている。1は斜行縄文が施されたもので、口唇断面はまるみを帯びる。2は太目の原体で斜行縄文が施されたもの。3は口縁部を欠くが、底部が尖底をなすもの。4は複節の縄文が施されたもの。5は結節の回転文が施された尖底土器の底部である。46~54は斜行縄文の施されたもので、46~49は口唇にも施文されている。46



図Ⅲ-143 包含層出土の土器(1)

の内面には条痕文が施されている。55はあやくり文の施されたもの。56は縦位の結束羽状縄文が施されたものである。

A-4類 (36~43)

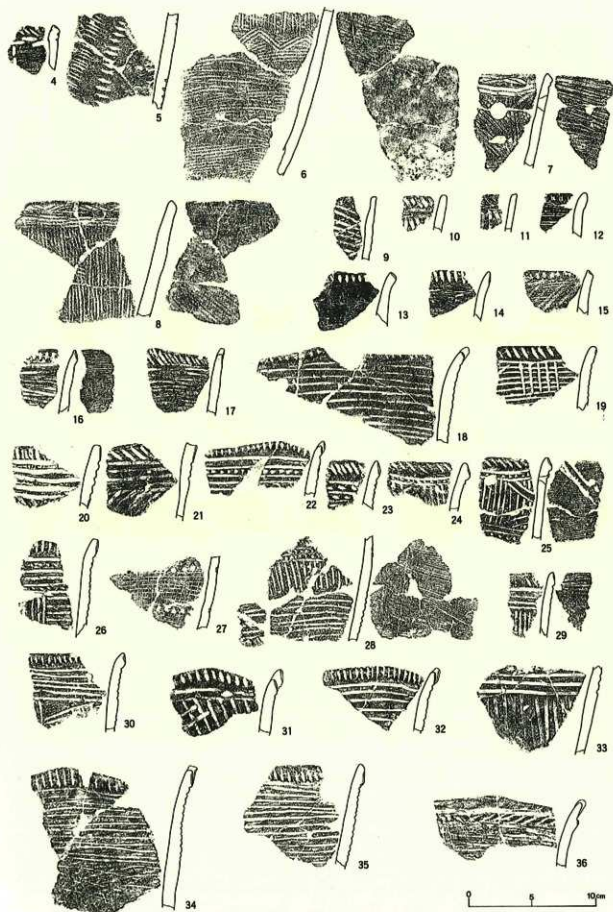
表裏に縄文が施されたもの。I群B-1類に類似するが、胎土には細砂粒と繊維が含まれ、ザラザラして器面の「ヌメリ」がないものである。口唇断面は角形若しくは丸み未を帯びた角形を呈するものが多い。I群B-1類に含めた方がよいと思われる資料もあるが、便宜的にここで記載する。今後の類例を待って検討したい。36~38は表裏に横走る縄文が施されたものである。36、37には口唇にも施文されている。40、42、43は斜行縄文が施されたもので、40、42は口唇にも施文されている。41は条の交差する縄文が施されたもので、口唇にも施文されている。

A-5類 (57~60) 所属時期の明らかでないものを一括した。胎土には細砂粒と繊維が含まれることから便宜的にここで記載する。57は斜行縄文の地に浅い沈線文が施されたもので、口唇断面は丸みをおびる。58は低い山形突起の付くもので、縄文地に縦横に沈線文が施されている。突起部分の口唇はめくれている。59は口縁部に山形突起のあるもので、原体は明らかではないが、縄文地に撚り糸文が施されているように見える。60は横位の撚り糸文が施されたもの。胎土には繊維のほか砂粒が多く含まれている。

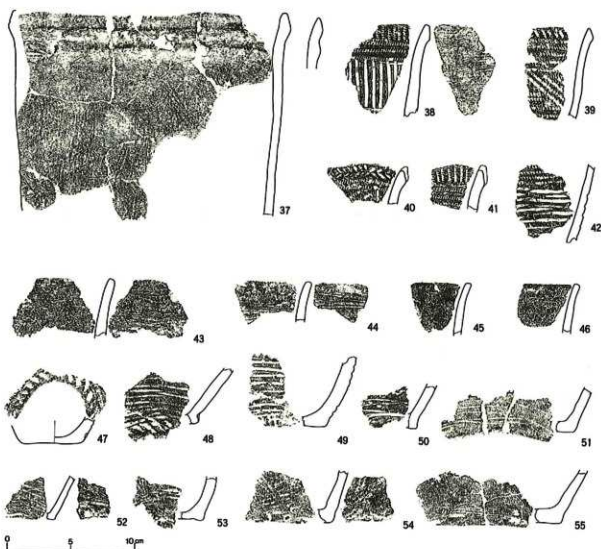
Ⅱ群B類土器 (図Ⅲ-152~154)

B-1類 (1、8~11)

円筒下層a式に相当するかとみなされるものである。1、8~10口縁部に結節の回転文が施されたもので、1、9、10は体部に複節の縄文が施されたもの。11は全面に複節の縄文が施されたものであ



図Ⅲ-144 包含層出土の土器(2)



図Ⅲ-145 包含層出土の土器(3)

る。口唇にも施文されている。

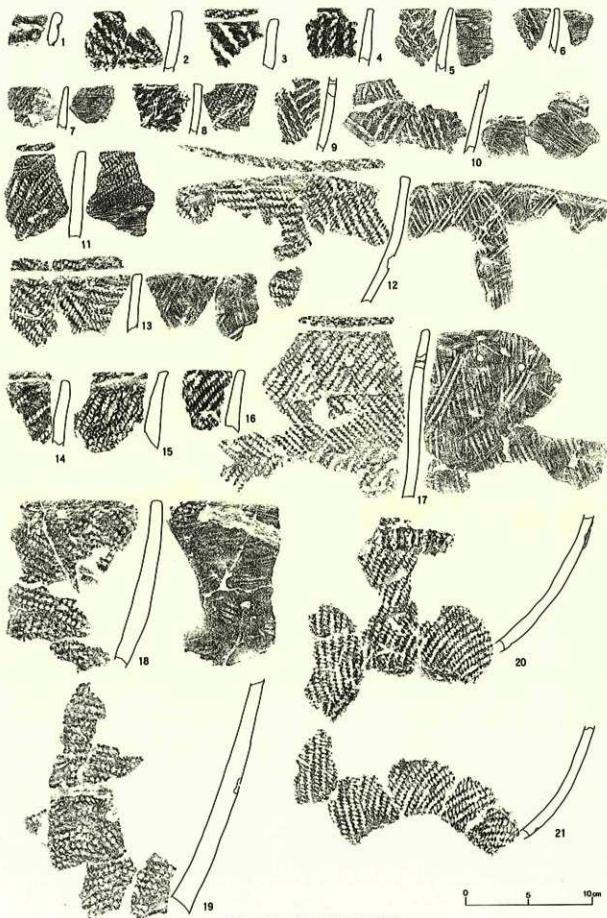
B-2 類 (2~7、12~22)

円筒下層c式に相当するもの。

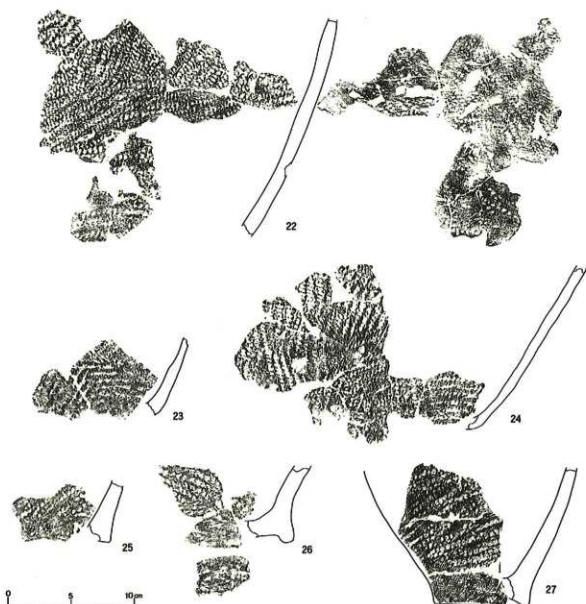
a (2) 口縁部に縄文が縄文が施されたものである。2は口縁部に2段の原体の縄線文を1条めぐらせ、その下位に斜行縄文が施されたものである。口縁部と体部の境には2条の沈線文がめぐり、沈線の間には刺突文が施される。

b (3、12、13、16) 口縁部の縄文地に縄線文で文様が描かれたもの。3は口縁部に山形突起のあるもの。12は口縁部が外反するもの。13、16は口縁部に山形突起の付くもので、突起部分から3条の縄線文が垂下する。体部との境には段がついている。16の口唇には縄文が施されている。

c (4~7、14、15、17、22) 口縁部の無文地に縄線文で菱形を基調とする文様が描かれたものである。4は平縁のもの。5は口縁部に4か所の山形突起の付くもので、体部には単節と無節の結束羽状縄文が施されている。6、7は平縁のもので、地文に幅のせまい結束羽状縄文が重ねられている。22は口縁部に山形突起の付くもので、文様帯の下縁には刺突文がめぐる。



図Ⅲ-146 包含層出土の土器(4)



図Ⅲ-147 包含層出土の土器(5)

d (18~21) 口縁部に条痕文が施されたもの。18、19、21には条痕文の地に縄線文が施されている。

B-3 類 (23~28)

円筒下層d式に相当するものである。23~25、28は口縁部に撚りの異なる2本組みの縄線文が施されたものである。23の文様帯はやや幅が広い。B-2類に含まれるものかもしれない。25の体部には多軸絡条体の回転文の上に結束縄文が重ねて施文されたものである。27は口縁部に2段の原体の縄線文が施されたやや厚手のものである。

底部 (29~35) 29~35はⅡ群B類土器の底部。

Ⅲ群A類土器 (図Ⅲ155~157)

A-1 類 (1~3、5~7)

円筒上層b式に相当するものである。1は口縁部に4か所の弁状突起の付く大型のもので、口縁部

には無文地に太い貼付帯で文様が描かれている。貼付帯の間には竹管状工具による刺突文が施されている。体部には結束羽状縄文が施されている。2は口縁部に4か所の弁上突起の付いた小型の土器である。全面に結束羽状縄文が施されている。3は平縁のもので、縄文地に細めの貼付帯で文様が描かれている。口縁部には4か所の吊り耳が付く。体部には結束羽状縄文が施されている。5～7も結束羽状縄文の地にやや細めの貼付帯が施されたものである。

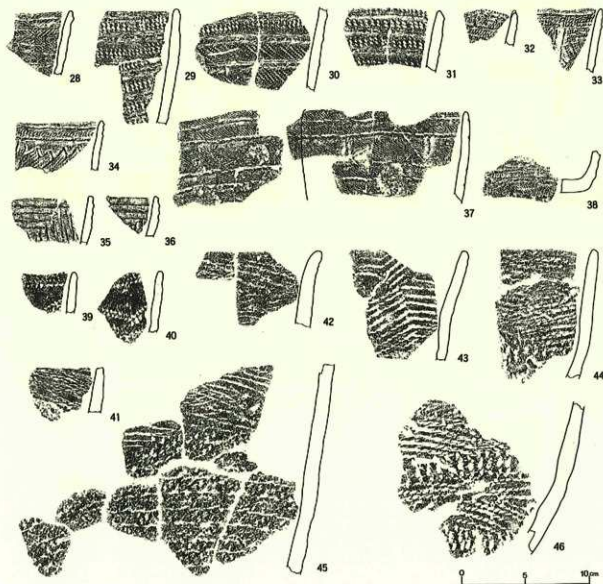
A-2類(4)

サイベ沢Ⅶ式に相当するもの。4は口縁部に4か所の二段に分かれる突起の付く小型の土器である。斜行縄文の地に沈線文で文様が施されている。

Ⅲ群B類土器(図Ⅲ-158～159)

B-1類(1、2、4、5)

榎木林式に相当するもの。1は口縁部に4か所の低い山形突起が付くもので、体部には縦走する縄文が施されている。口唇断面は丸みを帯び、口唇から内面にかけて丁寧に調整されている。4、5も口縁部に山形突起の付くもの。4の口縁には2段の原体の縄線文が施されている。5は細かい除文の

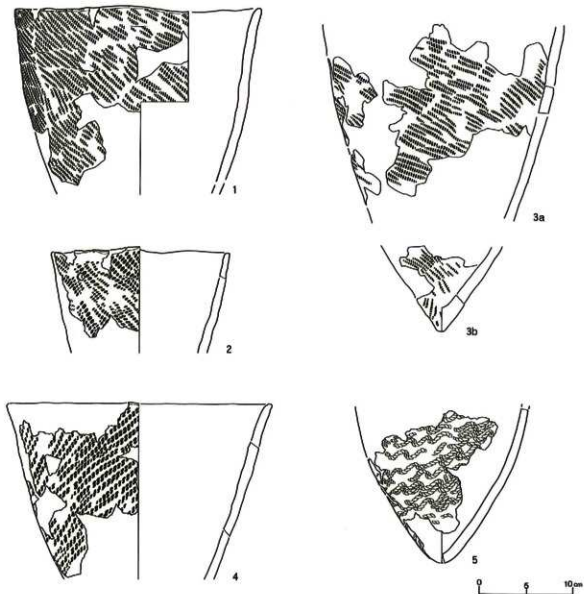


図Ⅲ-148 包含層出土の土器(6)

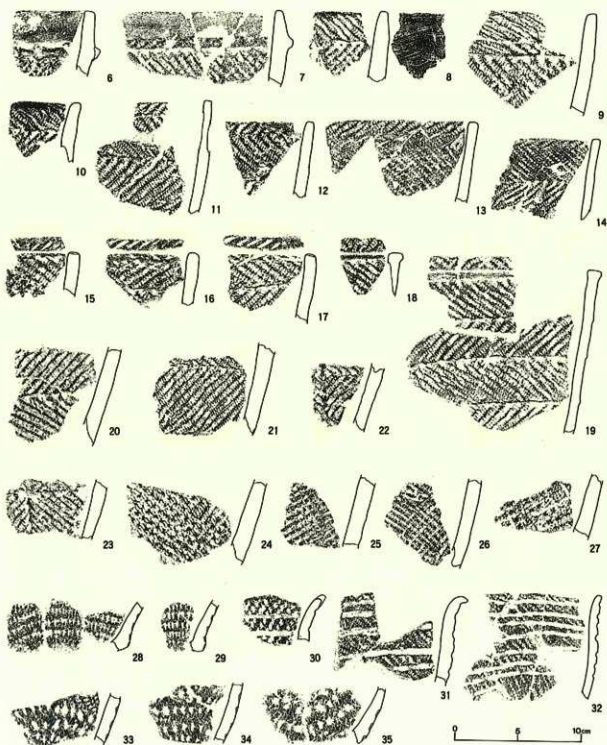
施されたもので、口唇から内面にかけて丁寧に調整されている。口縁部には焼成後の貫通孔が1個ある。2は口縁部に4か所の山形突起の付くもの。全面に縄文が施されている。

B-2類 (3、6~27)

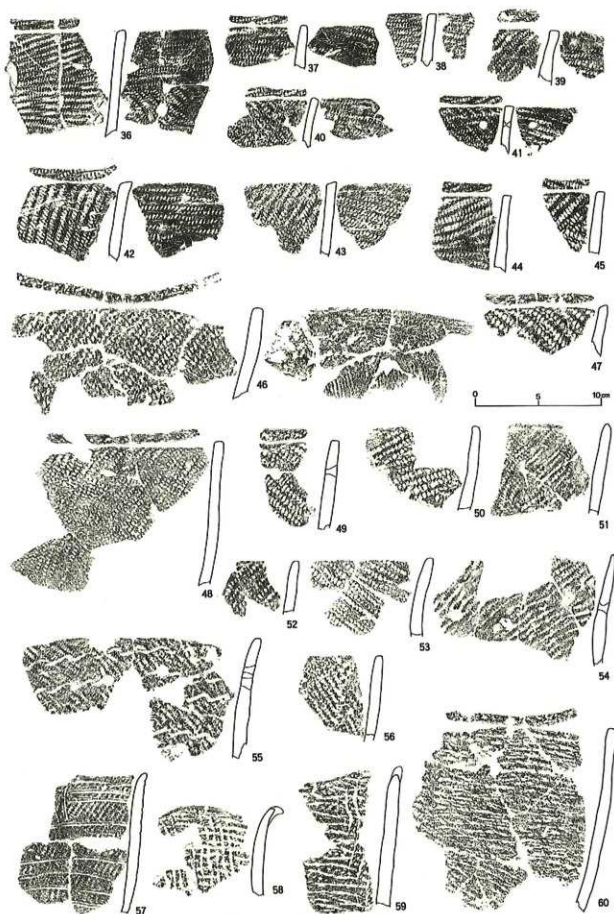
大安在B式、ノグップⅡ式に相当するものである。6、7は口縁部の無文地に貼付帯の施されたもので、6の貼付帯上には縄線文、7には円形の刺突文が施される。8は縦位の沈線文と刺突文が施されたもの。9~11は口縁部に刺突文が施されたものである。10、11の体部には細かい撫糸文が施されている。12は細かい撫糸文が施されたもので、口唇には竹管状の工具による刺突文が施されている。13はあやくり文が施されたもので、口唇には刺突文が施される。14~21は撫糸文が施されたもの。3は口縁部に4か所の低い山形突起が付くもので、頸部から口縁部にかけて強く外反する。口縁部から体上半部にかけては横走ぎみの縄文、それより下位では斜行縄文が施される。頸部と体部の境には貼付帯が1条めぐり、貼付帯上には刺突文が施されている。22~24は同一個体に属するとみられるもので、22には口縁部から2条の細い貼付帯が垂下し、口縁には貼付帯の上から2条の縄線文がめぐる。



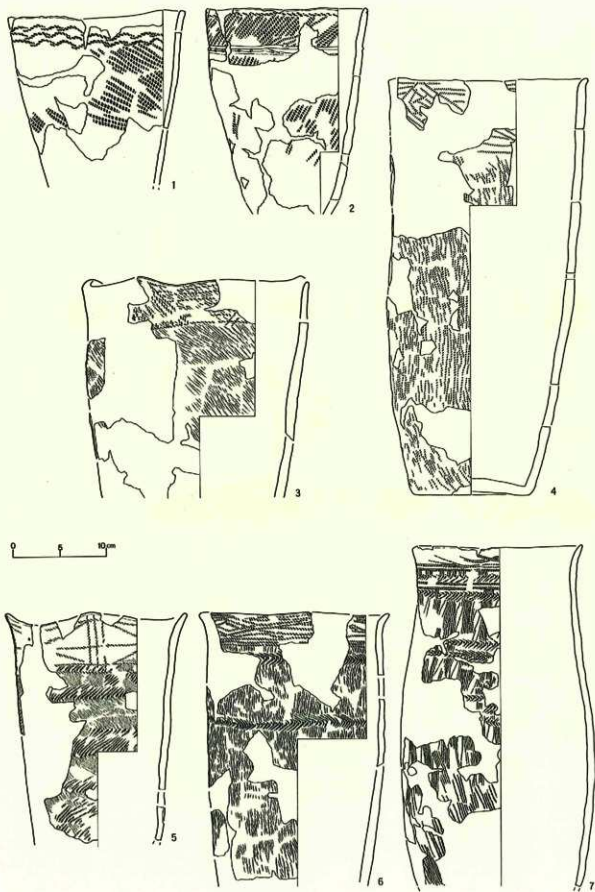
図Ⅲ-149 包含層出土の土器(7)



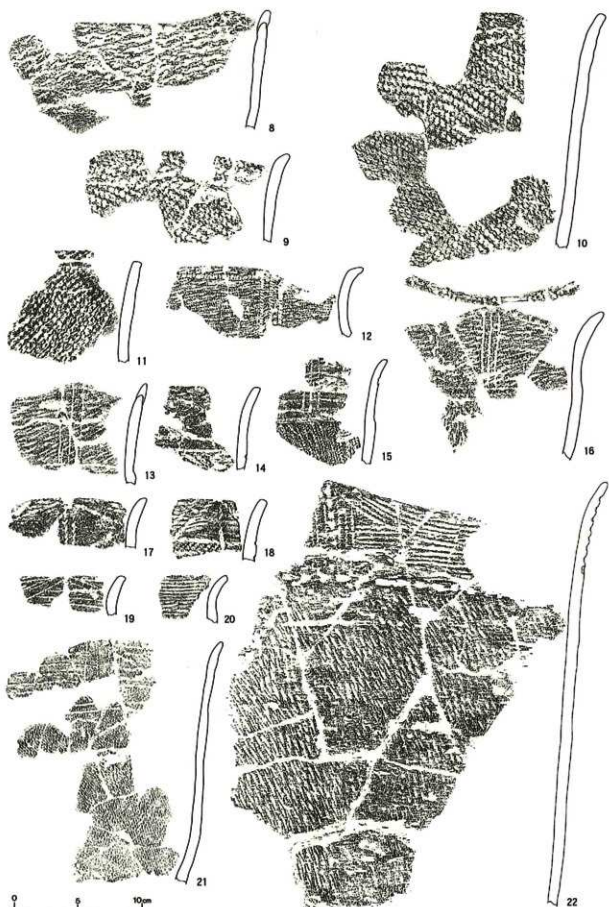
図Ⅲ-150 包含層出土の土器(8)



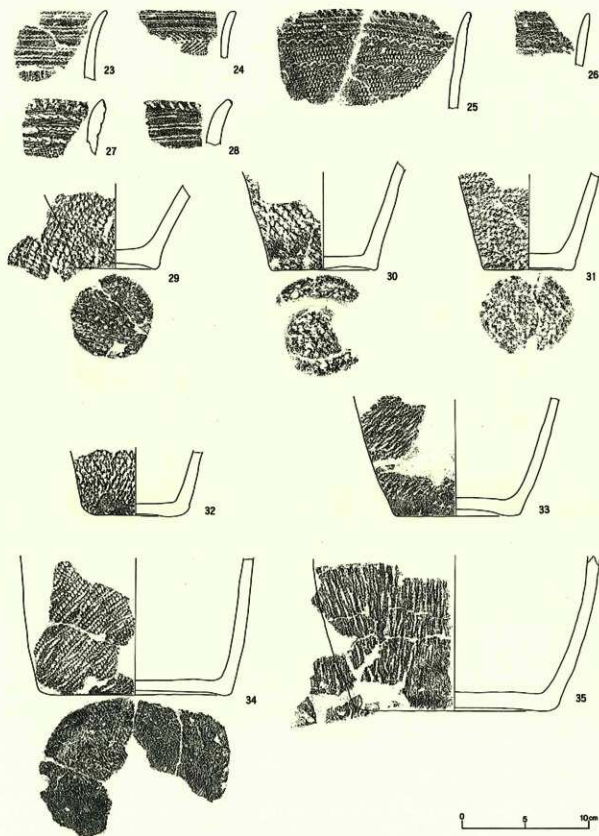
図三-151 包含層出土の土器(9)



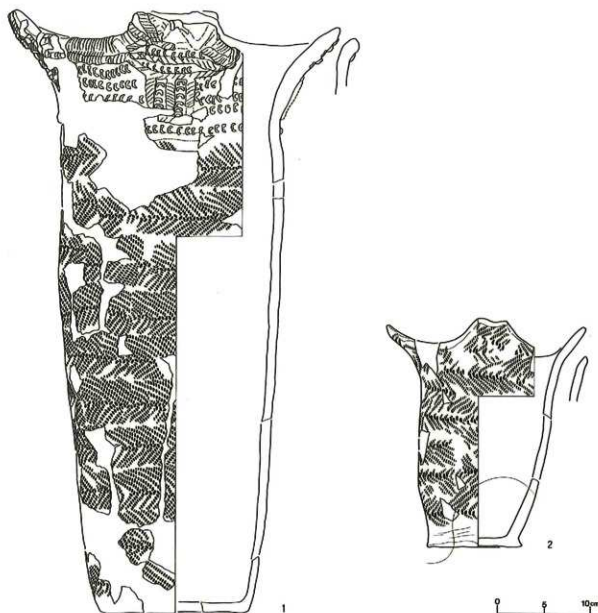
図Ⅲ-152 包含層出土の土器④



図Ⅲ-153 包含層出土の土器①①



図Ⅲ-154 包含層出土の土器⑦



図Ⅲ-155 包含層出土の土器⑬

25は口縁部に低い隆起帯のあるもの。26は横走縄文の施されたもの。28は無文地に縄線文が施されたもので、頸部と体部の境に隆起帯がめぐり、隆起帯上に刺突文が施されたものである。29、30は口縁部に刺突文が施されたものである。6～21は大安在B式、3、22～30はノダップⅡ式に対応すると考えられる。

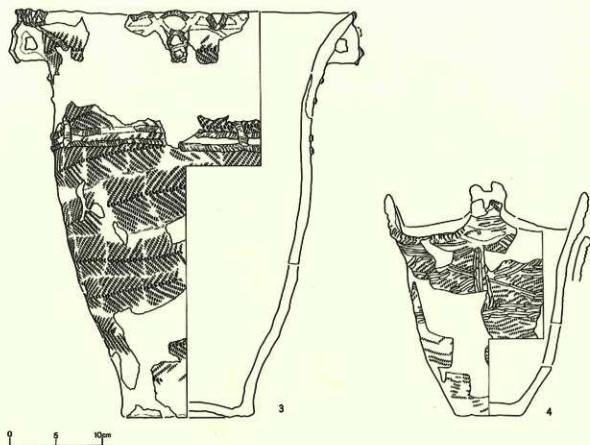
Ⅳ群A類土器 (図Ⅲ-160～163)

A-1類 (1～70、75～80)

天祐寺式、涌元式に相当するものとそれらに伴うとみなされる資料である。

a (6～13) 刺突文が施されたものである。貼付帯の施されたものと貼付帯の無いものがある。

6、7は口縁部に薄い貼付帯が施されたもので、貼付帯上に斜め方向からの刺突文が施されている。8～13は器面に対して垂直に刺突文が施されたものである。8～10は器面に縦位施文の縄文が施されて



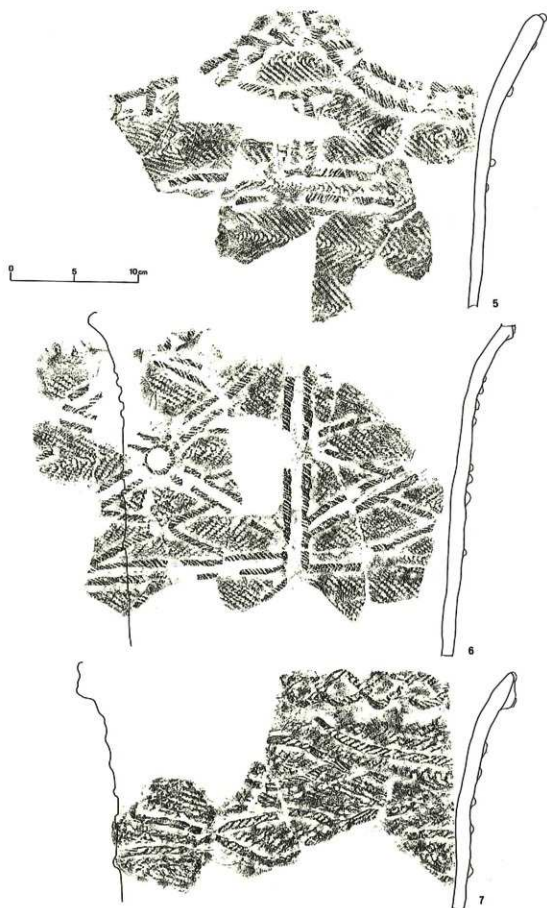
図Ⅲ-156 包含層出土の土器④

いる。11、12は同一個体に属するもので、貼付帯上も体部も横位施文の縄文が施されている。13はR Lの原体による斜行縄文が施されている。

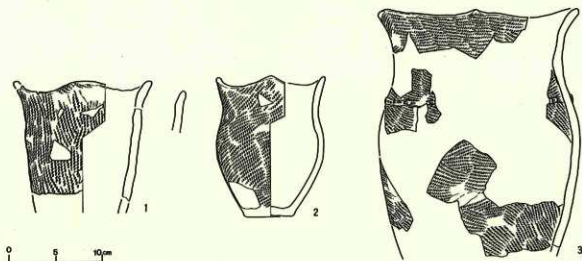
b (1、2、15~28) 口縁部に貼付帯が施されるものである。口唇断面は角ばるものが多い。1は底部から口縁部にかけて外に開くもので、口縁部に貼付帯が1条めぐり、貼付帯上には横位、体部には縦位施文の縄文が施されている。2は体部がやや張るもので、口縁部と体部に貼付帯が施されている。貼付帯、体部にかかわらずL Rの原体を横位、縦位に施文している。15~27はL Rの原体で貼付帯上には横位、体部には縦位に施文している。28は口縁部に薄い貼付帯が施されたもので貼付帯から体部にかけて縦位施文の縄文が施されている。

c (29~44) 口縁部に縄線文が施されるものである。29~33には貼付帯上に2段の原体の縄線文が施されている。34は口縁部に薄い貼付帯が施されたもので、貼付帯の下位の縄文地に2段の原体の縄線文が施されている。35は口縁部に折り返し状の貼付帯が施されたもので、無文地に「ハ」の字の縄線文が残っている。37~39は口縁部の無文地に2段の原体の縄線文が2条めぐり、体部には縦位施文の縄文が施されている。40は口縁部の縄文地に3条の縄線文がめぐり、体部には口唇直下に2段の原体の縄線文が施されたものである。41~44は口唇直下に2段の原体の縄線文が施されたものである。

d (45~56) 縄文の施されたものである。45~48、52は口縁部に幅せまく横位施文の縄文が施され他もので、体部には縦位施文の縄文が施されている。49はR LとL Rの原体で羽状縄文が施されたもの。50、51、53、56は同一原体の施文方向を変えて羽状縄文が施されている。54、55には斜行縄文が施されている。



図III-157 包含層出土の土器(19)



図Ⅲ-158 包含層出土の土器06

e (57~63) 57~59, 61は折り返し状の口縁部をもつもので、57, 58の口縁部には斜行縄文が施され、59は折り返し部が無文となっている。61は細かい燃糸文が施されたもの。60は口縁部に斜行縄文が施され、体部には網目状の燃糸文が施されている。62は横走気味の縄文が施されたもの。63は厚手の土器で、体部が張り、口縁に向かって内傾するものである。体部には横走ぎみの縄文が施されている。口唇断面は丸みを帯びた角形を呈する。

f (64~68) 貼付帯に刺突文が施されるものである。64は口縁部にボタン状の貼瘤が付けられたもので、刺突文が施されている。65は縄文地に貼付帯が施されたもので、貼付帯上には刺突文が施されている。66は無文地に貼付帯が施されたもので、貼付帯には縄文が施されている。67は刺突文が施されたもの。68は縄文地にボタン状の貼瘤が付けられたもので、貼瘤には刺突が加えられている。器面には細い沈線文も施されている。

g (69, 70) 大木10式に後続するとみなされるものである。69は縄文地に沈線で文様が描かれたもので、沈線に囲まれた部分は縄文が磨り消されている。70は頸部が内傾する広口壺のような器形の薄手の土器である。口縁部に無文帯を残し、頸部には細い沈線で縁取られた磨り消し縄文が施されている。

3、4、75~80はA-1類の底部である。

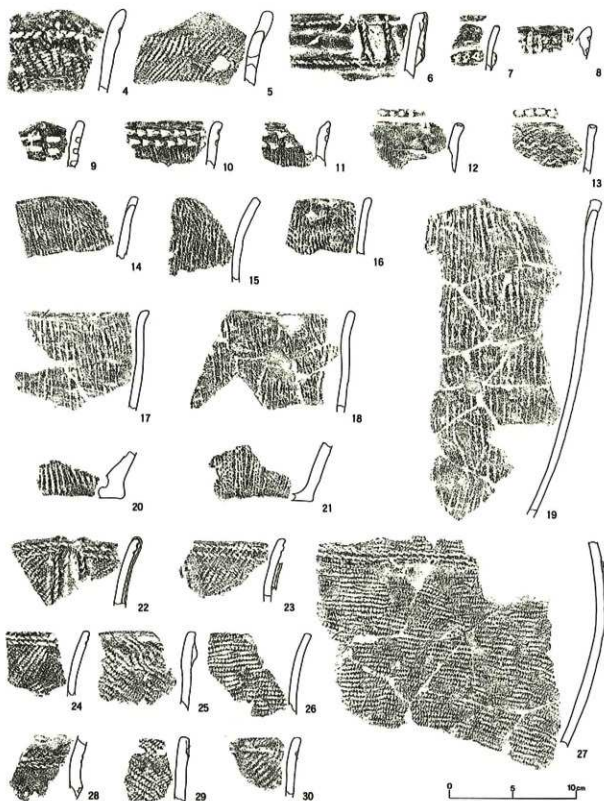
A-2類 (71~74) 大津式に似るものである。71, 72は口縁部に山形の突起の付くもので縄文地に丸い棒状の工具で沈線文が施されたものである。73は口縁部が外反するものである。74はやや薄手のもので無文地に沈線文が施されている。A-1類fに含まれるものかもしれない。

Ⅳ群B類土器 (図Ⅲ-164-1~4)

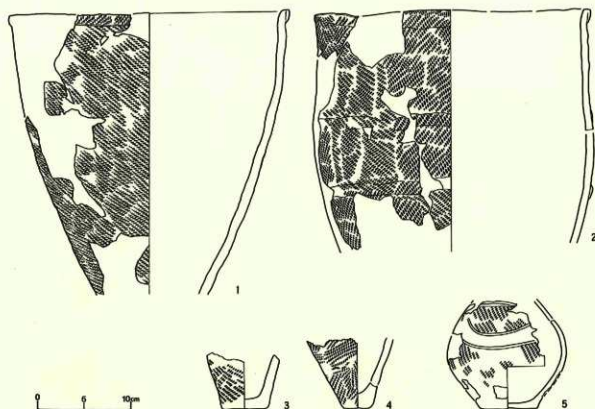
1は口縁部に刻目のあるもので口唇断面は内側に肥厚する。2~4は口縁部に無文部を残し、縄文地に沈線文が施されるものである。1~4は丁寧に調整されている。

Ⅳ群C類土器 (図Ⅲ-164-5~9)

5は爪形文と沈線文が施されたもの。6は注口土器。7、8は注口土器若しくは壺形土器の体下半部の資料。9は注口土器若しくは壺形土器の底部。



図Ⅲ-159 包含層出土の土器(7)

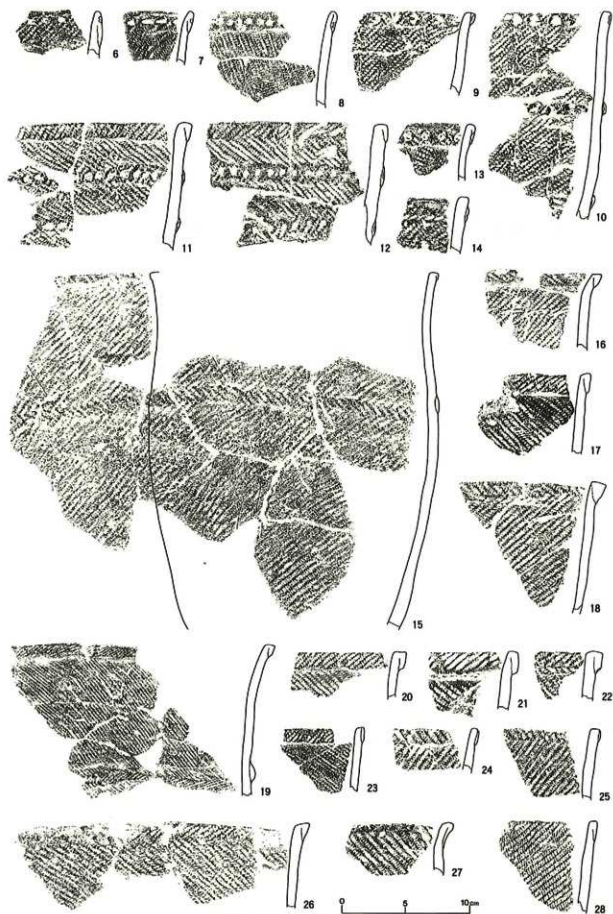


図Ⅲ-160 包含層出土の土器00

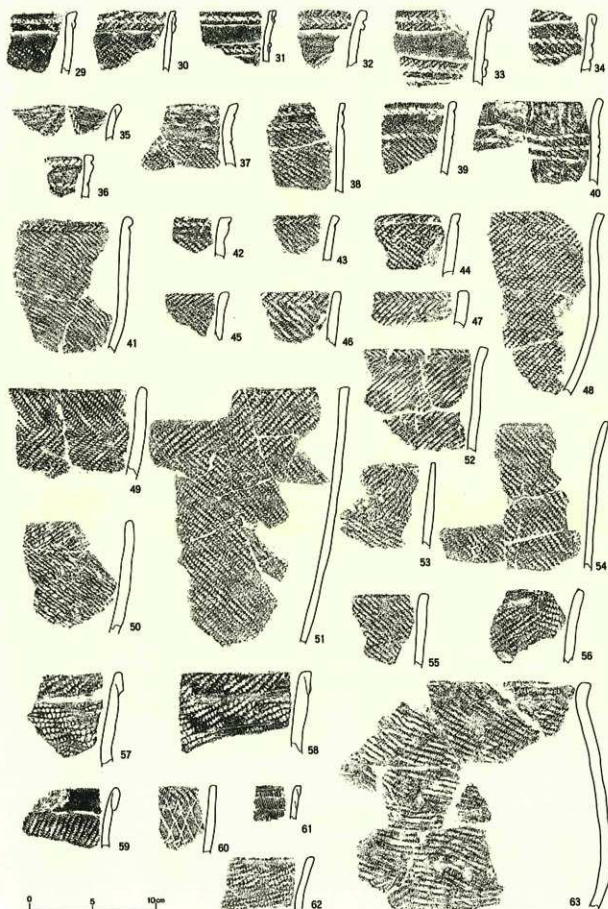
V群土器 (図Ⅲ-164-10)

10は口縁部に大きな突起の付く鉢形土器で、体部には縦走る縄文が施され、口縁部には縄文地に沈線文がめぐる。沈線文の文様帯には小さな貼瘤が2か所付けられている。口縁部の内面にも沈線文が施されている。

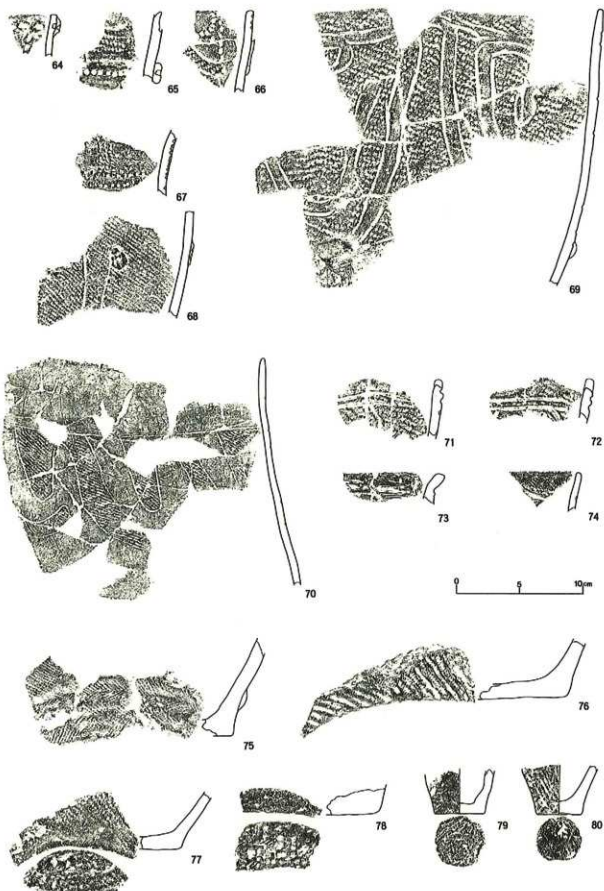
(工藤研治)



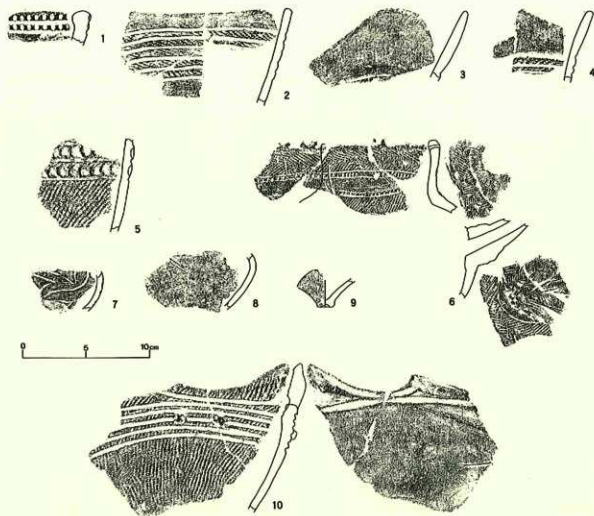
図Ⅲ-161 包含層出土の土器(9)



図Ⅲ-162 包含層出土の土器②



図Ⅲ-163 包含層出土の土器②



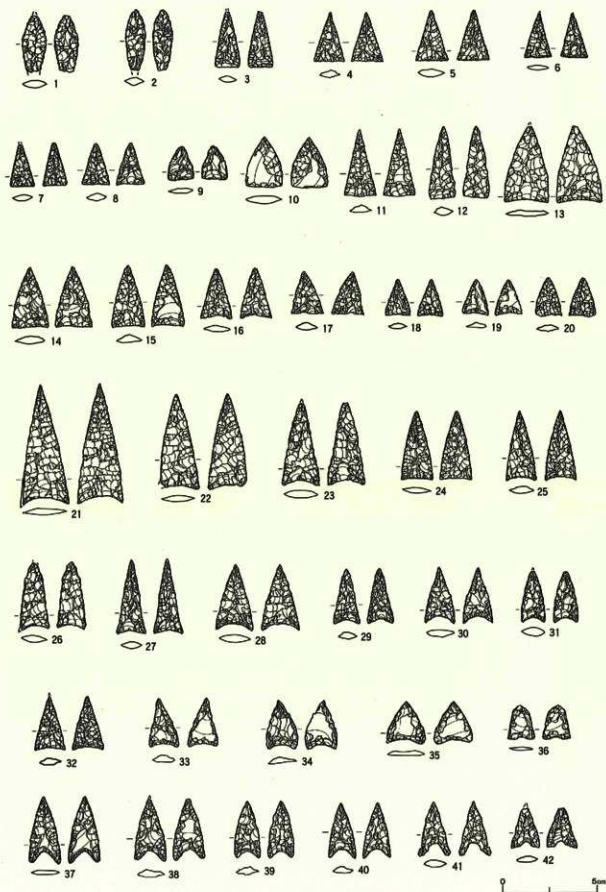
図Ⅲ-164 包含層出土の土器②

(2) 石器等

剥片石器

1～90は石鏃。無茎のものと有茎のものとがあり、無茎のものは基部が内湾するものが多い。1～42は無茎のもの。1、2は薄身で柳葉形を呈する。1は先端部、基部を欠失する。裏面に素材面を残す。3～12は三角形鏃で平基のもの。3は黒曜石製。丁寧な加工で側縁を直線的に整形し、返しはやや丸みを帯びる。4、5は丁寧な加工で基部及び両側縁を直線状に整形する。6は一方の返しが丸みを帯びる。8は側縁中央でやや屈曲する。9は雑な加工で、先端部がやや厚く左右非対称である。10は周縁加工のもの。基部の剥離は細かい。11は裏面に素材面を残し、両側縁に微細な剥離痕が認められる。12は厚手で左右非対称である。13～42は凹基。13～20は基部の内湾が軽微なもので、側縁は浅く外湾するものが多い。雑な加工が施され、左右非対称なものが多い。13は大形で裏面に素材面を残し、加工はやや雑である。14は裏面右側縁に浅い抉りが認められる。15は裏面が周縁加工のもの。17は黒曜石製。基部中程に浅い抉りがある。19は周縁部が裏面からの加工で作り出される。20は先端部がやや厚い。21～36は基部の内湾が浅いもので、側縁は外湾するものが多い。21～31は比較的長身で、28～36は幅が広く鉄身の短いもの。21、22は丁寧な両面加工が施され、薄身に作り上げられている。21は表面左側縁下部に欠損と考えられる基部を打点とした槌状剥離が認められる。22は一方の返しを欠失する。23は裏面の基部側は加工があまり施されない。24、25、32は丁寧な加工が施され、薄身に作り上げられている。26は先端部が厚く丸みを帯び、石錐に転用するために再加工を行なっていると考えられる。27は側縁が基部付近で外側にやや屈曲する。29は側縁の剥離がやや深く、弱い鋸歯状を呈する。30は裏面に素材面を残す。31は黒曜石製で厚みがある。33～36は作りが粗雑なものでいずれも未成品の可能性がある。36は黒曜石製で先端部は丸みを帯び、石錐に転用している可能性がある。37～42は基部が深く内湾するもので、側縁は42を除いて外湾する。37、38は両面に素材面を残す。39はやや厚手のもの。40は丁寧な加工が施される。41は黒曜石製で左右非対称のもの。42は両面の一部に黒色付着物が認められる。43～72は有茎のもの。43～48は幅広で明瞭な返しをもつ。43は厚身のもの。45、48は黒曜石製。45は側縁がわずかに内湾する。48は茎が長い。46は両面の基部に黒色の付着物が認められる。47は左右非対称である。49～55は細長く、側縁が外湾するもの。断面形は分厚いレンズ状を呈するものが多い。49～51は両面の基部付近に薄く黒色付着物が認められる。52は裏面は大きく素材面を残し、側面は素材の形状の影響で、やや反る。56～58は凸基で返しが丸みを帯び、側縁が直線状を呈するもの。56、58は厚身で断面形は菱形に近い。56の茎端部は尖る。59～73は比較的小形のもの。全て有茎凸基で、基部が長いものが多い。59～66、68～70は断面形は厚いレンズ状で、返しが丸みを帯びる。60は一方の返しが不明瞭である。61、66、71は先端部が丸みを帯びる。64、65、72は加工がやや雑なもの。67は薄身である。73は黒曜石製。74～79は菱形鏃で全体的に薄身である。74、75、78、79は基部が弱く内湾する。74、75は丁寧な加工で薄身に作り上げられている。77は部分的に焼けはじけが認められる。80～90は木葉鏃。80～83は尖基のもの。80、82は厚身で加工は雑である。81、83は薄身で丁寧な加工が施される。84～90は円基のもの。素材面を残すものが多い。84は最大幅が中央よりやや上にある。87は裏面に焼けはじけが認められる。90は黒曜石製。

91～97は石槍。91、96は剥片素材ではなく偏平な礫を素材とするが、その形状から石槍に含める。91～93は有茎のもの。91は周縁加工のもの。側縁は細かい加工で整形している。92、93は茎部がおおきく、返しが弱い。92は黒曜石製で多量の球顆を含む。94～97は木葉形を呈する。94、95は円基。94は丁寧な両面加工が施される。95は側縁中央やや下に対向する浅い抉りがある。抉りより上方では微細な剥離痕が認められ、身部と考えられる。尖頭部付近は左右非対称で、尖頭部の再加工を行なって



図Ⅲ-165 包含層出土の石礫(1)

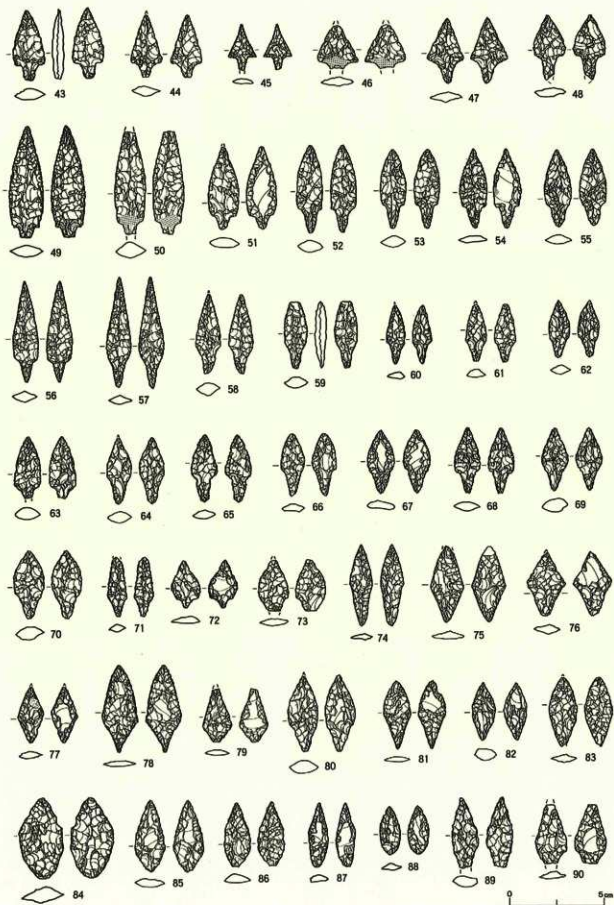
いる。96は細かな周縁加工が施される。97は裏面より表面の方が細かい加工が施される。

98~104は石錐。98、99は素材剥片の両側縁に細部加工を施し、尖頭部を作り出すもの。柄部と尖頭部の区分は不明瞭である。99は表面左側縁は折れ面で折れ面の形状をそのまま利用している。裏面は剥離は散発的である。100、101は棒状のもの。共に素材面を残す。102、103は大形で丁寧な両面加工が施される。102は柄部が作り出される。104は縦長剥片素材で末端部の形状を利用して尖頭部を作り出すもの。

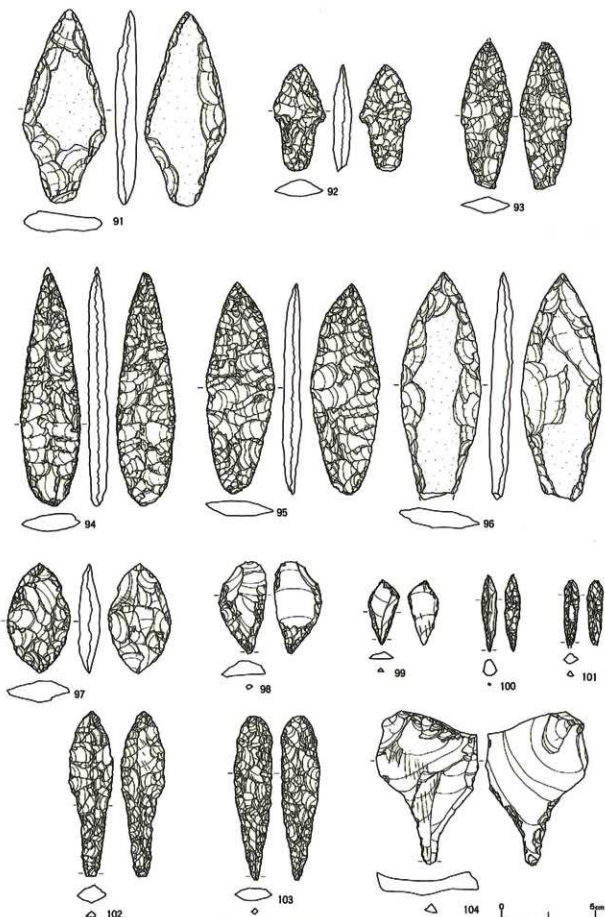
105~158はつまみ付きナイフ。ほとんどが縦長剥片素材で側縁に微細な剥離痕を残す。片面加工及び片面加工で腹面の1側縁に細かい加工をもつものが多い。105~107は両面加工のもの。共に丁寧な加工が施される106はほぼ左右対称である。107は不純物を含む黒曜石製。108、109は半両面加工のもの。108は裏面はつまみ部と先端部にのみ加工が施される。形状はややすづまりで、刃部の再加工によるものと考えられる。109は表面に比べ裏面の加工は粗い。110~142は片面加工のもの。ただし、挟りは両面からの加工により作り出される。110~117は側縁が直線状もしくは湾曲が弱いもの。110、117は先端部が丸みを帯びる。111は刃部再生を行っており、側縁に微細な剥離痕が認められる。112は自然面を残す。113、116は稜線が右に偏る。114は断面が半円状を呈する。118~122は湾曲が著しいもの。118は右側縁が刃部の再加工により大きく内湾する。121は両面にわずかに黒色付着物が認められる。122は横長剥片を素材とする。123~142は背面右側縁に急角度の刃部が作り出されるもの。稜線は右側に偏り、腹面右側縁に細かい加工が施される。123~135はつまみに対して末端部が斜めになり、刃先が尖るもの。123、125、130は腹面末端部にも細かい加工が施される。126は背面両側縁に刃部の再加工と思われる細かい剥離が認められる。末端部にも細かい剥離が認められるもの(131、132、135、136、138)と認められないものがある。131、136は腹面左側縁に部分的に加工が施される。133は部分的に焼けはじけが認められる。134の末端部の折れ面に刃部を作り出している。136~142はつまみに対して末端部がほぼ直角になり、末端部に向かって側縁が広がる。136、137は薄身で、精巧に作られている。140は背面に大きく素材面を残す。142は他のものと逆で背面右側縁に急角度の刃部を作り出すもの。稜線は左に偏る。腹面左側縁に細かい加工が施される。143は両面周縁加工のもの。横長剥片を素材とし、腹面右側縁の加工は雑である。144、145は両面の右側縁に加工が施されるもの。144は両側縁共に微細な剥離痕が認められる。145は横長剥片を素材とし、側縁に打面を残す。146~155は片面周縁加工のもの。146~149、152は先端が丸みを帯び151、153~155は先端が尖る。147は表面に自然面を残す。148、151は丁寧な加工で小さいつまみ部を作り出す。156、157はつまみ部と側縁の一部にのみ加工が施されるもの。共に背面左側縁に微細な剥離痕が認められる。158は横形のつまみ付きナイフ。背面は全面に丁寧な加工が施される。右側縁に微細な剥離痕が認められる。

159~166は筥状石器。横長剥片を素材とし、形状が四角形に近いものが多く刃縁は直刃ないし浅く外湾する曲刃である。また加工の特徴として、腹面周縁部と背面に加工が施される半両面加工のものが多い点が挙げられる。159、162は打面を残す。159は背面は打面部以外の3辺に周縁加工を施し、その後に背面に加工を施している。160、161は腹面の刃部の加工は粗雑である。161は表面4辺共に微細な剥離痕が認められ、4辺を機能部としている可能性が高い。両端部は片刃で、両側縁は両刃である。162は片刃で刃縁には微細な剥離痕が認められる。背面は側縁のみ加工が施される。163は表面右側縁に打面を除去するための加工が施される。164は全体の加工は雑だが、両端は丁寧な加工が施されているため、両端共に刃部として使用している可能性がある。165は上部の欠損後、折れ面から再加工が施される。166は裏面左側縁は素材の形状を生かしている。

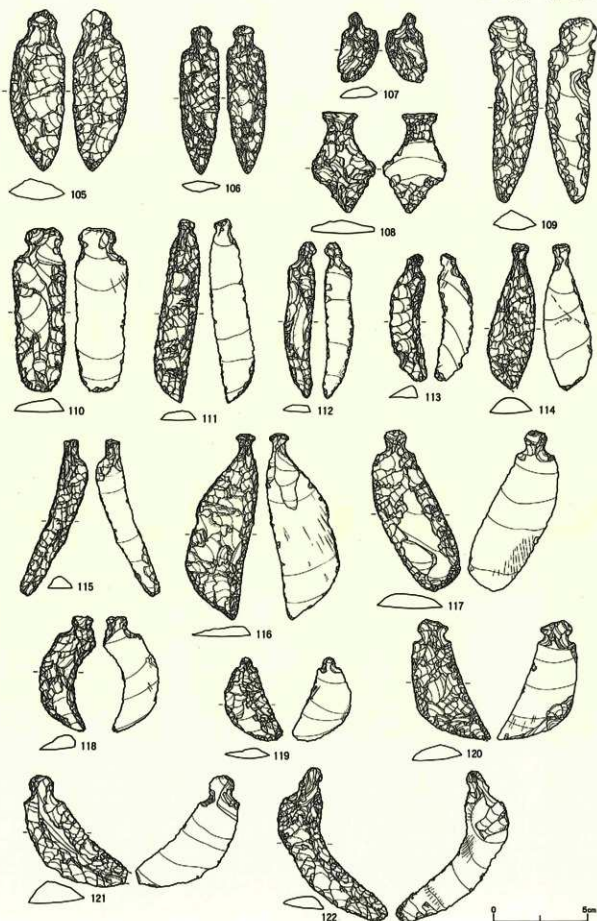
167~212はスクレイパー。縦長剥片を素材とし、素材の長辺に外湾する刃部を作り出すものが多い。



図Ⅲ-166 包含層出土の石器(2)



図Ⅲ-167 包含層出土の石器(3)



図Ⅲ-168 Ⅲ層中・下部の調査